通　信　NO1　石川恵一

レポートが大変遅くなり、何人かの方々には入らぬ心配をおかけして済みませんでした。遅くなりました原因は、安のワープロが遅いのではなく、また全国的な自粛ムードの中で自粛していたわけもありません。書かなければと思いつつ、時間が無為に過ぎてゆき、先日、安に催促されてようやく今、趣味としている山歩きのことを、思い就くままに書いてみようと、ペンをとりました。
きれいに、かっこよく書こうなど思うと、少しも筆が進まないので、羅列するだけになってしまうかも知れませんが、思い付くままに書いてみます。
先日、この秋初めての寒波と言える寒気団が、日本列島を襲いました。各地の山々では、初冠雪が記録されました。温度も１１月の下旬並みにまで下がり、冬の到来を感じさせたものです。
そんな中、谷川岳で何組かのパーテイが遭難、何人かの死者をも出しました。ニュースによると、谷川岳の肩の小屋の500メートルほど東とのことと言うことは、西黒尾根、ザンゲ岩の近辺ではありませんか。ちょうど1ケ月前、9月１6日歩いてきたばかりの所ではありませんか。あの時はガスがかかってはいたが、ルートを見失うほどのことではなかった。唯、吹雪の中でルートを見失うことがどれほど恐ろしいことであるか、想像するに難くない。不安が、そして恐怖が、精神を支配するようになると、何物をも見えなくしてしまう名にも考えられなくなってしまう。僅か500メートルほど先に、肩の小屋という頑丈に造られた避難小屋があるということも考えられなくなってしまう。山の恐ろしさを改めて認識させられました。
今年は春先から異常気象が続き、雨が多く、特に9月は、東京など雨の降らなかった日が僅か２日という異常ぶり。そんななかで９月４日、栃木県と群馬県の県境にある奥白根山に登山しました。日光いろは坂を上り、中禅寺湖、戦場が原を抜け、湯元温泉で水を補給、金精道路を上り、県境の金精トンネルの入り口の所の駐車場に車を止めました。そこから歩きはじめて、金精峠まで一気に直登、晴れていれば樹の間ごしに湯の湖、戦場が原が見えるはずなのに、ガスが濃くて一面乳白色。金精峠で尾根道に出てからは、尾根づたいに鮮やかな紫色の小さな釣鐘のようなトリカブトの咲く中を、五色峠に向けて足を進めました。途中、いくつかの見はらし台があるのですがガスの中で何もみえず、金精山は群馬県側をトラバース。樹林の中を１度下り、それから石楠花の群生するなかを、五色峠へ向けてゆるい登り、ガスの精か、いつの間にか髪の毛がしっとり濡れていた。でも汗がでないだけ歩きやすく、顔に山の冷気が心地良かった。五色岳の頂上は平坦な広場、ひと休みしてから奥白根との谷あいにあるミダガ池と向かう。ガスが動き始め徐々に上昇し始めた。ガスが晴れることをひたすら期待した。そして遂に、ゥッスラと奥白根山2,586メートルの山容が姿を表した。眼下に五色沼がその名のとおり池の畔から白色茶灰色、ブルーそして濃緑と中心部に向かって変化していく色の彩を見せて、姿を表した。ほどなく、潅木と岩におおわれた奥白根の全貌が表れた。山はいい、素晴らしい、こんな感動を何と表現したらいいか判らない、こんな感動があるから山を忘れることができない。こんな感動を味わったらもう、山の虜だ。山の魅力、それは自然の偉大さではないかしら、しばし絶句。巨大な奥白根の前に圧倒的な偉客の前に立ち止まって仰ぎ見ることしばし、でも先を急がねば、いつガスがかかるかわからない。山の恐ろしさは既に何度か経験しているはずだ、弥陀が池と五色沼を分ける鞍部から五色沼を分けて弥陀が池へ下り、そこで昼食、コッヘルを使ってお湯を沸かしコーヒーを飲む、これも山での楽しみの１つ、でも山の天気はいつ変わるかわからないから急ぎ片付けて山頂まで一気に登ることにした。
潅木の中を少し登ると、ほどなく森林限界。それから先は草づきのもろい岩場、ルートにそって慎重に進む。岩場をみつけながら進む、落石には注意だ。ここの岩は非常にもろい、あまり岩にたよってはかえってあぶない。ルートを慎重にとりながら山頂へと続く岩尾根へ出る。ここからは小さな上り下りをくり返せば関東一の山頂だ。周囲は奇岩が林立していて充分アルペン気分が味わえるこれから向かう山頂方面を見ても急峻な岩場で、ルートがあるのかと不思議に思えるくらいだ。
でもこの尾根道へ出てしまえばそう難しいところはない。この山何年ぶりだろうと感傷にひたる余裕もでてきた。岩場での小さな上り下りをペンキで印されたルートに頼ってくり返すと、間もなく山頂に立った。栃木県側はガスがかかっていて、戦場が原も男体山も見えない。群馬県側はガスが切れていて眼下に菅沼、丸沼そして足下に弥陀が池、五色沼がみえる。下山を急ごうと思っている矢先、ガスが上がってきたと思うと、たちまち、真白いガスにおおわれてしまい、今登ってきたルートですらわからなくなってしまった。山で油断は禁物だ。下山しようと帰路についたが、岩場で踏跡をたどることもできず、ペンキでつけられて

いるルート標示も濃いガスの為にみつからない。岩場でルートを見失うことが、どれ程危険な事か想像に難くない、いたずらに動かないことだ自分の居る場所すらわからなくなる。とにかく山頂に戻ることにした。自分の居る場所を確認することがまず必要だ。山頂に戻って登りに使った岩場ではなく、別のガレ場をたどるルートを下りることにした。時間的にはかなり遠回りになる。だが岩場と違って危険は少ない。それでも、このルートも慎重にいかなくてはならない。ガレ場をどこまでもたどっていくと、とんでもない沢へ入り込んでしまう。ガレ場の途中で左手に潅木の中に山道がついているので、それを見失わないよう、慎重に下りる。潅木の中の道をみつけたとき、やっと一息つくことができた。後は時間がかかるだけだ。これで遭難の危険は去った。途中、五色沼の水際を歩いたとき、湖面をわたるガスが、何とも表現しようのない幽玄の世界をつくっていた。白く透き通った、音のない静寂の世界を・・・・。
今年は5月の下旬、尾瀬ケ原から始まって6月7月と尾瀬、8月は栗駒山、9月奥白根山、谷川岳、と歩いてきました。10月には那須岳を歩く予定です。尾瀬、あるいは日光の山々でしたら、いつでも案内いたします。ルートはくまなくとまでいんないけれど、結構知っているつもりです。日光の山なら冬期でもない限り、遭難させるような案内はしない自信があります。山に親しみましょう。自然に親しみましょう。

18年をそれぞれに生きて、そして出会い4年間を、それも青春の真只中を共に過ごし、そして別れ、また18年が過ぎて再会、ちっとも変わってないですね、18年という時間を超えて、あの頃に戻ってしまった。アヒルは全く変わらずガーガーガーガー。長谷川君の「うん、そうだよなー」という納得のしかたも、おチョボのしゃべり方も「安藤昌益」忘れてはいません。村路さん、隣に並んで撮った写真なんて光栄な事あったっけ、真知子、いつか北海道へ大雪山に登ろうと思っています。伊藤さん、僕、アデランスではありません。ほんの少し白くはなっていますが・・・。
綾女、貴重な子育ての体験ありがとう。そして「安」ありがとう。そして皆んなありがとう。
レポートが遅くなって誠に申し訳ありませんでした。

ケイ

恵一からの「通信」読んで戴けましたか？
山にはとんと縁のない私ですが、読んでいて恵一が山を歩いている姿が浮かんできて、充分幸せそうなケイを感ずることができて、満足いたしました。
さて、次回ですが、誰だったか忘れてしまいました。そこで近くのよしみでアヒルにお願いするつもりです。彼女は近くの主婦の人達と一緒になっていろいろとやっているみたいです。是非、旦那の最近もふれて知らせて戴きたいと思います。
尚、この通信ですが、何かいいタイトルがあったらいって下さい。
次回の発行は12月ということですが、予定は未定ということで、発行したいと思っています
よろしくお願いいたします。　アヒル頑張って次回お願いします。

ヤス

通　信　ＮＯ２　平成１年１月

久々に再会できた楽しく嬉しいあの夏の日から五ケ月後、今、播州姫路から北の山奥にある我が家のまわりは、雪おこしの冷たい風が吹いています。通信ＮＯ１の恵ちゃんの文章を読んでいて、学生時代の恵ちゃんと山とが結びつかないんだけど、でもやっぱりロマンチストだったからあの文章はまぎれもなく恵ちゃんそのものなんだなぁと思って何回も何回も読み返して胸の内がふぉっと温かくなってきました。いつか恵ちゃんに案内してもらって尾瀬を歩きたいな（一回もいったことがないので）

さて、私は何を書こうかと考えたら、いっぱいありすぎて何から書き始めたらいいのかわからないのだけど、結局のところどれもこれも皆つながっていて、私達の日常の暮らしと切り放して考えることはできないし、私達が命あって生きている限り「それは私には関りの無いことです」なんて言えることは無いんじゃないかと思えるくらいいろんな人とつながり、いろんなことと関連しあって生きて生かされているのではないかと思います。私は四年程前から、住んでいる市川町の中で「食とくらしを考える会」という会を友人達と一緒に作って食べ物のこと、くらし全般のことで「おかしいな」と思うことを、何故なんだろうという疑問を通して少しずつ勉強しながら共同購入と形で人と人とのつながりの輪を広げていこうとしています。田畑をもっている家がほとんどという田舎にいながら、専業農家は私の近所では夫の同級生が脱サラで始めた有機農業と鶏の平飼いをしている一軒だけで、あとは兼業農家ばかり、現在の日本で農業だけで生計をたてていく難しさは田舎にいればこそよくわかります。食べて行ける農業をするには、化学肥料をどっさり入れた土地に、品種改良を重ねた種子をまき農薬を何回も何回も散布して形の良い色のきれいな平均したできの収穫物を出荷しなければなりません。化学肥料をいれた土はしだいにやせ細るばかりなので、病原菌や害虫の発生が多くなる。その為多くの農薬をまく。害虫の天敵である益虫や小動物はその農薬に弱いのでだんだん数が少なくなるのにくらべ、害虫は免疫をつけて生き伸びていき、更に毒性の強い農薬が開発されるという悪循環をくりかえしています。その悪循環の繰り返しの作業の中で、山や川や湖沼や海の自然形態が破壊され、その不自然の中から恵みしか私達の口に入らないようになってきています。近所でナスやピーマンを出荷している農家が、出荷するものとは別に、農薬をかけないナスやピーマンを作って自分達はそれしか食べないという実態があるのです。作る畑を持たない消費者にしたらこんなバカにされた話があるでしょうか、農家は使っているからこそ、農薬の恐ろしさを知っているのです。でも出荷する際の検査に通るのは、見た目にきれいな平均した大きさの物で無農薬で栽培するには難しいものです。ここに大きな矛盾があります。今の市場の流通の仕組みの中では買えない命の安全を守っていける野菜を求めた消費者達が、これも又農薬散布による命の危険性に目覚めた生産者と手をつなぎ、互いの命の保障をし合う形で始まったのが農家と消費者の産直の共同購入です。旬の物を自然の恵をいっぱいうけていただけるかわりに、不作の時も変化なしに農家の月々の家計を支えてあげられるような形態を作って、時には草引きや害虫取り収穫などの手伝いに消費者グループがきています。私達の会は、田舎なので米や野菜は各家庭で作っていますのでそれ以外の品で特に必要な物を生産者の方々に頼んで購入しています。例えば、低温殺菌牛乳、りんご、みかん、レモン、小麦粉、ちりめんじゃこ、煮干し、わかめ、干物、紅茶、醤油、酢、菜種油、砂糖、その他合成洗剤追放の為に、洗濯。台所用からハミガキ、シャンプーまで石鹸製品を扱っています。農薬の恐ろしさがわかってきたら、そこから合成洗剤の恐ろしさにも気づいてくるし放射能汚染にも・・・・・という具合に、一つに気づくと次ぎから次ぎへとつながってくるのです。学校給食もそういった取り組みの中から気づかされていきました。私達の町では、初めから給食センターで一括調理された給食です。小さい町ですから町全体で三千食という数ですが、やはりこれだけまとまった数になると安くて栄養化の高い給食を目指している町としては、無農薬で手間暇かけた野菜より安価で一度に大量に仕入れられる市場の野菜を購入し、添加物のいっぱい入った冷凍食品で手軽に栄養をとろうとします。「大きいことはいいことだ」みたいなコマーシャルに便乗したような栄養偏

重の考え方があるようです。そんな中で子供達はアトピーや喘息などのアレルギー症が急増し、体格は立派だが、骨が弱かったり、精神的に落ち着きのない子などができあがってきています。親としては、農薬のたっぷりかかった輸入物のオレンジやバナナをデザートに付ける位なら、そんなデザートはいらないから、その分安全な食べ物を選んでほしいと思うのです。又、現場で働いている調理員さんの為にも、一日も早く合成洗剤による食器洗浄をやめて、石鹸に切り換えて欲しいと思い、ここ二年近く運動をして町に働きかけやっとのことで来年度新設の給食センターでは石鹸使用のできる洗浄機を購入してもらえる約束を取り付けるところまでいきました。一人一人の親がそれぞれの所でブツブツいってもいても学校や町には少しも届きませんから、同じよう疑問を持ったものが手をつないで少しづつでも言い続けていくということは、何と大きな力になることかと思らされました。石鹸の件では一歩前進しましたが、学校給食にはまだまだ問題がいっぱいなので、添加物のこと農薬のこと購入先のことなどこれからもずっと勉強会をしながら調理員さんと一緒になって子供が安心して食べられるおいしい給食を目指してやっていきたいと思っています。

さて、ここまで食べることを通して気づかされたことをいろいろ書いてきましたが、今の世の中皆に一番恐ろしいものとしてもっと危機感を持って見詰めて欲しいものが原子力発電所とそこから排出される核廃棄物です。堆肥を与えた健康な土で無農薬で野菜を栽培しても、合成洗剤や産業廃棄物をたれ流さないきれいな川や海からとれる魚があっても、化学飼料やホルモン注射や密飼いでない健康な鶏や豚や牛肉が食べられても、食品添加物なんか一切禁止されたとしても、原発の大事故が日本であったとしたらそんなもの何の役にもたたなくなってしまいます。この一月から「脱原発法」を制定させる署名運動を全国的に展開しよう！と呼び掛けている人々がいます。原発関係の著書を書かれている高木仁三郎氏ほか多くの原発に反対する活動を続けている人々です。「脱原発法」の骨子は

1、建設中、計画中の原子力発電所及び核燃料サイクル施設は直ちに廃止する。
2、運転中の原子力発電所及び核燃料サイクル施設は一定の経過措置の期間内にすべて廃止する。
3、放射性廃棄物は地下や海底に捨てたりせず、国民の目の届く所で発生者の責任において管理する。

という内容のものです。国民投票制度のない日本で可能な、実質的な「国民投票」になるこの署名活動がこれからの脱・原発運動の大きな柱になることでしょう。青森、下北の核燃料サイクル基地廃止の運動と共に盛り上げてゆけば、更に廃原発への道が開かれてゆくでしょう。この法制定運動は、形骸化した民主政治に風穴を穿つ、直接民主制の実現ともなりますし全力で取り組みたい運動だと思っています。皆さんの中からも是非この運動に参加して、脱原発の力になっていく小グループを作っていただきたいと願います。詳しいことを知りたい方はわたしの方までご連絡下さい。お待ちしています。最後に何故原発に反対なのかという理由を簡単に書いておきます。そもそも原発炉とはプルトニウムを作る為に設計された。原爆を作る為である。その余熱で発電を始めた。原発廃棄物は、つまり原爆の原料である。戦争は嫌いだから、唯一被爆国の一員として反対。原発のゴミ、核廃棄物の行く末は処理とはいっても結局埋めるだけ、その放射能の影響は誰にもわかっていない。そんな行為は人類への犯罪だから反対。原発はよく小さな故障をする。修理に孫請け労働者が炉内に入り被爆している。他人を被爆させて自分が電力を受ける国内的な犯罪だから反対。取り返しのつかない大事故が起こることはすでに二度までも実証された（スリーマイル島チェルノブイリ）しかし安全性は全く保障されていないから反対、そもそも原発の原料は南アフリカ支配下の国ナミビアや南アフリカから輸入されている。原発を稼働すると南アの経済を潤し人種差別を支える。差別は人類最大の国際犯罪だから反対。　以上

追伸、我が連れ合いの青木君は夏には皆さんにお目にかかれなかったしするので、一言何か言いたいだろうと思って書くようにすすめたのですが、何しろ結婚以来１５年間お盆正月ゴールデンウイークなどの休みはなく、普段でも二日連休をとったのは、友人と弟妹の結婚式の時だけという過重労働に堪えて働き続けていますので、今回も正月明けの初めての休みは一日中体を休めるのみという暮らしぶりで、これ以上原稿が遅れると迷惑がかかりますので、ただ一言書けない弁解をしておいてくれということですのでご了解ください。又忙しい時期を外れて順

番が回って来たときには、必ず書くようにいっておきます。

恵ちゃんの原稿を待って待って楽しみにしていたのに、私も１ケ月遅れになってしまってごめんなさい。

今年は同級生のほとんどの男の人が、四十二才の厄年に当たっていますが、あまり気にせず、でも節目なんだと思って体には呉々も気をつけて良い一年になるように日々を大切に生きていって下さい。もちろん女の人もステキな四十代の始まりに乾杯！という気持ちで自分を大切にして生きていきましょうね

アヒル

１９８９年1月１２日

以上がアヒルのメッセージでした。次回、通信ＮＯ３はアヒルの指名で迫田章朗君がメッセージを送ることになりました。ご期待ください。

アヒルの中にもありましたが、男４２才、まだまだ若いと思っていますが、厄と聞けば何かしら、心落ち着かず、今年は初めての健康診断でも受けてみるかという気になります。皆さんはいかがでしょうか？当社は創業して間もない（１０年）為に社員は非常に若く、社長が４８才でその次ぎが私の年です。たまに社員で飲みにいきますと、カラオケで歌う唄の半分以上は誰の歌か不明です。しかし、今年私はがんばりました。新年会で長渕剛に挑戦いたしました。歌は「とんぼ」です。最初のウウウーウーウというところが何かしら私の感性とそぐわなく、長渕と違ったそうですが、自分では満足しています。社員の喝采を浴び、ではではと次の曲、近藤正彦の「あぁグット」をママに注文いたしますと、ママ「安福さんは、吉幾三の「酒よ」がいいよ、あれはいい、うん、あれにしな」といわれてしまいました。実はひそかに「あぁグット」も練習を重ねた歌で自信はあったのですが、社員もママにのってすすめました。結局「酒よ」を歌ったのですが、物足りなく、本当はその店で帰るつもりでしたが、更にもう一軒飲んでしまいました。昔から徹底する私の良さは今も健在です。

安福義郎

通　信	NO.3 記事	1989.3.4 迫田　章朗

春

暖かかった冬を押し退けるように、“春一番”が外では吹き荒れている。子供の元は、少年野球の背番号『３』で、グランドを跳ね回っている。妻はというと、江戸川区に住む日中学院の老師の所で、中国語でお喋りをしている。今は土曜日の午後、僕は遅れてしまったこの原稿を書きながら、「安福氏に申し訳ない」と焦っている。しかし、世の中、平和である。親子三人勝手気侭な週末の一時である。「今夜もまた、夕食は大根おろしと鯵の開きか」などと、晩酌の肴のことも心配してみる。「いや、待てよ。ひょっとして中国語の老師の所から手作りの餃子を持って帰ってくるかもしれない」とも考えてみる。

『鯵の開き』と『手作り餃子』、どちらも日本を代表する庶民的平和料理であるが、あと、旬だから『菜の花の御浸し』が付いていると、渋くて最高の食卓なのであると思う。これで、今宵の迫田家の晩餐会が窺い知れよう。

PACO DE LUCIA SEXTET 1989

１月28日（土）東京厚生年金会館で、スペインから来日した黄金の炎のギタリスト“パコ・デ・ルシア”の公演を親子三人で聴いた。実に感動的であった。僕が彼を知ったのは、十数年位前の話であるが、ＮＨＫ・ＦＭの番組だった。夜寝つかれないのでＦＭをつけたら、流れてきたのが、彼の曲だったのである。余りに衝撃的だったので、翌日、ＮＨＫに問い合わせて尋ねたほどである。以来、彼のＬＰを購入し、ステレオはＳＯＮＹのリバティ、スピーカーはＢＯＳＥを使用して楽しんでいる。

新婚時代、ギタリスト“荘村清志”を聴いて以来の公演鑑賞であったが、今回は子供の情操教育も兼ねていた。僕は子供には、あらゆる経験・体験をさせようと常日頃から考えているので、千葉在住という地の利も大いに活用し、新宿まで出掛けて、子供に本場スペインのギターをわざわざ鑑賞させたのである。結果は大成功だった。帰り際、新宿の赤提灯で、子供は焼きオニギリを頬張りながら、リズミカルにパコ・デ・ルシアに絶賛の言葉を送り出していた。僕は杯を傾けながら、妻の顔を見やった。妻は満足そうにパンフレットに目を落していた。親子三人それぞれのパコ・デ・ルシアを抱えて、その夜、家に辿り着いたのは午前０時少し前であった。パコ・デ・ルシアの音楽性については、スペースの関係上、ここでは語ることを避けるけれども、一度聴いてみれば、「論を待たない」ということだけは間違いないと思う。

湖南省・永順県・和平郷・双鳳村

昨夏８月下旬、僕はこの村の麓にいた。東洋史の谷口助教授を団長とする『中国少数民族訪問団』の一員として家族で参加していたのである。目的地は武陵山系の奥深く、歩きで二時間の登りばかりの山道を越えて、“土家族”の部落だった。僕は、後輩の佐藤氏（県立船橋高）と妻を従えて（本当は、付き添って貰って）、最後尾を歩いていた。あと３Kmを残す位の所で、僕は完全に顎を出してへたばってしまった。登りの傾斜角度は、45度もあるかのように見え、一歩も歩けなくなってしまったのである。引き返すことはできない。訪問団に迷惑を掛ける。喉はカラカラだ。

その時、ガイドの土家族の青年が清水をどこからか素早く汲んできてくれた。中国では「生水は厳禁」である。しかし、この際そんな話など関係ない状況である。僕は深く味わいながら喉を潤した。今迄に飲んだ水の中でも、これ程の美味しさは感じたことはなかった。佐藤氏も一口二口喉ごしに「うまい！」。中国もここまで奥地に入ると日本にも劣らない清流である。農薬の心配もさらさら無い。

ところで、喉の乾きは取れたわけだが、部落までの残り３Kmの行程が立ちはだかったままであった。山上から土家族の民族音楽が聞こえてきて、歓迎と同時に僕を励まし、気力を鼓舞するようにリズムを刻んでいる。数ｍ登っては一休み、これでは夜になってしまう。そう思った時に、ある人物が登場した。僕よりは若い。三十代前半の小柄な痩せた男であった。履いていたビーチサンダルを脱ぎ捨てると、彼は一言何か囁いた。僕を背負って登るというのである。問答無用。僕は彼の背中に揺られ傾斜面を瞬く間に百ｍばかり担ぎ上げられて、歓迎の音楽隊のいる前に降ろされた。盛大な感動の拍手の渦の中、平坦地になっている所をヨロヨロと歩き始めたら、二番手の男に、そして、三番手の男にと背負われてしまい、遂には僅かな下り坂を残すだけで、下方に目的地の部落を見下ろす所まで来ていたのであった。

僕を背負った一番手の男、それが『彭家海』という人物である。土家族・双鳳村の村長であった。部落を指揮する人物が率先して、このひ弱な外国人を背負ったから、次々に協力して僕を運んでくれたのである。こんな取るに足らない話の中にも、指導者たるべき者の偉大性というものがあることを、僕は彼等の背中に揺られている時にしみじみ感じ入った。僕は、村長に対して何度も「謝々！　対不起」を繰り返した。

『彭』家は、土家族では由緒ある家柄である。また、僕は中国少数民族・土家族に背負われた唯一の日本人である。

おわりに

近況報告を終えて、次は、長谷川勉氏にお願いしたいと思います。

お元気でしょうか？

「通信ＮＯ３」を発行します。迫田君の楽しい話題です。

実は迫田君からはずっと以前に原稿を戴いていて、しかもワープロで作成したものであったにも拘わらず遅れてしまいました。

すでにご存じのように私は現在酒造メーカーに勤務していまして「富久錦」と申しますが、３月８日に排水処理で県警の摘発を受けました。その事後対策で今日まで追われ遅れてしまいました。

言い訳でもなんでもなくて今まで最も重視してきた地域の人との接点を自ら壊す結果となってしまいましたが、設備等神経をつかってきたのは同業他社でも最も当社と思います。３年前に排水設備を多額の投資で整えましたし、この設備は全国的にみても有数のものと誇っていましたが残念なことにパッキンの摩耗で排水基準を上回ったようです。

この件でいろんな経験をいたしました。３月８日は出張だったのですが急遽帰社命令が下りその後は毎日午前２時３時が続きました。迫田君の通信が気になっていましたがそのような理由で今日になりました。申し訳ありません。

次回は長谷川君ということです。又楽しい話しが聞けそうで心待ちしています。

それに、「通信」という題ですが何か良いのがあったら提案下さいとお願いしていましたが別にないようなので「通信」を「通心」と変えて発行したいと編集長の独断で決定いたしました。よろしくお願いします。

安福

通　　心

NO４平成１・６
長谷川　勉

“量と質”あるいは“量か質か”

翻訳ものの推理小説、ＳＦ小説で３０～４０冊。日本の小説、ノンフィクション、１０～２０冊、これが文庫本。

文学全集２～３冊、雑誌を１、２、冊、児童読物で、おもしろそうなやつを２～３冊。

まぁこんな所が、大体の平均て所だろう。

さてさて、これが、現在の私の、月間読書量・・・・・・・だったらいいのになぁ！　本当に残念ながら、実は通常１回の本の購入量が正解なのです。

まぁ文庫本で、１００冊なんて時もあるので大体の所、こんなもんだろと思います。実際、正確な数量なんて、覚えてないし、必要でもないんですけど。

こんな買い出し行が、月に２～３回位。以前には、４～５回（つまり毎週）なんて事もあった。だから当然の事として、私の変形四畳半の部屋は、本であふれ返っている。本の間に万年床が辛うじて確保されているという実常です。　もちろん廊下や他の部屋にも大分浸蝕は進んでいるんですが、２階の方にはまだ我が奥様のお力で、何とか進出をくい止めてあります。

現在、文庫本を主に買って、単行本を整理する様に心がけてはいるんですが、溜まる一方で一向に減る気配はありません。

大体が１回に買う量が少々多すぎるのかも知れません。本人も常々そう思う今日この頃なのです。　　しかし、何故こんなメチャ買いの様な買い方をするのでしょうか？

それは、日頃溜まっているストレスを発散させているという面もあるでしょうが、実はもう一つ、ただ単純に私が“ケチ”だと言う理由の方が大きい原因だと思われます。では何故（又なぜですが）“ケチ”が多く買うことの理由になるんでしょうか、それも簡単、量を買うとより多く満足できるから得した気がするから。とまぁなんと低次元ではありますが、正直な答えが考えられます。　　そうそう今まで話していませんでしたが当然、お気付きの事と思いますがこの本の話はもちろんすべて新刊書の事ではなくて古本の話しなのです。

近頃は本屋さんは良くのぞくのですが新刊書は雑誌でもほとんど買いません。何かとってももったいない感じがしてしまうからです。と言うのも実は、約１年半位前になりますが、近所のＳさんという古本屋さんと知り合いになりました。　Ｓさんの店はブックセンターＳと言うんですが、ちっよと変わった店なんです。一般の古本屋さんと同じように小売ももちろんしていて、夜遅くまで子供のお客も多いんですが、少し違う所は仲間の古本屋さんに売る古本屋さんの卸屋さん。問屋さんという性格のお店なんです。

さて、肝心な本の値段ですが文庫が６０円、雑誌、単行本、新書が１００円です。文庫本の場合昨今だいぶ厚めのものも多くなってきて定価の方も７００円～８００円位のものもざらにあります。これも定価になりました関係なく１００円のものも２００円のものも一律に１冊６０円と言うわけです。

単行本の方は、普通の古本屋さんと同様に定価に応じた値段を付けている棚も少々ありますが（このついている値も並の古本屋さんで付けているのが、例えば６００円位だとすると大体４００円位とかなり安い）店の大部分は１００円均一なんです。神田などの古本屋街で、店頭のワゴンなんかにのせて売っている、あの１００円均一、一山１００円なんて言うあの感じで店中満たされている。と言ったら少し感じがつかめてもらえるかも知れません。

１００円均一、６０円均一の古本屋さん何て言うとかなりヒドいもの、えらく汚いものしか置いていないと思われるでしょうが、さにあらず、かなり程度の良い本が多いんです。

特に文庫本なんていうのは、昨日新刊で出たばかりなんていう美本がめずらしくありません。さらに、Sさんが私の好みの本を知っていて、外国の推理小説なんかを取っておいてくれて、少し溜まると「入りましたよ」と電話をくれる仕組みになっているんです。

ざっと、こんなわけなので、私の机の上はもちろん引き出しの中まで、本がいっぱいと言う事態になってしまうのでした。

さてさて、これからが一番大事な、本題、この買って来た本は一体どうなるのか、なっているのか、と言う点ですが、これが、ご推察の通り、ほとんど全然、読んでないんです。読む時間が無いんです。テレビやビデオは見る時間は充分あっても読書の時間て無いんです。

新聞は隅から隅まで読む時間はあっても、本を読む時間というのは、やっぱり無いんです。

こんな事を考えると・・・・・・あぁぁ・・・

話は、いよいよ読書論、人生論へと入っていくんですが・・・・・・。

この話し、続く・・・・・かも知れない。

読んで思わず吹き出してしまいました。楽しい長谷川君の「通心」でした。

先日、出張で北海道に行きました。真知子と会いましたが元気でした。私の得意先の酒屋に呼びまして、（もちろん酒屋と真知子は初対面）食事を出していただきましたが、蟹、うに、筋子、ほたて、蛸、いやいや出るは出るは、酒も美味、肴もまた良し、北海道の人の大らかさ（真知子の遠慮のなさも）に感激しました。したたか酔っていびきをかいて寝ておったですぞ 。私なんぞは・・・。

さて、次回のメッセンジャーは、アヤメこと羽田綾女さんです。　ご期待下さい。

安福義郎

通　心

NO5　平成1,9

羽田綾女

送り盆は、大雨で送り火がたけず、御灯明をともして、父母、祖母を想った。

夫が、大阪に単身赴任して一年がすぎた。

子供たちの部屋の明かりも消えた。　座卓に向かう。

今日の夫へのたよりは、月見草にしょう。今頃は切り通しに頼りなく、雨にぬれて花も開かずにいるだろう。

「富士には、月見草がよく似合う」と太宰治にうたわれ、七月に入ると道端に土ぼこりにまみれて、あるいは、少しばかり息を切らせて登る山道に、一日に何度か表情を変えて咲いている。

中央高速道路が、開通する前は、朝五時過ぎに、牛乳屋のおぢさんが、小型トラックに母と私を乗せて、月見草を観に連れていってくれた。なのに今は、黄色で埋めつくされていた山肌は、刃物で切り取られたように道路が走り、近くには、住宅団地が同じような屋根と出窓のある風景をつくっている。

この山道は、小さな村と村を結ぶ林道に変わり、昔、友人と名付けた「りんどう峠」は、スピードの音に、鳥の声も間遠く聞こえる。ここ数年は、竜胆(りんどう)は少し残された丈の低いから松の林の中に咲いていた。今年はどうだろうか

夫と近くの山を歩き始めてから、いくつか消えた野の草花がある。離れて暮らすようになってから、毎日、葉書のたよりを出している。表は、草花を描く。稽古の為に、採って来たり、友人からいただいた珍しい草花。それでも、夫の言い付けを守り、十本以上ある花しかいただいては来ない。子供が寝静まった後や、雨の日の午前中が、主な時となる。色鉛筆のケースを脇に、虫眼鏡で、じっくり観察してから、私の花として描きだす。私の頭の中にある草花地図が、近頃変わって来ている。あるはずの所にないのである。夫と二人で作って来た地図が読めくなって来た。それでも、山歩きは、続けている。今年の八月に入ってから描いた花は、それでも十数種はあるだろう。

節黒仙翁(フシグロセンノウ)女郎花(ｵﾐﾅｴｼ)
四手沙参(シデシャジン)松虫草(ﾏﾂﾑｼｿｳ)
秋田村草(アキノタムラソウ)月見草(ﾂｷﾐｿｳ)
猫目草(ネコノメソウ)屁糞蔓(ﾍｸｿｶｽﾞﾗ)
金水引(キンミズヒキ)水引(ﾐｽﾞﾋｷ)
玉紫陽花(タマアジサイ)吾亦紅(ﾜﾚﾓｺｳ)
山杜鵑草(ﾔﾏﾎﾄﾄｷﾞｽ)南蛮繁縷(ﾅﾝﾊﾞﾝﾊｺﾍﾞ)
蛍袋(ホタルブクロ)柚春菊(ﾕｳｶﾞｷｸ)

数日前、萩焼の作品展のお手伝いがありお花を持っていった。山の花の色に驚かれ、水のおいしさは、日本一とオーバーにお誉めをいただいた。確かにわが都留市は、水(水道水)は日本で二位の安さだが、電車(富士急行線といっても単線)は日本一高いと付け加えた。

やはり野の草花は、萩焼(特に今回は三輪窯の鬼萩)のようなざっくりした土の表情のある器や篭の方がよく似合う。先にあった高麗李朝展では、野の花は形なしであった。花にも、真行草があるとつくづくと感じた二つの展示会だった。

出会いとは不思議なものだ。花と器、人と人、人と自然、夫の山歩きと私の花探しが出逢って(見合い結婚ですが)離れた暮らしのなかでも間をとりもってくれる。夫も、西国三十三ケ所を休日には歩いているようだ。日曜日は、夫の電話を子供達と待っっている。今日は、どこを歩いたのだろうか。

ああ、もう少しすると、麗人草が咲く、黄釣草が不思議な自然の姿をみせてくれるだろう。

自然の中で生かされている自分を思う。

子供たちに、自然の美しさ、強さ、弱さを伝えてゆきたい。

そして夫が、葉書を持って帰ったら、町の小さなギャラリーで、野の草花の好きな方々に、みていただけたらと思っている。

綾女さん素適な通心ありがとう。一読しましてまず感じたことは、私が単身赴任の場合、女房は?　「手紙の苦手な人やから・・・」
「絵などはまずもって描けない人やし・・」更に考えて、亭主が亭主やから・・納得
皆さん実は先日通心の催促の電話を入れました。
ルルル「ハイ、羽田です」声が綾女の声?「オウ、アヤメ、オレっ」「エッ」・・しばらく無言、
「アッすいません、お母さんいらっしゃいます?」
「アッハイ。・・お母さーん」
亭主が単身赴任の家、しかも男の声、更に呼び捨て、気をつけなくてはなりません。
さて、次のメッセンジャーは北海道のピアニスト平田真知子さんです。よろしくお願いいたします
マチコ、11月に出張行きます。奢って下さい。

安福

通　心　　NO6　平成1・11

平田真知子

「あー自分の番がきた」　通心を読んであわてた。

“カッコよい文”をまとめておこうと思っていたのに何も考えていない。どうしょう！

近ごろ思った事を箇条書にて失礼するとしよう。

☆今年の1月14日　40才になった。人生80年とみて“半分来たか”と思った。小さい頃40才の人はなんと大人にみえたことか、今自分がそうなった時“こんなもんなのかなぁ？と思う。

☆毎年、年頭にいくつかの目標をかかげている。今年は

1、仕事の方でグレード試験というのがあるのですこしでも上の級をとる。

2、スポーツ（一応水泳）を始める。

3、飾ってある本の再読

4、素直になろう。　　　などである。

このうち、ここ何年もかかげているのが1，2である。なかなか腰があがらずいつも月初めから頑張ると思ってるのだが・・・。でも今年も後約3ケ月、10月1日から始めるぞー。

☆今、仕事は月水木金土の5日間、10～9時までヤマハ音楽教室てエレクトーンを教えている。対象は小1～50才位までの男女。仕事は楽しい。生徒が上手になってくると教えていて良かったと思う。また仕事をとおして学ことも多い。だが忙しい、発表会が年3回（4月9月11月）ある。当然それに向けて2ケ月位まえから忙しくなる。テキスト研修、指導法研究などの会合がある。家に帰っても自分の練習（あまりしないけど）翌日のレッスンのカリキュラム作成など多くの時間が仕事に費やされている。（でもテレビをみる時間はあるのだ・・・・・。）

休みの日は例の掃除、洗濯である。夏休み、冬休みで2週間位の休みがとれると“これでは駄目だ何かしなくちゃと思いつつ半年間の仕事の整理などしている。でもお金がたまると旅行にでかける。今まで海外に5回ほどお手軽ツアーに行った。これは独身のなせる“ワザ”かな、命の洗濯と気分のリフレッシュになる。来年はオーストラリヤの予定。

☆大学生の頃は自分の才能を捜していろんな事をした。馬鹿みたいな事も勿論した。生徒に進学か就職かで相談を受けた時は経済的に心配ないのなら是非大学へとすすめている。食べて行くことの心配のない自分の為の時間を持てることは幸せなことである。その中でどう学び遊びすべて自由である。今考えると学生としてはあまり真面目じゃなかったけど、人間として生きて行くための何かを得たような気がする。

才能の方は、小さい時にピアノを習っていたのが文字通り“芸は身をたすく”に。でも、人生これから絵画、書道に文学に・・・・。先日、何か書こうと思って机に向かったが、私小説的なものになってしまい創造性のなさにがっかり、でもまずペンネームを考えて、芥川賞、直木賞でもとのんびり考えてる私でもあります。（でもこの文章じゃムリかー？）

こうしていろいろ考えながら生きていくんだなぁ。

1989・9・19（火）

何と9月に真知子から通心を貰って早く出そうと思いながら、今日になりました。札幌に出張にいって真知子とも会いましたが、年頭の目標にかかげていました2番目のスポーツは、私がしかと確認いたしましたが、守られていません。

さて、次のメッセンジャーですが真知子の指名によりまして、峰広さん現姓、木村敏子さんです。多分、来年早々の通心になると思います。

通　心

NO7　平成2・2

木 村 敏 子

遅ればせながら

１９９０年あけましておめでとうございます。

今年はどんな年になるのか？今年の目標は？等と思っている内に、7日からインフルエンザで一週間以上も寝込んでしまった。結婚依頼初めてのことで、健康だけが取り得と思っていたのに、今年はどうも健康について考える年になりそう。

健全な肉体に健全なる精神・・・・という事が身にしみてわかった。主婦のいない家の中は途端に雑然ととして来、起きて掃除も洗濯もとイライラ、思いばかりつのる。新学期が始まったというのに子供の世話も思うようにいかずあせる。しかしそれもいつしか諦めに変わり、果ては床の中から窓の明るい日差しを眺めていると“ひょっとしてもうこのまま元気になれないのではないか”と大袈裟に落ち込んでいってしまった。食欲も全くなくなり、体中熱の為かカサカサになり、鏡の中の顔が何となく白っぽい。そんな肉体と精神のアンバランスが続く中、実家の母の応援も得て9日目にやっと床を離れる事ができた。少しづつ元気を取り戻して来たが、まだ一日の家の仕事をこなすのが精一杯で、とても他のことなど出来そうもない・・・と思っている処へ“もう元気になった？来週の末頃ビジターに行かない？”テニス仲間からの電話。調子が上向いてくると我ながら勝手だと思うのだが、友人からの誘いに俄気がでて来、お正月の間食べてばっかりでちっとも運動してなかったらだ等とこの間のことをへんに納得してしまった。

皆さんは、健康のために何かやっていますか？私は、運動不足とストレス解消のためにテニスをやっています。４０代では、定期的に運動している人といない人では随分体力に差があるそうです。それに骨粗しょう症というのをご存じでしょうか？これは、年と共に骨の中のカルシウムが減っていき、曲がったり折れやすくなるもので、特に女性に多い症状だそうです。予防には、タンパク質、ビタミン、ミネラルを多く取る事に心がけ、そして適度な運動が必要だそうです。

息子の通っている幼稚園にクレーコートが一面あってお母さんが集まって硬式テニス同好会を作っています。８９年度はその会長を引き受けた為、4月の新入会員募集に始まり、春秋のトーナメント、夏のバーベキューパーティ、秋のバザー協賛と結構忙しい毎日でした。現在の生活の中でテニスはもはや、欠くことの出来ないものとなっています。4年前（子育ての真っ最中、その上舅との生活でストレスは貯まる一方だった）の久しぶりにコートに立った時のワクワクする気持ちと何ともいえない解放感は、今でも記憶に残っています。テニスをしている１～2時間というものは“今日のおかずはなんにしょうか、子供は忘れ物をしなかったか？主人のワイシャツにアイロンをかけなくちゃ”といった日常の事を全く忘れる事が出来、相手から繰り出されるボール一点に集中することが出来ます。そして、打ち返したボールが思うコースに決まった時等はまさに“やった”という思いです。体を動かし、汗と共に心に貯まったストレスをさっぱり洗い流し、夏等、この後ビールを飲めば気分は最高。疲れているはずなのに、その後の仕事をいつもよりうまく熟す事が出来るのが不思議なくらいです。今年の目標は、他流試合に出場する事、そして息子も今年からテニスを習い始めたので、家族4人でプレー出来る日を楽しみにしています。

この他今年は、下の息子もいよいよ入学なので、1、編み物の方が一段落なので今度は洋裁に挑戦、2、生協の仲間と仕事を始める？3、車の免許をとる？と欲張っています。それとも久しぶりに少しまとまった文章を書くことを余儀なくされ、辞書片手に悪戦苦闘、ワープロをマスターした方がいいかな・・・・・。　　でも今年は健康第一。

木村敏子さんこと、テニスオギャル峰広敏子さんのメッセージでした。

文面を見ていますと、相当な腕前のように思いますが、大学時代を想像すると ？ このように思ってしまいます。しかしストレスを発散することは大事で健康にも良いことと思います。他流試合の結果を楽しみにしています。

さて、峰広さんの次の指名の人は富樫さん、冬の京都の便りを楽しみにされています。富樫さんは京都でも宇治市（田舎です）、頼みましたよ（安福）

通　心　　ＮＯ８　平成２年４月１日

小　沢　典　子

こちら宇治の里でも３月中というのに桜が満開です。

今年の春は全国的に超特急でやってきたようです。おかげで「冬の京都」は、はるかむこうの方へ押しやられてしまいました。「冬の京都」というと、多くの人が一度は訪れてみたいと思っているのではないでしょうか。　雪の三千院、山茶花の咲く詩仙堂、静寂さをひめた竜安寺の石庭・・・・・。数えあげるときりがありませんがそんな風情を訪ね歩くのも趣きがあって良いものです。　そして宿に戻るとあたたかい湯トーフや豊富な漬物が待っているという数日間の旅なら魅力いっぱいです。（私の冬は、コタツだけがお友達、本の上での観光です）

そんな京都に移って来たのは８年前です。はじめの２年半は京都市内に住み、もの珍しさも手伝ってあちらこちらと小さかった子供達の手を引いて出歩いたものです。

葵祭り、祇園祭り、など有名な行事があると人一倍見たがり屋の私はとんでいったものです。「わたしら京都のもんはそんなもん見いしまへん」と言う冷たい視線を背中に受けてもめげずに行きました。その頃知り合った京都の人で小さい時から金閣寺のそばで育ちいつもそばを通っていたけれど拝観料を払って中に入った事はなかったと言っていました。

身近にありすぎて特別の興味も関心ももたず、観光客が列をなして見に来るのが不思議でならなかったとも言ってました。　京都の人にとってはそういうものかも知れません。

さて、宇治に移って５年半になります。いつまでいられるかはわかりませんが、やっと腰を落ち着けて生活をしています。日常生活はどこに住んでも毎日同じ事の繰り返しでしょうが、京都、奈良に近く、思い立ったらすぐに行けるというのは恵まれているのでしょう。ここは宇治市内といっても、平等院や源氏物語の宇治十帖の舞台となった宇治川沿いからはずっと西の方向になります。近鉄沿線（京都↔奈良）にここ十数年前から急速に住宅が建ち始めひらけてきた所です。以前は沼地と茶畑と竹やぶ、少々の田畑と一にぎりの集落だったそうです。

今でも自然がいっぱいです。都会（練馬は東京の田舎かな？）から田舎に移って私は不平不満がありましたが、子供たち（男の子二人）にとっては良かったと思っています。今の都会は子供が外で体を動かして思う存分遊べる場所がなくなったと聞きます。

我が家の二年生、この四月から三年生になる次男は生き物が大好きで、ザリガニつりに夢中です。昨年の夏つかまえてきたのを自分で泥を入れ植木鉢のかけらですみ家をつくり、無事に冬を越させました。大きいものですと１５センチ前後もあります。小さいのも順次脱皮し、脱皮直後は皮が柔らかいので他のザリガニにやられないよう別の容器に移したりとよく面倒を見ています。通っている小学校のそばの田んぼに秘密の場所があるらしく友達同志誘いあって出かけていきます。泥んこの中に草履を片一方おいてきたり、みごとすべってまっ黒になって戻ってきたり、本当に目いっぱい遊んでいます。ザリガニの他には一緒に冬を越したカメがいますし、これからはカエル、もうチョウチョウも飛んでいましたし、バッタ、カマキリは手づかみ、二三年前の夏にはトカゲまで飼ってくれました。自然の中で思い切り遊んでくれたら田舎に越して来た甲斐があります。さあ、春まっさかりになったらまた奈良の方へ出かけてみようと思います。今年は吉野の方まで足をのばしてみようかな・・・。

富樫さんのほのぼのとした良いお母さん振りが伝わって来ました。読み終わって何か心が和むメッセージでした。

さて、次回のメッセンジャーは村治さんに、エジプト旅行の話なぞして戴きたいと富樫母さんからの伝言です。　向こうでは１０才も若く見られる村治さんらしいです。ご期待ください。　　安　福

通　心　ＮＯ　９　平成２・５

斎　藤　笙　子（村治）

緑が美しい季節になりました。「通心」も，９号目、毎回、皆様のを楽しみにしておりますが、自分の番になるとやっぱりちょっと苦痛ですね。

西洋史ってどんな人がいたのかなぁ、思い出そうとしても浮かんでくるのは国史の仲間ばかり。いかに国史パワーが強かったか・・・若くして逝ってしまった宮崎君、共に国史の仲間入りをしていた河野君もモッチンこと瓜生さん、それに北川君や浅沼先輩、あっ、西洋史はみ出し組に原君もいましたっけ、今、又、国史コンパともいえる「通心」の仲間にいれていただけてうれしいです

石川君から、小沢さんまでみなさんの生活の一部が生き生きとした感じで伝わってきました。私も再び自己紹介を兼ねて近況を書くことにします「お仕事は？」「専業主婦です。」いろいろな会に出席することが多いのですがこの質問をされるといささか小さくなります。「で、何をやっていらっしゃいますか？」少しひかえ目に「エジプト学です」「エッ？」「あのピラミッドやスフィンクスで有名な古代エジプトの象形文字（ヒエログリフ）を勉強しています。」

我家の家族構成は　夫、俊夫４２才、高校の同級生で公務員、長谷川君の「通心」を読んで「ホラ、見て見て」世の中には同じ様な人がいるなと感心したり、安心したり。エジプト学への良き理解者でもあります。長女つぐみ、高３我家にも英語を話せる者がいると便利という半分、親の都合(?)で現在アメリカの高校生、生物学が好きで野生の狼の里親になっています。次女ちどり、フレッシュ高校一年生。小さい頃からの舞台活動から一転して、今はオーケストラでクラリネット。名前からもわかる様に我家は大の自然好きです。子供と共に活動してきた学校の仕事も卒業と共になくなって自由な時間が多くなると、自分を問われているようでかえって緊張感が・・・・・。

数年前、そろそろ自分のライフワークを決定する段になり多いに迷いました。それまでは皮革工芸とエジプト学の二輪車でいくつもりでしたが、年をとったせいか（エジプトでは若く見えても？）体力と経済力（子供は手がかからなくなった分お金がかかるようになりますね）に自信がなくなり日本革工芸展に入選できた喜びを機に片輪をいさぎよく捨てました。

さて、エジプト学の方ですが、結婚10年後ヒエログリフのゼミを行っていた大学院生の仲間に入れてもらい次の１０年が経過いました。途中ヒエログリフの「文字の便覧」というものを出版したこともあって、今更、後もどりもできない様になりました。相変わらず予習、復習に追われる毎日ですが、それなりに充実しています。

昭和から平成に移った時期、私は家族の理解のもと、カイロのエジプト人宅に１ケ月間ホーム・スティをすることができました。エジプトもホーム・スティも初めてで、遺書を預けての一大決心でした。途中、東ドイツ、ベルリンの壁崩壊前のモスクワに寄りました。ソ連は娘達が小さかった頃、キエフ、レニングラード、モスクワを旅しましたが、他の旅では味わえない独特の不便さ、異国ムードに魅かれました。冬のシベリアは更に強烈でモスクワっ子に混じって一人で飲んだコーヒーと体の芯から氷りつくような感じは忘れられません。長い列をつくって買物券を受け取って買物する経験も貴重なものでした。世界各地どこにもそんなに違和感を感じないのに何かちがう。少しづつ変わりつつある国ですが、ぜひ行ってみてほしい国です。

話をエジプトへ戻して、少しカイロの町をご案内します。首都カイロの通りは人と車と砂ぼこりでいっぱいです。車は並んで走らず、たえず、クラクションを鳴らし続け、人はその合間をぬって要領よく渡らなければ永久に向こう側にいけないのではと思ってしまいます。人は明るく親切で、時々親切すぎて、ちがった道案内までしてくれます。ホーム・スティをしたアザさんのアパートはカイロの台所と呼ばれる市場の近くにあり、肉や魚貝類、野菜、果物が信じられないくらい豊富です。ただ牛の頭がいくつも並べられていたりする所で買物するのには勇気がいります。めずらしいものでは　なるほどザ・ワールドで紹介された焼イモやさん。日本と全く同じでアラビア語の新聞紙でつつんでくれるところだけが違うくらいです。又、近くにモスキー通りもあり、世界中の物、服飾、雑貨、貴金属、おもちゃ何でもあります。イスラムの国ですから、コーラン模様の皿やガラベーヤとよばれる普段着やイスラム女性のスカーフ数々の香料、数珠、水タバコなど、エジプトのハンバーグともいえるターメイヤは円形アラビックパンのように揚げたものをはさんであり、赤カブのエ

ジプト風つけものと食べると日本人の口にも合います。

私はカイロにいる間はほとんど毎日６時間以上町を歩き回り、親切な人達と話しをしたり、定食やさんに連れて行ってもらったりして、カイロの事を知りました。そして夕方、ナイル河沿いのタハリール広場とよばれる中心地（ホテルやビルの立ち並ぶ、そこはもうエジプトでない様な所）に行き、ホテルで昼食（エジプトのランチタイムは夕方４時頃）を食べ、エジプト人のおばあちゃまと３才と女の子のいるアパートに帰り、彼女達と連続ホームドラマを楽しむのが日課でした。肝心のエジプト学の勉強はというと、ホーム・スティ後、娘達をよんで遺跡見学の旅をしたのと、そのための下見に行ったぐらいでした。エジプトでもツタンカーメンの王家の谷やアスワン・ダムで救済されたアブシンベル神殿などは日本と同じく、修学旅行で訪れる京都、奈良等のように、庶民の生活とは遠いものなのです。サッカラの有名なピラミッドへ連れて行ってくれたカイロ大学の青年も「初めて来た、よかった」と言っていました。有名なギザの三大ピラミッドだけは、カイロ近くのバス通りの脇にあり、世界中からの観光客でいつも混んでいました。

次はいつ、いけるかな、そう思いながら、いろいろな国の人を招いて、おしゃべりしたり、手芸を教えたりするのに喜びを感じている今日、この頃です。今年の夏は娘のホスト・シスターが日本へ来るので、久しぶりに奈良や京都を訪れてみようと思います。いつも日本のことを聞かれて知らず恥ずかしい思いをしています。

村治さんありがとうございました。「通心」も、なかなかのもので、石川の山登りの話、今度はエジプトの話と、只で旅行している気分になりました。

次回のメッセンジャーは村治さんのご指名で、伊藤章子さんです。伊藤さんいつぞやは私共のパーティにお越しいただきまして誠にありがとうございました。

伊藤さんの飲みっぷりには感心いたしました。

今回はメッセンジャーということでお願いするわけですが、７月中旬以降に原稿をいただけたらと思っています。よろしくお願いいたします。

訃　　　　報

皆さんに悲しいお知らせをしなければなりません。

５月１１日、星 優子さんがクモ膜下出血で逝去されました。私の方に伊藤章子さんから知らせが入りまして、石川君に連絡いたしました。自動車の洗浄中ということでしたが、告別式は伊藤さん石川君等が参列いたしました。

若くして亡くなった星さんのご冥福を祈りたいと思います。

我々の年齢はいろいろと難しい歳であります。

まだまだと思っていた体力も一年一年衰えを感ぜざるをえません。社会的にも重要な段階でその責任においても軽んずることができません。

今、一人の同級生を我々はなくしてしまったわけですが、一人一人十分に体に気をつけて再びこのようなお知らせをしなくてもいいようにしましょう

できましたら、今年の夏、東京か大阪で皆さんと再び会いたいと考えています。

尚、今回石川君より新たに住所がわかった人がいます

紹介いたします。

渡辺 幸子（島村）葛飾区西亀有2－34－5 ☎ 603－9714

長沼真由美(西川)千葉県柏市あけぼの 2－9－20 B－205 ☎ 0471－45－6107

勝又 万里（八重樫）小金井市貫井南町4－29－6 ☎ 0423－24－6471

通　心　NO10　平成2年8月17日

伊　藤　章　子

猛暑と言われる今年ですが、やがて訪れるであろう秋を思うと、この暑さも愛しく思われます。

そういう自然の流れに対して、とても寛容になった自分に驚きます。年を重ねるごとに、時の流れが速く経ちます。卒業して２０年なんて信じられますか、今自分達の子供があの年頃になろうとしています。

長女を出産して以来、専業主婦となり１３年、日常に追われてきた私ですが、星さんの訃報に接し、自分らしく素直に生きてきたかしらと考えさせられました。それは、彼女が彼女らしく生きて、そして逝ってしまったからです。

５月、井田、羽田、石川、八重樫、島村各氏と小金井にご両親にお悔やみを申し上げに伺いました。ご不自由な体を押して、お父様が一言、一言、心を込めて優子さんの思い出を語ってくださいました。淡々と語られるだけに余計悲しみが、叫びのように伝わり、とても胸を打たれました。彼女の優しさと一途さは教師になってもそのままだったようです。結婚後、長谷川姓でしたが、どちらの姓を名乗るかアミダで決めたなんて彼女らしいではありませんか。中学時代から彼女を愛し見守り続けられた長谷川さんの事を思うとご両親同様心が痛みます。

では、近況報告を兼ねて一言と思うのですが平凡に生活している私、日常の事を文章に書くのはなかなか難しいものですね。三人の子供には、宿題は早めになんて言っておきながらいざ自分となると・・・・。

結婚１６年、高円寺に移り住んで１０年、ようやく子供やボランティア仲間を通じて地元に根付いてきました。生活を営む上で根付くって大事な事ですよね、我愛する高円寺です。山口が故郷の私にとって、ようやく第二の故郷と思えるようになったのです。その中での楽しみは、地域の仲間６名でやっている「おはなしかご」の活動です。「ストーリーテーリング」ご存じですか？日本風にいえば「語り」です。グリムや世界中のおはなしを子供達に覚えて語るのです。今は週に一回、近くの児童館で絵本二冊おはなし１つのプログラムでやっています。年１回小学校にも出向いています。仲間それぞれ得意な分野がありますが「伊藤さんはやっぱり日本ものね」なんていわれると、ついそうだわ私にはお姫様より囲炉裏端のやまんばの雰囲気なんだわなんて思い「昔々・・・。」とやってしまいます。私がこれにかかわるようになったのは、９年前から絵本の読み聞かせを続けていて、その間、東京子ども図書館の松岡享子先生の素晴らしい語りに出会ったからです。きっと皆さんの近くの図書館や文庫にも「おはなし」のコーナーがあるのでは？正直いっておはなしを覚えるのは大変です。３０分位のお話しをわけなく覚える人もいますが、私なんて長くして１０分です。もっぱら三人の子供達は練習台です。「抜けてるよ」なんて子供の方が早く覚えたりします。大変でも大勢の子供達が引き込まれるように聞いてくれた時「ヤッター」という気分です。子供は下（シモ）の話が大好き。そういう時は、へこきのおばちゃんと話しかけられます。おはなしは子供だけのものではありませんよ。

人との出会いは素晴らしいものですよね、これにつられて続けているボランティアに託児活動があります。小さい子供がいる女性は学習も出来ないというのでは益々視野が狭くなります。それの援助という事もあり、児童館ではじめて早や１０年。「子供をみれば親がわかる。親をみれば子がわかる「いろいろ勉強させられました。最近は若い母親の気質が変わってきました。割り切りが早いというか明るいというか。最初に預かった子供も今では中学生です。１０年になるし節目かなとも思っています。そろそろ私の関心も子供から老人、老後問題へと移りつつあります。同居の母も８８歳、私、公務員の夫と共に人生折り返し地点です。死だっていつ訪れるかわかりません。（深刻になってごめんなさい）地域でそのような問題を考えていけたらなんて考えています。「遠くの親戚より近くの友です」　こういう具合に女達は地域で根付き、助け合っていく仲間を増やしています。

男達はどうでしょう？職場を離れてどれだけ地域で人と関わりを持てますか、そういう意味では我が夫も孤独なものです。そういう事を心配して４年前より照れる男達を引っ張り出し、ご近所同志飲み会をしています。そうでもしないと、故郷以外に住んでいて男達の地域での友達なんてできやしません。今は皆仕事に忙しすぎます。寂しいことですが・・・

長女織江中２、卓球の合宿で新潟六日町へ、長男耕平小２、夫の実家徳島へ行ってすでに２週間、今次女香織小６と一

緒にＮ響のドラゴンクエストⅣを聴きながらこれを書いています。この曲はすばらしい。おすすめ品です。

では残り少ない夏休み、心に残るものにして下さい。

伊藤さんありがとうございました。

星さんのところへ行っていただいてありがとうございました。四十路を越えて誰もが健康に気をつけなければならないところにきました。私も毎年健康診断を受けていますが、今年は肝臓に異常が認められ、再度病院での検査を申し渡されています。多忙を理由にまだ行っていませんが気になるところです。

さて、伊藤さんの近況報告、楽しく読ませていただきました。子供を対象にした活動から今後は老人問題へと次々にボランティア活動のテーマを考えられ生きていらっしゃる様子が伝わってきました。又、夏休み、普段いつもいる子供達が合宿、田舎へと行って一人の子供と音楽を聴きながらのメッセージ、静かな落ち着いた雰囲気が伝わってきます。

さて、次回伊藤さんのリクエストは林 千津子さん、「おちょぼ」の指名です。彼女は現在富山県高岡市で公文学習塾のエライさんでがんばっているそうです。「おちょぼ」よろしくお願いいたします。

安福　記

通　心　ＮＯ１１　平成２年１０月３１日

林　千津子

「こんにちは」富山には珍しく台風がやって来たその日も、子供達は元気よく教室の戸を開ける。「ねぇ、ねぇ、先生台風って どんながけ?」まだ経験したことのない台風を前に好奇心いっぱい。

私は生まれ育ったこの地で 公文の教室を開いて十年になる。子供が五歳 三歳 そして私もまだ皺もなし 白髪の一本もないキトキト(富山弁で魚が生きがいいときに使う)お母さんだった。東京での教員生活にピリオドを打ち、夫とともに帰郷したのが十五年前、迷いに迷った選択だった。こちらでも 教員生活を始めたものの 二人の活発な男の 子をかかえた母が「私を子育てお婆さんにしないで」と・・・・・女が働くことはかくも大変なのですね。

しばらく子育てに専念、下の子が幼稚園の年少組に入った時から、公文の教室を始めた。ちょうど同じころから高校へ講師として週三日、こちらは昔とった杵づかで日本史を担当させてもらっている。

この十年 公文の教室で多くの障害を持った子供 達に出会った。生後すぐの高熱のため障害を持つことになってしまったアーちゃん、たし算もひき算もできなかったけど、今は 割り算にも挑戦している。学校の特殊学級の先生から時々お電話をいただき 私自身励まされる。てんかんのため遅れ気味のケ イちゃんも 聾学校のしょうちゃんも 多動へきの あるカメちゃんも皆 普通学級の子たちと机て頑張っている。 公文の教室だからもちろん小学生でも 高校数学や英検三級などに挑戦している子もたくさんいるけれど、障害を持った子に眼がいくのは私の性分なのかもしれない。 様々な子供達と出会った十年、最近は年に何回かの公文での講師活動も加わって忙しくなって来たけれど助手として教室へ来てくださる先生達、家族、多くの人に支えられてきた。

時には「ねぇ先生の子供勉強できるがけ?」言って私をドキッとさせる子もいるけれど その素直な質問に苦笑・・・・・・。その私の子供達もいつの間にか高一、中２となり、今や 親離れの真っ最中。ちょっぴり淋しいけれど、私も子離れをしなければと思う。

そして、この忙しかった十年、文句も言わずに支えてくれた夫、二人の子供達に感謝しなければと思う。

これから十年もすればきっと孫のような子供達とマゴマゴでもきっと教室を楽しんでいると思う。

通心、遅くなってしまいゴメンナサイ。富山は自然に恵まれ、一年中立山連峰を仰ぐことのできる素晴らしい所です。 夏は登山 、冬はスキー ぜひ来られませ。(お立ち寄り下さい)

いきいき富山 はつらつ(のつもり) オチョボより

オチョボ、元気な手紙ありがとう。しょうちゃんや、ケイちゃんの話など大変だとおもうけれど、オチョボが頑張っていると聞くと、何故か安心できます。持って生まれたキャラクターというかネアカというか貴重なことです。

ところでオチョボというニックネームは何故ついたかご存じですか？　私もはっきりと覚えていませんが、史学科の悪学生がキャンパスにたむろしたとおもいねぇな、そこへオチョボが通りかかった、林 千津子様のお口元が妙に印象深く我らおもわず薄手の猪口を思い浮かべたのであります。酒を飲むには厚いヤツでグッとやるのも一興でんすが、少し肌寒くなってきゃがったこの頃なんざ、熱燗をば薄い猪口でやりますってぇと、口ん中、酒がパッと広がって心地よくて溜め息がでますな、「あーっうっと・・・ズルっ・・・」（ズルっというのは鼻水を拭く音、しかも指でなしに、この場合手の平の首あたりがよろしい様で・・・）

酒てなぁ面白れぇもんでしてね、実に正直き、こちとらが気分好かねぇ時はまずくなっちまうもんで、気分がパーッとしたおりなんざ素直な女のようでさ 、ところで燗は人様につけてもらっちゃぁいけません、間違っても女房につけさせちゃいけません。どうしてかって？　そりゃあなた、燗はただ温めりゃいいってもんじゃねぇ、ころあいがでぇじでして、女房は肴作んのと一緒で仕事になっちまう、　ころあいってなぁ徳利の口からのぞきましてね、旨くなぁれ旨くなぁれ、早く飲ませろ早く飲ませろと唱えてやっと、ころあいになるってもんでして、この通心もお先がいつにねぇ早くとぎれちまったもんで、つなぎに酒なんぞの話になっちまって申し訳ござんせん。次のお席は魚井のドンということでよろしく

平成３年２月２５日

通心 ＮＯ１２号をお届け致します。

今年に入って最初の通心をお届けいたします。

今回はドンこと、藤井千津子（旧姓魚井）さんよりの通心です。

又、石川恵一君が尾瀬の山歩き募集を同封いたしました。このように趣味の領域や興味をもっていることなどを皆さんと情報交換等したい時は遠慮なく言って下さい

先日の石川君との電話で話しましたが、今年は２年振りに（多分２年）皆で集まろうかと考えています。

前回は東京でしたが今回は関西で企画いたします。具体的に決定していませんが大阪もしくは神戸ということになると思います。

7月～８月の間で土日を利用したいと思います。次の通心で発表できると思います。今から予定をしていて下さい。あまりない機会ですからご家族にお願いしてできるだけ参加できるようにして下さい

さて、次回の通心のメッセンジャーは西洋史の専攻でした瓜生もと代（旧姓・永倉）さんにお願いいたします。

安福義郎

通心　NO12　藤井千津子（魚井）

●20年ぶりに故郷に帰って

早いもので、離婚してもう４年も経ちました。
当時中学校２年の長女・朱音は大学受験を迎える年になりました。次女・志真は、中学２年だというのに、勉強そっちのけで器械体操クラブに夢中。長男・朋大は、小学４年になり、妙にこだわるくせに、左右の靴下が違っても平気。…という感じで、何とか元気に育っています。「親がいなくても、子は育つ」の典型です。
姓はどうしようかと子供達と相談したところ、「魚井」は、変な名前でイヤダというので、「藤井」で新たに申請しました。
11月頃に鹿児島から戻ったのですが、年中半袖一枚の薄着で育てていた性もあり、毛糸類の洋服は一切持っておらず、寒い、寒いの連続でした。今ではスキーを待ち兼ねる程になりました。
親がヌケている分、子供は見兼ねてしっかりするのか、「私たちに任せなさい」と、家事は皆で分担してやってくれているので、親は結構、楽をしています。

●女も30を過ぎると仕事がない

富山に帰ったということもあり、今までと違った生き方をしてみたいと思ったんだけど、難しいものですね。結局、長年やって来た仕事を又続けることになってしまいました。
いろいろ職探しをしたんだけど、職安の人に「あんた、その年で仕事を選べると思ってんの？働くところがあるだけで有難く思いなさいよ」といわれてしまいました。
それで１年半ほど、倉庫係やオペレーター、コピーライターなどを転々としたんだけど（職種はバラエティーにとんでいるでしょう）、あんまりアホらしくなってしまい、結局現在の編集プロダクションに入社し、皆をイビッています。
しかし、この間ガラにもなく落ち込んでしまいました。「40年間何もしてこなかったんじゃないか」なんてね。何をしたいのが、何が出来るのか、どうしたら自立して食べていけるのか、結構真面目に考えたあげく「今までして来たことを、積み上げていくしかないな」、と観念して「本づくり」に戻りました。

●本の編集をしています

編集プロダクションなので、１～２年がかりで制作する社史や、数カ月単位で制作するものなど様々にあります。
大阪や東京、名古屋など時々取材に行ったりします。この間は、上海に行ってきました。結構余得があります。
富山の新聞社などに企画書を売り込んで、制作に入るのもあります。中でも「とやまの郷土料理」「ヘルシー・メニュー」など、料理関係の本が多いのですが、私自身あまり料理は得意ではないので、可笑しく思います。
今「越中の古戦場」の制作にとりかかっています。源平時代から豊臣秀吉の時代までの、主だった合戦場15カ所を中心に展開していきます。いわば富山の中世史ビジュアル版です。撮影のため、あちこちの山城を歩くのですが、大学時代にもっと勉強しておけばよかったと悔やまれます。
何本も仕事を抱えているので、帰りはいつも遅くなり、家の中は無政府状態です（そのほうが秩序が保たれているのかも）。それでも帰ると元気で出迎えてくれます。夜はビールで晩酌をしながら、子供たちとオシャベリをします。何時のまにか親子ゲンカになることも、よくあります。しかし、よくもまあ順番に反抗期が来るものだと、ネをあげています。きちんと教育しておかないと、そのうちツケが回ってくるゾと、心配しながら。

●ナチュラリストになりました

富山のあちこちを撮影で回りながら、私自身富山をちっとも知らないことに気が付きました（もともとひどい地理音痴もあるのですが）。
立山連峰を抱えているので、山男・山女が多く、話題も自然に動・植物関係になることもシバシバ。せめて知識だけでもという、セコイ考えから講習会を受けました。実習も含めて、地学・歴史・気象・生物学など６カ月間の毎土・日曜ビッシリ。授業時間は、い眠りが多かったように思いました。
ボランティアで解説・案内しなければならないのですが、机上での知識でしかなく更に、地理音痴の悲しさ。冷や汗の連続で、「もうしたくない」と思いでいっぱいでした。という訳で、名前だけのナチュラリストです。

●書かなくては、と思っているうちに、湾岸戦争が始まってしまいました。戦争はいつの時代でも「正義のため・聖戦」ですね。第三次世界大戦の始まりでしょうか。

●今度オチョボと飲みに行こうと思いながら、ナカナカです。

富山に帰って５kgも太って、トドになってしまった…　藤井　千津子

通　心

ＮＯ１３　出沼恵子発信
旧姓　　井田恵子

書きたいことが山ほどあるのに整理をするのが大変です。夏休みの宿題をかかえた子供の気持ちを久しぶりに味わいました。

さて、７月２４日、２５日と石川君企画の尾瀬行きへ娘と参加しました。青木君親子３人と伊藤さん母子４人と、河野君、朱音さん（藤井さんの娘さん）の合計１２名でした。

事前に石川君の下見と詳細な連絡ですべて下準備が整い、我が身が尾瀬へ向かうだけでした。しかし日頃の運動不足と年のせいか足に自信がなく、その日が来るのを待ち遠しいのと、不安とで迎えたこの日でした。

７月２４日　上野駅で青木君一家と伊藤さん一家と待ち合わせ、青木君、植松さんとは卒業以来で顔を合わせたとたんに「わぁ全然変わってないね、どうしたの？」と口々に興奮気味の大人達。

初対面で互いに気になりながらもとけ込めない子供たち。私達はそんなことはおかまいなしの余裕（？）のおしゃべり三昧。２０年も会っていなかったなんて、つい昨日までいっしょだったかのように話がはずむ。友達っていいものです。何もかも昔のままと思っているのは私達だけですが、それでもいいのです。すっかり自分達の世界にのめりこんでいました。あっという間に宇都宮に着いたのです。（実際には２時間弱でした。）

石川君と朱音さんが駅で迎えてくれ、車で桧岐村まで２時間半。木々の深い緑と透き通った空気の中をしだいに奥深く入る。くねくねとした山道も石川君の手慣れた運転に安心してまわりの景色に見とれることができた。そのうちなつかしく、ほっとするような集落の中に一夜の宿となる旅館をみつけた。

宿には後続のはずの河野君がはやくつろいでいた。またまた「しばらく！ちっともかわってないね」「意外！」などと再会にわく。夕方まで話し込んでいた。窓外には山、真下に川が流れる自然の中で檜の湯舟の温泉にゆっくりつかった。山菜と川魚の夕ごはんは美味珍味、食べ切れないほどのごちそうだった。この後は勿論まるで学生時代の合宿のように話はつきない。子供達のはしゃぐ声を聞きながら夜が更けて行った。明日に備え早めに床についた。

翌７月２５日早朝、さあいよいよ出発、車で尾瀬の入り口まで行った。私の緊張とは裏腹に子供達はリュックを背に身軽に歩き始めた。山を越えた向こうにある湿原をめざして呼吸を整え、足場を確かめながら歩いて行く。樹海が終わろうとする遥か向こうにぽっかりと明るい広がりがみえてきた。そこが湿原とわかると足早になった。そして樹海を抜けると黄色のニッコウキスゲの花が、まるで絨毯を敷き詰めたような湿原が目の前に広がった。「ウワァーウワァー」と言葉にならない声が上がった。一瞬、立ち止まってこの景色をもう一度確かめた。ここにいるだけでもう何もいらない。満足感でいっぱい、これを表現する言葉は見当たらない。澄んだ美しい自然の中をもくもくとあるいていく心地良さに浸っていた。自然の懐は大きい。黙ってすべてのものを包みこんでくれる。その自然の中では人は素直に優しくなれる。そこに居ることが一番居心地の良いことを体中で感じとっている自分がわかる。さわやかな風、木々から発散されるおいしい空気イワナも住む澄んだ冷たい水、植物も他の生物もみんなが手をとりあっている。自然が織り成すすばらしいハーモニーに心がなごむ。「命の洗濯ができたよ」の一言に全てが凝縮されていた。みんな心の中で大きくうなづいていた。

ちょうど今、働き盛の年代の私達。この自然を次代を担う子供達とともに体験し、共に感動を味わってみませんか。きっと何かが残るはずです。それがこの美しい自然を後世に残していき、又次代へと伝えて行くことになるのではないでしょうか。「百聞は一見にしかず」とはまさにこのためにある言葉ではないかと思われます。

この尾瀬の感動とは別に、それぞれの地にしっかり根をはり生活し、自分達の出来ることは何か、そして何かをしていかなければという熱い思いを参加した方から受けた。身近にある自然を考えて行くことは本当に大切なことと思う。今自分ができることから始めよう、ささやかでも。　この素晴らしい自然と感動を友や子供達共有出来て本当にいい旅でした。いろいろな感じ方、受け止め方は人それぞれでいいことですものね、尾瀬の旅もあと３回企画予定だそうですので又仲間たちとお会いできる日を楽しみにしております。

では我が家の近況報告をいたします。といっても結婚以来専業主婦として１６年、３人子育て（否、親が育て

られたのかな？）もやっと峠を越え、少しゆとりができた今日この頃です。

長男は高１、生意気盛りで地球は自分のために回っているのではないかと思うばかりです。でも将来に夢を持ち、多感な青春時代がまぶしく見えることもあります。自分の道をさがしながら、歩き始め自立しようとしながらも大人になりきっていないもがきとが彼の中で交錯しているようです。

次男は中１、まんなかのせいか気かん坊ですが気配りのできる子のように思います。今は小１からやっているサッカーに夢中で勉強など二の次です。わたしも長男の小学校時代からのサッカーの応援でオフサイドくらいはわかるようになったのです。マッ元気が何より、サッカーの応援がなくなるのも寂しいなと本音が出ます。

長女は小４。スポーツ大好きな超元気な女の子です。男まさりでもあちこち出歩く（家に居るほうが雑用が多いものです）私の強い味方です。

夫は趣味の庭仕事を所狭しと並べ、土と緑を愛しています。動き回る私とは対照的にじっくり腰を据え、一時の開花のために１年間手塩にかけて育てるという作業が好きなようです。

「親とは木の上に立って見るもの」と聞いてなるほどと思います。現実には子供と真剣にやり合い、落ち込み、喜び、泣き、笑いの毎日です。木の上に立って見るような境地に立つことができるのはいつのことかな・・・・・。

尾瀬の様子、思っている事の半分も伝えられなかったように思いますが、皆様の想像力に頼り、おくみ取りいただければ幸いです。

石川君、お世話様でした。同行の皆さん楽しい思い出をありがとう。今頃の尾瀬はどうでしょうね

井田さんありがとうございました。早く原稿をいただいていたのですが、こんなに遅くなって本当にごめんなさい。

実は、私の勤めていた会社（株式会社・稲岡）は富久錦という銘柄の酒を作っているメーカーの系列会社で１０月１日をもって親会社と企業合同しました。合同に至るあれこれの事務処理等で今日まで気になりながら発行できませんでした。一昨日、石川よりＴＥＬがあり、あっ急がないとと思い慌てて発行したような次第です。

井田さん、尾瀬の素晴らしさが十分伝わりました。文章をワープロに書き写していくうちに、自然との触れ合いなんてとっくの昔になっている自分に気がつきました。尾瀬って本当に素晴らしいんてせしょうね、石川からも誘いを受けていますが、山が苦手でどうしょうもありません。しかし井田さんの文章を読んで、一服の清涼剤になりました。

さて、次のスピーカーは島村幸子さんです。

島村さんよろしくお願いします。　　安福 記

通　心　ＮＯ１４　渡辺幸子発信
旧姓　島村幸子

「お母さんは、幸せね。」
と、娘。
「そう、幸せよ。」
と、わたし。

今年は、結婚２０周年を迎えた。早いものだなあと思う。毎日、顔を合わせている夫も、私もたいした変わりもなく、夫は、頭に白いものが見え始めてはいるがスマートで、私は相変わらず肥えている。ありがたいことに、現在は、夫婦ともに健康でいる。高校１年と小学６年の娘二人に恵まれて、平凡だけれども、楽しい毎日を過ごさせてもらっている。

私は、都内の小学校に勤めている。やんちゃで可愛い子供たちとにぎやかにしているおかげで、若さ（？）を保っていると思う。あわただしい毎日ではあるが、日々、工夫が必要とされるのがおもしろい。子供の感性のすばらしさに、驚かされる。毎日が新鮮なこの仕事は、たいへん気に入っているのだが、これも、もう、２０年になる。

今、振り返ってみれば、この間、いろいろなことがあったが、どうにか続けてこられたのは、理解ある夫の支えと協力があったればこそと思う。子供たちにも、いろいろと不自由をかけたが、たいした病気もせずに、元気が取り柄で育ってくれている。

時間に追われて、多忙な毎日だが、家族が、家事を分担してやってくれるので、おおいに助かっている。次女の裕子は、浴室の担当で、小学一年生のときに、姉からこの仕事を譲り受けて以来、ずうっと続けている。日曜日には、父親と一緒に洗濯もしてくれる。姉は、夕食後の食器洗いをしてくれている。

今年になってから、姉の智子が、夕食の支度をしてくれることになった。朝は５時から弁当つくりをし、夜遅くまで仕事を続けている母親が、少々、つかれてきたと思ってか、娘からの申し出である。「続けるのは、たいへんよ」と言いつつ、ありがたく申し出を受けることにした。美味しいもの大好き人間のわたしのもとで修行していたおかげ（かな）で、野菜の煮付け、鰯のつみれ鍋などの和食から、ちょっとした欧州料理まで、結構、バライティに富んだ献立が食卓に並ぶ。仕事を終えて帰宅する車の中で、「今日の夕食は、何かしら」と考えるのは、やっとほっとする楽しみなときである。

「お母さんは、いつもなにか見つけて夢中になっているわね。」
と、娘が言う。今、わたしが、楽しみにしているのは、「お習字」と（ファミコン）かな。

月に、三回のおけいこを始めて、四年になる。行事に追われてしまって、出来ないことも多いのだが、書くことだけに集中している時間がいい。それに、教わる立場であることが、嬉しい。なかなか上手には、ならないが、静かな気持ちで筆を持っているこの時間を大切にしたい。

もうひとつのリラックス・タイムは、始めたばかりのファミコンに向かっている時。仕事、運転と、緊張の連続で帰宅する私にとっては、コーヒーを飲みながらマリオの動きを追っている無心の状態がストレス解消になっている。と、言い訳しつつ、夕食の支度が整うのを待ちながらボタンの操作に夢中になっている、珍しい母親である。もうすぐ受験期に入る娘が、忙しくなる前の束の間の贅沢かなと思って楽しませてもらっている。

夢中になっているというのではないが、二年前から、教育相談の勉強を再開した。講義・ゼミ・事例研究・レポートの提出と、学生時代に戻ったような生活で、学ぶ側の気楽さと大変さを味わっている。仕事と家庭に加えての研修で、プライベートタイムを大きく削られるのは、かなりきついが、思春期を迎えた我が子は元より、毎日、向かい合っている児童たちにとっても、大切な勉強であると思っている。まだ、２、３年は、かかりそうだが、出来る限り続けていきたい。

こうして振り返ってみると、平凡だけど、やっぱり、幸せだと思う。これからも、夢中になれるものを求めて、健康で、フレッシュな感覚で生きていきたいと思う。

以上、近況報告のようになりました。発信が大幅に遅れてしまい、申し訳ありませんでした。

「通信」の存在を知ってから、皆さんの御活躍や信条に心踊る思いで、私の番がくるのを楽しみにしていました。ところが、知らせを受けたのが、折悪しく、公私に渡って多忙な時にぶつかってしまいました。それぞれの原稿や提出物の締切に追われる毎日で、一日伸ばしになってしまいました。安福さんには、気をもませっぱなしで、心からお詫びいたします。

通　心　NO15

1992.7.20　　河　野　清　一　発信

長谷川さんから通心リポートの催促の電話をいただきました。何かを書かないといけないなと考えていたのですが、平凡な近況をお知らせすることにします。

＜息子との旅＞

高校２年生の息子が小学校４、５年生のごろだったと思います。せがまれてよく地方のローカル線に乗りに出かけました。彼は、車両の型式や製造会社、導入年月、保有台数、運転経路、同型車両の配線先など結構な情報通でした。はじめのころは、同行するのは保護者としてやむを得ないことと思い、つき合いをしていたのですが、そのうち、こんどは、関東平野の渕を走る八高線が良いとか、つぎは、短い距離なのに遠回りして走る大船渡線、ダム開発で造った黒部渓谷鉄道やＳＬの大井川鉄道、青函連絡船が無くなっちゃうなど、段々とエスカレートしてきました。息子は、俗に言う鉄道マニヤのように車両のプレートや写真を撮ったりする訳ではなく、遊園地の乗物のようにただ乗ってみたいと言うのであります。興味を持つとすごいもので、時刻表をどう調べたか行程や乗継ぎ時間の無駄のない遠征ルートを作ってきては、計画の実行を楽しみにするのでした。それで、私は、貨幣さえ持って息子の言うとおり付いて行けばよい訳で、道中車窓からの景色を眺めたり、本を読んだり、あるいは居眠りをしたり、結構のんびりとした時間が過ごせたものでした。だが、こういう時は、大抵息子の方が、途中で飽きてしまい、駅弁で釣って宥めたり、やむをえず計画を変更することがよくありました。また、ある時は、計画が詰りすぎていて時間の余裕がなく、何かで一旦狂うと後の行程が上手にいかなくなり、計画の遂行を諦めることもありました。こう言ったことが、二、三月に一回位の割合でしばらく続きましたが、やがて息子の興味は、野球、サッカー、自転車、パソコンへと移り、今では、そんなことがあったことさえ忘れてしまったようである。

＜ひとり旅＞

仕事は、一応地方の行政マンなんですが、生涯学習とか、地域活動の推進とか、郷土史の編纂、全くもってとんでもないことですが情報教育の推進などの仕事をしておりますが、仕事以外では、たまの付き合いゴルフや飲み会などで暇をつぶす位で他にすることはありません。息子たちも妻も友人たちとの付き合いが忙しく、私もそろそろ人生も半ばを越え、そのうちに濡れ落ち葉になってしまうのではないかなどと気にかかるようになりました。何でも誘われれば参加しますが、自ずからエンジョイ、創造するものが欲しいと思うようになりました。そんな中で、実を申しますと満更でもなかったかつての息子との汽車乗りの旅を思い出し、この２～３年、ひとりで地方の中小私鉄ローカル線を乗りまわるようになりました。出張や旅行等で何度か乗った路線もいくつかありますが、今回からは、意識的に行なっています。北海道から順に東北、関東、中部とやってまいりまして、これからは、関西方面へと足を伸ばそうと思っております。適当な週末にぶらーりと出かける訳です。

＜汽車乗りの旅＞

汽車乗りの旅をしていると、多くの新しい発見があります。学生のころもっと歴史の勉強をしておけば車窓の風景が豊かに見えたろうにと思いますし、また、すでに廃止になったローカル線跡などを歩きますと、とても想像力を逞しくしてくれることもあります。また、旅先では、よく怪しき同好の士を多く見かけます。ほとんどが私より若い人達ですが、このごろは、同年配あるいはそれ以上の方も結構います。その夜は、この同好の士と知らない駅前の飲み屋で地酒を酌み交わし、それぞれの戦績を語り、新しい作戦を披露したりの情報交換会になります。お互いほかにすることもないので、こんな時は決って翌日は、二日酔いあるいは寝不足で新しいローカル線に挑戦することになります。折角の楽しみが、殆ど居眠りの状態で、申し訳なく感じてしまいます。車では、絶対にできないことです。

このところ、乗線記録用として写真の方にも興味を持ちまして、ちょっと子供染みていて大変恥かしいのですが、勇気をもって起点と終点駅をはじめとして、搭乗車両や沿線をパチリ、パチリと撮ります。結構それなりの写真が撮れるようになりました。作品は、殆どが汽車の写真ばかりなので家族は呆れて見てもくれませんし、息子に至っては、甚だ軽蔑の視線で、もう少しまともなことやってくれないかなと言う始末です。私は唯々、目的達成をめざし、頑張っているだけなのですが。まわりの冷たい視線を堪えれば、成果としては、いつ、どこへ、だまって出かけ

てもだれも文句を言わなくなりましたことが、これ一番の幸いです。こんなことが、いつ成就するかわかりませんが、いまは、そのうちに椎名誠や立松和平風の写真集か紀行文集でも、と馬鹿なことを考えています。

昨年の夏、石川さんのお誘いで尾瀬に行ってまいりました。青木さん、伊藤さん、井田さん、それぞれのご家族、そして魚井さんと思ったが、お嬢さんだそうで、本当に久しぶりで、２０年の月日の経過が嘘のように今と繋がってしまいました。皆さん、大変お若くしており、そっと自分の頭髪を撫でてしまいました。

平成４年６月

河野清一

今回から「通心ネットワーク」より通心を皆様のお手元にお届けする事になりました。その第1号が西洋史河野さんよりのおたよりです。原稿を頂いて20日余りも経過してしまいました。すみません!!

安福さんNO1よりNO14まで 全国を出張でお出掛け の多いいお仕事の中送り続けて下さり 有り難うございました。

次回は誰れになるでしょうか。突然依頼が舞い込んだ時は快く引き受けて下さい。

又次回に書きたい、その次の次位にはとお考えの友よ「通心ネットワーク」発起人まで是非御連絡下さい。

お待ちしています

今年は梅雨明けが遅いとか…未だに不順な気候が続いて居りますが皆様にはお元気でお暮しの事と存じます

さて通心ネットワーク設立に向けて 皆様のお手元にお手紙を差し上げまして はや二ヶ月が過ぎました。早く中間報告をと思いながら雑事に追われ 今日に至り 申し訳なく思っております

6月末現在 40名 計82.000円 お寄せ頂きました。

発起人一同で 大切に管理し 今後の運営費等に充てさせて頂きます。くわしくは 設立の会に於いて 話し合い いずれその報告もさせて頂きます

送って頂きました送付書に書かれたなつかしい文字を見る度に 一人一人の顔や 学生時代の出来事が思い出されます

お寄せ頂いた近況より

- 徳島県経済農協連で 全農ー経済連ー農協をネットワーク化する開発業務に従事しています ——青井洋明さん
- 自分の母校下田北高 10年目になります ——高橋広明さん
- ロスで暮して12年 ロス暴動で失ったもの 得た教訓も計り知れず… ——片平しげ子さん
- だんだん顔が一致しなくなりました 私の時は写真入りにしたいわ…… ——平野幸代さん（旧小原）
- 私もしっかりと時を大切に ——坪山広子さん（旧相沢）
- 級友の住所をたくさんお知らせ下さった 迫田けい子さん（旧佐藤） 小林康子さん（旧毛利） 林千津子さん 岩下幸代さん（旧白石） 青木安代さん（旧植松）
- 皆様の日常生活を知る事は励みになります。毎日忙しいのみです など 色々ありました。お忙しい中 本当に有り難うございました。

秋頃に設立の会を校友会館にて開催しようと現在話しを進めております。詳細事項が決まりましたらお知らせ致します。

お目にかかれる事を発起人一同楽しみにしています。

1992年7月20日

通心ネットワーク 発起人

石川恵一　　出沼恵子（旧井田）
伊藤章子　　斉藤笙子（旧村治）
長谷川勉　　羽田綾女

通　心　ＮＯ１６　安福義郎 発信　Ｈ４．９．２５

真夏のエネルギッシュな陽気よりも、秋のさわやかさが好きになりました。

花の名前を知らなかった人が花の名前を覚えました。月を見ることもなかったのに、十五夜に酒を飲みました。

皆さん元気でしょうか？自分の回りが少し見え出した年齢になりました。

通心、スタートして早いもので１６回目になります。いろんな方にスピーカーをやっていただいて、私がスピーカーをするのが今回初めてです。

先日、東京で“通心ネットワーク”の発会を兼ねて皆と会いました。残念ながら出席できなかった 人に報告致します。

《井田恵子さん》
ご苦労さんでした。早くから準備等で忙しかったでしょう。ネットワークも貴方の力があったれ ばこそです。

《柴田きみ子さん》
買い物の途中で会に参加したという柴田さんチャリンコに乗って来たそうです。

《伊藤章子さん》
おおらかで、優しくて、気取りがなくて、酒が飲 飲めて、ネットワークの中心です。無理なく進め てください。

《石川恵一》
ブーと話したけど、一番変わっていないね、性格も風貌も、これからもよろしくな

《国分麗子さん》
貴方の明るさは昔のまま、それだけで今までの人生が幸せだったんだと思います。あまり飲み過ぎないように。

《片平しげ子さん》
片っぺ、遠いいところ来てくれてありがとう。そろそろ日本に帰って来ること、考えてみたら・・・。

《河井孝幸》
通心を書くのも、皆と出会うのも君と偶然の出会いがきっかけです。近くにいる者どうしで一度会いましょう。

《河野清一》
正直いって名前と顔が一致しなかった一人でした。受付で顔を見た瞬間、思い出しました。なつかしく思わず笑ってしまいました。

《毛利膺子さん》
同級生に教師や公務員が多い中、流通関係は貴女と私位でしょうか？その中で水口先生をご存じとは、同じ視点をもっているようで嬉しく思います。

《後藤由紀子さん》
貴女も先生だったのですね、ブーと卒業依頼会ったのも今回初めてというのも驚きでした。貴女も飲み過ぎに注意して下さい。

《栗崎康夫》
相変わらず元気そうでなにより、良い意味での学生っぽさをもっているのは、お前位のもんでずっと変わらずにいて欲しい。

《小林良弘》
仙台への単身赴任は大変ですね、いろんなスポーツやっている様だけど、酒なら一ノ蔵がいいよ。

《畠山拓代さん》
久し振りでしたね、田舎が旅館だったこと初めて知りました。住所を見ると東北の片田舎で夕方に野焼きの煙が静かに上っている様を勝手に想像します。出張が多いですから一度行ってみたいと思います。

《斎藤笙子さん》
名司会、さすがのものでした。エジプトへ何回も行ってらして、その関係の仕事もされているようですが、短い言葉の中に充実した生活ぶりが伺えました。通心、御苦労様ですがよろしく、

《佐藤けい子さん》
迫田君は元気ですか、貴女の歯切れのいい言葉、迫力のあるトーク、団塊の世代は多彩です。ますます元気で。

《羽田綾女さん》
旦那は元気ですか、お茶の先生とかで、私も少しだけかじっています。表千家ですが一昨年でしたか京都で利久四百周忌も行きました。「冷え枯れた様」とは一体何でしょう。

《長谷川 勉》
横町の若様、司会御苦労様でした。君を見るたびに通心を思い出します。本は読んでいますか。

《中上花子さん》
ずっと教師をやっていたんですね、それをやめたって？皆うなづいていましたよ、理解できるできないということより、真面目に真っすぐ生きているなと思います。

《平田真知子さん》
11月札幌へ行くから、旨いもん食わしてよ、ソイなんかいいんでないかい。したっけススキノでも行くベカ。

《広川 誠》
会ったときに、そういえばどこかで会ったような印象でした。社会教育の仕事をやられているようで、今後は河野くんと通心でお世話になります。

《魚井千津子さん》
少し遅れ気味に入って来て、俯き加減で席に座って、順番がきたら「今,本の出版やってます」オイ少しカッコいいんでないかい。しかし元気でなによりですよ。

《島村幸子さん》
今までの通心を子供さんに見せて、「見て見て、人生は学歴じゃないの一流大学じゃないの」っていったのを聞いた時、通心を出して良かったって思いました。言葉で言えないけど何かほのぼのとしたものが伝わってきますよね。

《小平ともみさん》
教職員組合でご苦労されましたね、でも大学時代を思い出してがんばったって、でもこれからは今の皆を見ていたら勇気がでてきますよね。

《安藤義政》
大正琴だったっけ、何か弾かせたらプロだっていってたけど、以外でしたね。来るつもりではなかったらしいけど、参加して良かったでしょ？

《武藤敏子さん》
面影がありましたね、名簿ではわからなかったのですが、あぁと納得しました。貴女もはじめ欠席だったようですが、思い切って来てしばし時間をフライトさせたんではないでしょうか？

四十路を越えて、仕事でも地域社会でも責任のある立場となってまいりました。肩書で話す人に囲まれてずっと走って来たような気がします。
通心はあだ名で呼び合った時代の、仲間の応援歌す。誰か困ったときに、直接赴いて励ますことはできないけれど、誰かの通心を読んで、ほのぼのとした暖かさが伝われば立派な応援歌です。
無理に背伸びをする事もなく、大きな声を上げ論議するのでもなく、年をとることが恥ずかしいのでもない、そんなネットワークはどこにもないのではないでしょうか？
今回残念ながら参加できなかった人のなかで、ためらった人がいるとしたら、20年前に戻ろう面倒と思った人がいたら、みんな老けたゾ、顔みに来たらといいたい。次回いつ会うかわからないけれど、みんな元気で・・・。

日増しに秋深くなって参りました。
皆様のお手元に「通心」をお届け致します。
今回は9月に行われました同期会記念号です。
リポーターとして安福君又新潟から駆けつけてくれた国分さんに
感想をお寄せ頂きました。
当日は2次会より参加してくれました船橋さんを含め27名の
友人が集まり　大学前　巣鴨と懐かしいひとときを過しました。
当日の集合写真を誠に勝手乍ら通心をお届けしている76名
全員の皆様にお送りさせて頂きました。
懐かしい顔が見つかる事と思います
卒業以来20年　それぞれの人生をそれなりに一生懸命生きてきた
という年輪を重ねた。やさしい顔がそこにはあると確信しています。
次回にはもっと多くの友の顔がありますように!!
名前がどうもという人の為に。。。。。。

（安藤）（安福）（広川）（河野）（小林）（河井）（井上）（榛葉 旧足立）（藤井 旧亀井）（石川）
（植木 旧国分）（出沼 旧井田）（迫田 旧佐藤）（後藤）（高尾 旧鳥山）（片平）（広瀬 旧小平）（遠田 旧武藤）（渡辺 旧島村）（羽田）
（栗崎）（伊藤）（長谷川）（平田）（斉藤 旧村治）（小林 旧毛利）

通心ネットワーク発足会にて話し合い承認を得ました事は別紙にて
御報告します。今年春に呼びかけました賛同費は10月現在46名から
お寄せ頂きました　今回発送分まで差し引きまして残高35,000円です
今後1年余りは運営できそうです
次回は広川誠君がリポーターです　悩み多き高校教師
としてどんな報告が届きますか楽しみです　今までに判明しました
旧友の住所を住所録として次回に発送します。
皆様お元気でお暮し下さい。

1992年10月20日　通心ネットワーク事務局

通心ネットワークの発足にあたって、9月13日に、校友会館に、お集まりいただいた方々の、承認を得た内容について、御報告いたします。

「通心」も回を重ねて、既に、No.15にまでなりました。これも、投稿いただいた方々の御協力と、何よりも、これまで、たった一人でワープロを打ち、宛名を書き、発送してくれた安福君の努力の賜物と、感謝しております。「通心」も回を重ねるにつれ、消息が、途だえていた旧き友とも連絡がつき、「通心」を受け取る人の数も、当初の頃と比べますと、倍くらいに、増えています。これだけの広がりを持ってきますと、とても一人で全てをやるのは無理です。そこで、これまで、安福君がやっていた事を、「通心ネットワーク、センター」がやろうという事になりました。そうなると、その運営にあたっての最低限の申し合せだけは、決めておかなければなりません。そして、先日、校友会館に於いて、次の事が、承認されました。

- 会の名称は、東洋大学史学科通心ネットワーク、といい、通称は、通心ネットワークです。
- 会の目的は、会員相互の連絡を企り親睦を高め、友誼を深める事により、将来に渡って、友情を育むことにあります。
- 会の目的を達成する為に、会員間の心を通わせるものとして、「通心」を発行します。
- 会員は、昭和42年東洋大学史学科入学生を対象としますが、同じ時代、同じ空間を共有した、人達をも含めて、巾広く、対象とします。
- 「通心」は、昭和42年入学生に対しては、現住所の判明していない人を除き、全ての人達に送付します。その他の人達に対しては、自薦、他薦にもとづいて送付します。ただし、受け取る方のほうから断わりがあった場合には、強いて、送付することはしません。
- 会の運営、「通心」の発行にかかる費用については、その必要に応じて、会費をつのります。
- 会の会計報告は年に一度、「通心」を通じて、残高等をお知らせすることとし、三年に一度くらいの割合で、同期会を催し、その席上に、於いて、収支を報告するようにします。
- 会の運営にあたっては、ネットワークセンターが、会員にかわって行ないます。センターのメンバーは、当面、発起人会があたりますが、センターのメンバーは会員であれば、誰でもなれます。固定されたものでもなく、それぞれの都合により、自由に、加わったり、休んだりすることができます。
- 「通心ネットワークセンター」の連絡所は、伊藤章子さんのお宅を使わせていただきます。

KOKUYO
KOKUYO

以上の様な事がらを承認いただいて、これからも、さらに、輪を広げていく事を確認しあいました。

「通心」は、センターだけのものではありません。その時々のリポーターだけのものでもありません。受け取っている人達全てのものです。ハイキングの企画、旅行の計画、遊びのプラン、なんでもかまいません。

「河野君、私の所にはこんなローカル線がありますよ」なんていう呼びかけが戻ってくるとうれしいですよね。ローカル線の旅なんて企画があってもいいですね。「綾女さん、めずらしい野の花を押し花にしたので送ります」なんて返事がきたら、それこそ感激ですよね。花の絵ハガキ展の開催を、お手伝いします。「安代さん、僕の所でも、こんな消費者運動やってます」なんて言われたら、勇気百倍ですよね。

そうです。「通心」は、会員相互のそんな交わりを深めていくためのものです。どしどし活用して下さい。
こんどのリポーターは○○さんときまっているから、遠慮しようなんて思わないで下さい。「通心」は、皆さまのものなのです。

今后共、勢一杯、でも、たまには、力を抜いて、頑張っていきますので、どうぞ、いつまでも、支えて下さい。よろしく、お願いします。

KOKUYO

９月１３日の出会いは、あれは夢ではないだろうかと思えるほど私にとっては衝撃的なものでした。大学を卒業して由紀子以外の人とは音信不通、一生会うこともないだろうと思っていた人たちに会えるなんてまさしく夢の気分。　でも、夢じゃないのよね、ときおり浮かぶ皆の顔は四十路をすぎた今の顔だもの。

会う少し前に石川君から電話をもらったのに顔が思い出せず、果たして皆に会ってわかるだろうか。覚えていてくれるだろうかと正直いって不安でした。当日学校の前に立っても見も知らぬ所にいるようで、気持はまるでおのぼりさんそのもの。ところが甫水会館の前に立っている人を見たとたん「長谷川君」と叫んでいたのです。これには自分でもびっくりしました。というのは前の日、長谷川君のことが由紀子と私の間で話題になったのに、名前がどうしても思い出せなかったからです。
皆に会った瞬間、時が二十年前にＴｉｍｅ　Ｓｌｉｐしたかの如く次々と名前が出てくるのです。もちろん石川君も一目でわかりました。

会って強く感じたことーみんな、いい大人になったね。
あの頃持っていた青くささや、がむしゃらさはなくなつたけど、一人一人の話にはそれぞれが精一杯生きて来た年輪すら感じさせられました
また、青春時代の一ページを共有した者と飲むお酒の味は、格別なものでした。

これからもネットワークを通じ、たまには会ったりして青春時代にもどりまだまだ続く人生のリフレッシュの場にしていけたらいいなと思います。そのためにも長～くこのネットワークが続くことを祈っています。

９月２７日　　　植木　麗子
（旧姓　国分）

追伸

由紀子へ、一宿ありがとうございました。妹さんにくれぐれもよろしくお伝え下さい。

城郭研究会の皆さんお元気ですか？　ぜひ次回には会いましょう。

通信　　NO,17,　　1992,11,20,

広川　　誠

《 感謝 》　去る9月19日，20数年ぶりに史学科の方々とお会いしました。地下鉄を降りて校友会館の前で，長谷川・河野両氏のすがたを見たときの懐かしさは一入でした。
翌日の仕事の関係もあって，早めに帰える予定だったのですが，長谷川氏と伊藤章子さんを無理矢理(?)誘って入った喫茶店では遂にﾗｽﾄｵｰﾀﾞｰ。帰宅したのは午前1：30，本当に楽しいTime Slip でした。
通信 ﾈｯﾄﾜｰｸの発起人のみなさん，親睦会の皆さん大変ご苦労様でした。

《 私の近状 》 東京多摩地区の日野市に生活して早くも14年が過ぎました。都立高校勤務を契機に，都区内での下宿生活に終止符を打ってこの地に移り住んだのですが，家のまわりにはまだ田圃や畑がかなり残っていて，農村育ちの私にはなかなかﾏｯﾁした生活環境です。

わが家は，妻と子供2人の4人家族ですが，冬の季節になると，厳冬を避けて，私の父母が新潟からやって来るため6人家族に増えます。

妻は，日野市の臨時職員として市立幼稚園に勤務する傍ら，生来のｽﾎﾟｰﾂ好きも合って，地元のバレーチームに参加。毎週水・土曜日，時としては日曜日にも練習，試合にと結構楽しそうに人生を送って居る。彼女の得意とする料理は冬場年寄りと一緒のためか(?),煮物ときんぴ・らごぼうでしようか。！

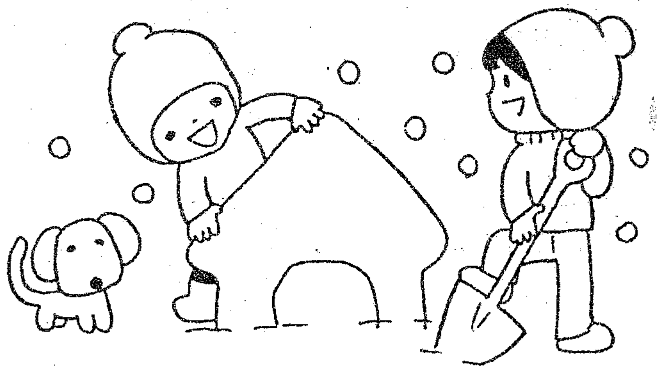
，長男 「直人」は小学校6年，電車と川遊びが大好きだった頃の面影がやや無くなり，かなり難しくなってきた学校の勉強に四苦八苦の毎日。彼が最近興味を持ち始めた事は,「バスケットボール」と友達と一緒に行く「サイクリング」でしょうか。ともあれ，少しづつ私に似て来るので，なにやら複雑なきもちです。

長女 「綾子」は小学校1年生。今月の8日に 「七・五・三」の祝いをしたばかり。週1回火曜日に 「クラシック・バレー」を習っている。それ以外の日は，下校したあと学童クラブで時間調整をし，母親の帰って来る時間に合わせて帰宅。家に帰るとすぐさま宿題を済ます，正にピカピカの1年生

私はと言えば，都立高校に勤務して本年で16年目，史学科で学んだ(?)事を生かして[日本史]を教える一方，クラスの連中と[ボーリング大会]や[カラオケ大会]に興ずることもある，言うなれば極めて並の[センコウ]です。因に私のボーリングのアベレージは140位，カラオケの二十八番はTuBEの[湘南MY LOVE]です。

毎日が女子高生に囲まれてまるで天国にでも行ったみたいな日々，60歳までこの仕事を続けて行きます。とは言うものの，時として私の発言が大きくその場の流れを変えてしまう様を見るにつけても，ただ反体制的立場に安住ばかりもして居られず，些かうんざりしている今日この頃です。

では，全国の[通信ネットワーク]関係者のみなさん
このへんでさようなら。



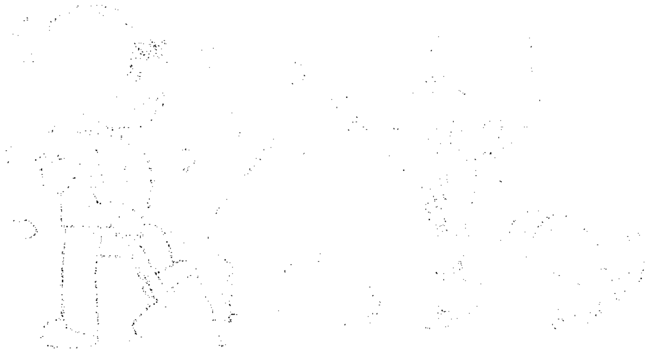
ここでちょっと本の紹介を（ 共著ですが私も執筆しているので ）

※ 東京をご旅行の方に。

- 史跡探訪 [関東100選] ：下巻　　山川出版
- 新全国歴史散歩 [東京都の歴史散歩]：上．中．下巻　山川出版

※ 大学受験のお子さんをお持ちの方へ。

- 大学受験準備のペースメーカー[受験の日本史]　聖文社



【通心ネットワーク】

	氏名	旧姓	住所	TEL.
(西)	青井洋明		徳島県美馬郡脇町拝原町東	0883-52-3185
	安彩和子	田宮	東京都台東区浅草橋2の5の8	03-3864-9897
	青木康広		兵庫県神崎郡市川町上牛尾59	0790-27-0021
	安代	植松	同上	同上
	荒田由紀	斉藤	東京都杉並区下井草5の2の5の210	03-3397-7541
	出沼恵子	井田	千葉県市川市曽谷3の11の10	0473-71-4748
(西)	井上きみ子	柴田	東京都文京区本駒込3の20の5 柴田方	
	井上太郎		神奈川県中郡二宮町一色404	0463-71-1996
	五十嵐友子	山口	東京都板橋区坂下2の1の2の809	03-3966-8110
	伊藤章子		〃 杉並区高円寺北2の28の19	03-3337-4792
	飯田良一		三重県津市大字藤方1129	0592-27-4087
	石川恵一		栃木県宇都宮市大曽4の6の6	0286-25-4933
	岩下幸枝	白石	長野県小県郡東部町田中220	0268-62-0988
	植木麗子	国分	新潟県新潟市新和154-406	025-283-4595
	辻井早苗	杉崎	東京都江東区高橋10-1	
(西)	瓜生もと代	永倉	神奈川県横浜市港北区師岡329の1 パロス大倉山210	045-543-0318
	小川武保		千葉県館山市湊37の2	0470-22-6211
	大浦憲文		宮崎市大工3丁目144番地 大工マンション103号	0985-25-8412
(東)	岡本俊朗		東京都目黒区自由ヶ丘1の16の7	
(東)	片平しげ子		2819 E 3RD ST APT. #E LOS ANGELES CA 90033. USA	
	勝又万里	八重樫	東京都小金井市貫井南町4の29の6	0423-84-6471
	神崎美智子	小針	兵庫県神戸市垂水区西舞子9の12の1	078-781-9166
	河井孝幸		〃 相生市大谷町11の14	07912-3-2092
(西)	河野清一		千葉県習志野市鷺沼3の19の16	0474-52-0907
	木村敏子	峰広	神奈川県横浜市泉区上飯田町4679の8	045-301-2563
	小谷保子	坂元	東京都府中市多摩町2-3-6	
	小林庸子	毛利	〃 北区中十条3の21の8の102	03-3908-6880
	後藤由紀子		静岡県富士市神谷517	0545-34-0151
	栗崎康夫		大田区田園調布1-3-2	〒145 3721-6434
東	小林良弘		仙台市若林区河原町1-3-39-303	〒980
東	長谷川憲次		相模原市古淵1807-14	〒229 0427-43-0815
東	長谷川士郎		足立区西保木間3-12-11-302	〒121 3884-6652
東	藤井哲郎		台東区松ヶ谷1-6-15	〒111 3841-0362
〃	吉田学		松戸市小金原8-9-6	〒270 0473-44-6862
西	影山志保子	桑原	木更津市小浜382	〒292 0438-36-1135
東	黒田正子		(実家)名古屋市昭和区池端町2-24	〒466
	竹中義人		(実家)福岡市警固3-4-3	〒810
西	高尾拓代	島山	中央区月島3-31-7 月島マンション703号	〒104 3531-3735

	氏名	旧姓	住所	TEL.
	砂生佳人		埼玉県比企郡吉見村大串372	0493-54-2297
(西)	斉藤笙子	村治	東京都杉並区和泉3の41の8	03-3328-3610
(東)	迫田章朗		千葉県千葉市美浜区磯辺5の16の5の506	0472-77-1658
(東)	けい子	佐藤	同上	同上
	佐々木ひろ子	古山	静岡県浜松市新津町955	0534-63-7090
	須藤良子	川島	福島県いわき市郷ヶ丘3の3の14	0246-28-3984
(東)	須藤信夫		市川市幸1-1-1 行徳ニューグランドハイツ1215	0473-99-2229?
	高橋広明		静岡県下田市箕作759	0558-28-1228
	田中優子	高橋	東京都練馬区上石神井4の3の3	03-3920-9760
	坪山広子	相沢	〃 東村山市多摩湖町2の23の37	0423-95-1981
	※小沢典子	富樫	京都府宇治市伊勢田町大谷20の8	0774-44-2721
	長沼真由美	西川	千葉県柏市あけぼの2の9の20 B-205	0471-45-6107
	羽田綾女		山梨県都留市中央2の4の3	05544-3-2661
	長谷川勉		東京都板橋区清水町35	03-3961-4582
	林千津子		富山県高岡市中川上町13の14	0766-23-5381
	榛葉花子	中上	静岡県島田市阪本3272	05473-8-0023
	平田真知子		北海道札幌市白石区栄通14 リバーサイドハイツ3-111	011-855-3772
	平野幸代	小原	千葉県君津市下湯江182	0439-52-0694
	広川誠		東京都日野市川辺堀ノ内10の3	0425-84-0334
	藤井千津子	魚井	富山県富山市上赤江2-2 4-101	
	三沢栄子	船橋	埼玉県川口市新堀620-1 メゾン新堀705	0482-95-0597
(東)	宮崎晴江		福山市東町2の2の34	
	本山泰三		神奈川県横浜市緑区長津田町3288の9の305	045-981-3582
	富美江	林	同上	〃
	山田常雄		千葉県君津郡袖ヶ浦町下新田960	0438-63-0329
	安福義郎		兵庫県加古川市西神吉町岸575の10	0794-32-5419
	渡辺幸子	島村	東京都葛飾区西亀有2の34の5	03-3603-9714
	渡辺幸子	藤田	福島県二本松市箕輪1の585	02432-3-7156
東	岩佐敬子	田中	茅ヶ崎市浜見平14-3-501	〒253 0467-83-8791
〃	福本房子	新垣	奈良市五條市新町3-5-2	〒637
	遠田敏子	武藤	八王子市元横山町1-20-5	
	越智田順子		浜田市片庭町130-13	
	土屋由紀子	清田	大阪府茨木市中津町20-28-B401	
東	広瀬ともみ	小平	相模原市相模台6-22-13	〒228 0427-46-6138
〃	室井みゆき	花崎	横浜市緑区田奈町39-18	045-98-0031
	安藤義政		蕨市塚越2-3-14	〒335 0484-42-3543
	鎌田敏男		山形県東田川郡立川町狩川字中川原	〒999-66
	高橋貴志子		北九州市若松区白山2-12-55	〒808

「通心ネットワーク」

早いもので、師走となりました。皆様如何お過ごしですか。。

正直、またお正月かという気持ちです。ここ数年、一週間いや一年のたつのが早いですね。そんな中、今回のリポーター広川君より約束の日１５日きっかり「できました。」とお電話が有りました。そして、数日後忙しい中、学校を終えて１００枚印刷した１７号通心を持って、高円寺に来てくれました。私としては、２０年全く音信がなかった仲間とこうして交流が復活出来た事は役得かなと感謝しています。

広川君いわく「愛妻の事が少し書き足りなかったのだが・・・・・・。まあ、こんなとこかな。」という姿は昔のまんま。たしか「俺は、着物の似合う女性と結婚するんだ。」なんて・・・言っていましたね。変わらない広川君に安心しました。

〔おまけ〕

私（広川）は、犬が大嫌い。だが、妻そして子供２人は大好き。
多数決の結果、３：１で、私が敗北。
家族になって早くも六ヵ月。私も少し好きになってきました。犬の名前は、チロ。今では私の子供です。

これは、できあがった原稿を見た長男の直人君が「チロも家族だから家族紹介に入れて。と切望したんだが・・・」と聞いて、私がおまけに付けてみました。

家族の希望の星，お父さん、これからも直人君、綾子ちゃん

そして　教室の子供達の為に頑張って下さい。

来年中にはワープロ化した名簿をお送りする予定です。今回お送りした名簿に記載されていない友人がいましたら是非教えて下さい。

次回は、五十嵐（山口）さん。お願いします。

では、通心ネットワークの皆さん　健康で良いお年をお迎え下さい。そして、来年は平和で暮らし良い一年になりますように・・・・・・・

１９９２年１２月１０日　通心ネットワークセンター

一月は行く、二月は逃げると申しますが、１９９３年も既に三月になろうとしています世の中暗い動きもありますが季節は確実に春へと向かっているようです。

皆様如何お過ごしですか。

二月を受験生の親として過ごされた通心仲間も今年は多かったようです。

インフルエンザ大流行の中御苦労様でした。

子供達が高校を卒業し、家を離れ、それぞれの土地で心細く暮らす事もあると思います

幸い通心ネットワークは、全国規模ですし、その土地で困った事があればお互い学生時代を思い、親がわりに子供達の相談にのることができればと思います。

東京で困った事があれば通心ネットワークセンターまでお電話ください。

東洋史の山口さんから通心の原稿が届きました。通心Ｎｏ１８をお手元にお送りします

山口さんは、前前回の同期会にアッと驚くチャイナ服でさっそうと現れ、又前回は中国行中との事で欠席でしたが、その訳がようやくわかりました。

石川くんからの尾瀬へのお誘いの便りを同封します。一昨年は、魚井さんの娘さん、井田さん親子、河野君、青木さん一家、伊藤親子が、石川君の案内で尾瀬の湿原とニッコウキスゲに酔いました。その時の様子は通心Ｎｏ１３井田さんの報告のとおりです。

さて、今年はどんな尾瀬の姿に出会う事ができるでしょう。

第二弾と続く予定です。

次回は、日本史の岩下（白石）さんです。お楽しみに・・・・・・。

ＰＳ

前回より通心をお届けしている封筒に使用している差出人のゴム印（３種類）を羽田さんより送って頂きました。“大助かりです。本当にありがとう。”

１９９３年２月２３日

通心ネットワークセンター

☎０３（３３３７）４７９２　伊藤方

通　心　NO・18　1993・2・4　五十嵐友子

伊藤さんから原稿依頼のTELをいただき、軽い気持ちでお引き受けしたのですが、うっかり、卒業後の20数年間を真面目に振り返ってみたりして、筆が進まなくなりました。

以上、原稿が遅くなったことの言い訳です。

さて、私ですが大学卒業後勤めた出版社にそのまま籍を置いています。家族は、温泉とおいしいものをこよなく愛する自営業の夫と、でき心で拾ってしまった雄猫１匹のミニ世帯です。

前述のようにいろいろ考えたのですが、子供もいませんし、私の生活のかなりのウェイトを占めるのは仕事ですのでまず仕事の話を少し。

仕事は小学校理科の教科書の編集です。教科書といっても教科によって、また、小・中・高によっても仕事内容はずいぶん違い、小学校理科の場合は、紙面のほとんどを写真が占めてますので、写真に関わる仕事をすることがかなり多いです。

教科書編集の仕事はとにかく残業と休日出勤の多い仕事で、主婦には不向きと思いつつ働いています。とりわけこの4・5年仕事がきつくて、小和田雅子さんが月200時間の残業をこなしても愚痴１つ言わないと新聞報道されましたが、私などは周囲に愚痴をこぼしまくって過ごしてまいりました。凡人とお后になる人間とのレベルの違いでしょうか。

入社当時から「銀座のトシマ園」と呼ばれていた会社ですから、環境的には結婚後もさほど居づらい思いもせずに今まできましたが、これから定年までが我慢の時だと思っています。

文部省の最近の教科書検定の状況をちょっと。

今だんとつ理不尽な検定をしている教科は理科、それも生物の分野です。１昨年の小学校、昨年の中学校ともに理科教科書の検定は、分野や会社間での検定指示内容の不統一、圧倒的な直しの量の多さが特徴的で、入社以来初めての大直しとなりました。

そして、今年、わが社の高校生物教科書の検定では、いきなり「総ページの○○分の１、実験・観察がなければいけない」と本の構成の根幹に関わる意見がついて、全ページ直すはめになりました。

あまりの直しの量の多さに、発行そのものを再検討した会社、生物の教科書を２冊出して、２冊とも検定落ちした会社、検定の１次修正表を出したところで編集者が退職、２次修正表を出す前に発行取りやめを決めた会社などいろいろ聞こえてきました。私だって、デューダがきけば、辞めていました。

いろいろ不服のある検定ですが、すっかり骨抜きになっている私には、薬を飲み飲み細い身体で権力に対抗している家永先生は、後光がさして見えます。

続けてローカルな話ですみませんが、教科書の定価の話をどうしても聞いていただきたいのです。

義務教育の教科書は無償ですし、教科書に定価表示されてませんのでご存知ないと思いますが、小・中の教科書は本当に廉価です。小学校理科教科書でいえば、１冊300円台です。雑誌と違って広告料がとれないどころか、「メーカーがわからないようにする」、これ、教科書の検定条件の１つです。ビーカーだってフラスコだって、メーカーのわからなくなるところまでくるりと回して、写真を撮らねばなりません。

教科書発行会社が加入する教科書協会が資料を提出し、それを参考に文部省が定価をつけるわけですが、今、児童・生徒数の減少に悩む教科書発行会社の社員としては、一般書籍に準ずる定価のつけ方を文部省にしてほしいとしみじみ思うわけです。

さて、はじめに温泉とおいしいものをこよなく愛する夫と紹介しましたが、夫は本当に旅行好きな人で、猫を獣医に預けては２人で旅行に出ています。私は仕事がとても忙しいので、休みなどには溜った家事をこなしたいと思うのですが（主人も忙しいはずなのですが）、誘われて行かないとうるさいのでついていくわけです。お陰様で、随分とあちこちの温泉に入り、おいしいものを食べてもいるのでしょうが（いつも割り勘）、とにかくいつも忙しいという思いがまとわりついて離れません。

そして、夫はやけに中国好きでもあります。卒業後私にはとんと縁のなかった中国ですが、結婚以来一緒に大陸に渡ること十数回、中国での友達も増えて、この年末年始、10通あまりのグリーティングカードがわが家に舞い込みました。あの広い中国のあちこちから、嬉しいではありませんか。

そんなわけで、昨夏、２０年間忘れていた中国語を習い始めました。どこまで続くことやら? まぁ、皆様に明らかにしたからには、みっともない中断はしたくないのですが。

でも、本当は私は動・植物を見るツアーに参加したいのです。昨年行った、中国・パキスタン国境で思いがけなく見ることのできたヒマラヤマーモット、ラクダで登った敦煌の鳴沙山では、砂に慌てて隠れるトカゲがいちばんの思い出となりました（大学での私の専攻を夫は信じません）。

何とか、２回に１回は夫の押し付けから逃れて、行きたいところに行きたいものだと思っています。

知合いの画家に「年をとると体力が落ちるだけではなくて病気が加わってくるヨ」といわれました。そういえば、今まで、風邪で寝込むことなど殆ど無かったのですが、年末に寝込み、ここへきてまた、ダウン。皆様も身体をお大事に。それでは、また!

尾瀬への訪い

第Ⅱ回

尾瀬ヶ原に水芭蕉と りュウキンカを見る

前回は、ニッコウキスゲを、尾瀬沼に尋ねましたが、今回は、尾瀬の花といえば、水芭蕉という程に、尾瀬の代名詞にもなっている、水芭蕉と、その水芭蕉に研を競うように咲くりュウキンカを、尾瀬ヶ原に尋ねます。

水芭蕉の時期、尾瀬には大勢の人がおとずれます。5月の末から6月初めにかけての、土曜、日曜ともなれば、1万5千人から、2万人もの人々が尾瀬に入山します。尾瀬沼へ向かう人達は半数以上が、大清水から、残りの人達は、沼山峠から入山します。

尾瀬ヶ原へ向う人達の大部分は、鳩待峠から入山します。鳩待峠と山の鼻間 3.5kmは、人の連なりで埋まります。

土曜日の山小屋は、食事の順番待ちで、廊下には長い列が出来ます。前回は夏休みを利用して、子供達も一諸に参加できましたが、今回は週末に計画を立てる事は出来ません。何故ならば、日曜日の午後3時頃の鳩待峠は、人の群で、身動きがとれなくなるからです。

従いまして、6月の第1～2週のウィークデーに、1泊2日の予定で計画を組みたいと思います。

宿泊は、尾瀬ヶ原の山の鼻地区にある山小屋の予定です。日程及び行程は、次回、御案内いたします。

学生時代に戻って、皆で尾瀬を歩いてみませんか。尾瀬を歩いた経験のある方も、始めての方も、前回の尾瀬沼とは違う、尾瀬ヶ原を歩いて、自然の中に身を浸してはいかがですか。これから順次、さまざまな「ガイド」を送ります。

どうぞ、ふるって御参加下さい。

石川

風薫る新緑の五月！！この時期ピンクや白の花をつけ，空に向かって咲いているアメリカ花水木を見かけます。樹木にも流行があるようです。連休は如何でしたか。日本は平和なんですね。

皆様のお手元に通心第１９号をお届けします。

白石さんといえば中世史研究会のメンバーでした。宝月先生、羽下先生の講義がなつかしいと電話で話していました。高校退職後合唱連盟の活動や上田市図書館でボランテアとして近世古文書に取り組んでいるとか。メンバー１８名中一番若いらしく今後も頑張って下さい。

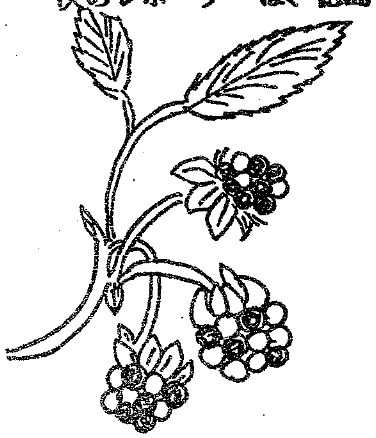
４月１０日通心ネットワークセンターの打ち合わせ会を持ちました。村治、井田、長谷川勉、石川、広川、伊藤　都合のつく者が集合しました。雑踏の新宿東口を抜け、紀の国屋方面へ。一時迷子になりかけた程の人混みでした。

取り立てて話し合う程のことは無かったのですが、名簿はワープロで広川君が作成、発送当番の順番について、通心残高２万２千円の確認、のんびり長く続けるにはどうしたら良いかなどを話し合いました。

センターは、不特定多数お出入り自由でやっています。皆さんもどうぞ御一緒に。

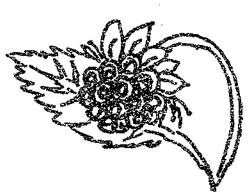
石川君からの『尾瀬へのお誘い』を同封します。今年は６月６日・７日です。今の時期尾瀬の水芭蕉とリュウキンカは、すばらしいそうです。

次のレポーターは、徳島の青井君です。お楽しみに。



１９９３年5月１２日

通心ネットワークセンター



通　　心　　No. 19

岩　下　幸　枝

新緑の美しい季節を迎えました。里から山へその緑の色調が日々変化していく様を眺めるときは、自然の息吹を肌で実感できるときでもあり、この季節ばかりは山国に住む幸せを感じています。

連休の一日、車で１５分ほどのところにある信州大学の大室農場の一角をお借りして合唱仲間とその家族で野外パーティーを行いました。この農場に勤務してる仲間の案内で１時間ほど周囲の雑木林の中を歩き山菜採りをしました。しかし、標高１０００ｍ近いあたりではようやく桜や桃の花が咲き、からまつなどの樹木も芽吹きはじめたばかりです。パーティー料理の主菜として最も期待していた「タラの芽」は小指大ほどで採ってしまうには惜しい限り・・・・。それにしても今年は例年になく春の訪れが遅いように思われます。

それでも里から運んできた材料で焼肉、そして収穫したばかりの山菜をてんぷらにして、いざ並べてみると２０数名では食べきれないほどの料理となりました。特にてんぷらはタラの芽、こごみ、やまぶき、さらにはよもぎ、たんぽぽ、すみれ等々・・・・これぞ春の味覚、山の幸といった感じ。ともあれ、満開の桃の木の下で南に残雪の八ヶ岳連峰、蓼科の山々を眺めながらの野趣満点のパーティーとなり、久しぶりに賑やかで楽しいひとときを過ごしました。

さて、東信濃の私の住む小さな町についてお話します。東部町──この町は小諸市と上田市に挟まれ、浅間連峰のひとつ烏帽子岳(2,066m)の南山麓に広がる人口２万３千ほどの小さな町ですが、東山道、北国街道、明治になって信越線、さらに２年後には上信越道のインター開設と古来よりその時々の幹線が貫通した交通の要衝であり、南斜面で雨が少なく日照時間の長い気候風土は果樹栽培に適しており、リンゴや巨峰の産地を形成しています。山国信州にあっては地理的にも気候的にも恵まれ生活しやすいところとして近年は人口も増加しております。

この地に住んで１８年あまり、結構住み良いところと満足しているのですが、今もって「東部町」という町名にはなじめません。４０年ほど前に田中町、滋野（しげの）村、禰津（ねつ）村、和（かのう）村という１町３村が合併してできた町ですが、町名を決める際にかなりもめたとのこと、結局、長野県の東方だから、いや小県（ちいさがた）郡の東方だから「東部町」となったとか。いずれにせよかなりいい加減な命名ではありませんか。

ところでこれといって特筆すべき名所旧跡はありません。ただ、相撲のお好きな方ならご存じかも知れませんが、江戸時代中期に不敗を誇ったという雷電為右衛門の生誕の地で、現在その生家が修復されその遺品と共に公開されております。

やはりこの町の良さは自然そのもの──その眺望と背後の山々の佇まいは、四季折々私たちを楽しませてくれます。特に６月下旬から７月上旬にかけて湯の丸山（2,103m）の山肌は数十万株ともいわれるレンゲツツジの朱一色に染まり、やや遅れて池の平ではアヤメやシャクナゲが咲き乱れます。また、その近くにはコマクサの群生地もあり、ハイキングのお好きな方、野草のお好きな方にはぜひ一度は訪れてほしい場所です。

最後に私の近況を少々、お話します。

高校の教師を辞めてまもなく、地元の混声合唱団に入りました。合唱団の活動のほかに、毎年１回中央から演奏者を招いて開催する音楽会や数年前に当町に開設した特別養護老人ホームでのボランティア活動は、合唱を通じて知り合った友人たちとの活動の一環でいまでは生活の大きな柱になっています。特別養護老人ホームでの活動は、毎月１回入所していらっしゃるみなさんと歌を歌ったり、合奏したり、音楽に合わせて身体を動かしたり、おしゃべりをしながら楽しんでいます。当初はどういう形で進めたらいいのかわからず手探り状態でしたが、近年音楽療法に関する研究会や講習会が全県的な規模で行われるようになり、年に２、３回勉強する機会ができました。この活動は、ボランティアというよりは私自身の生き方を見つめ直し、如何に生きるべきかを考える場となっています。

そのほかに上田市立図書館の所蔵する古文書を解読することを目的として開かれている古文書解読基礎講座に参加しています。大学時代の不勉強とその後の歴史とは無縁の生活の中で、古文書とくに近世文書などは「どこの国の文字？」と聞きたいような世界でした。この講座で私たちと同じ史学科の卒業生と出会いました。４年ほど先輩の彼女が、「古文書の学習は、焦らず気長に続けられればいいわね。」と話していました。

思い出を共有できる友がいて、心から語り合える友がいて、そんな友達とのつながりのなかで日々過ごせたら、何よりの幸せと思える今日この頃です。

通　心　第 20 号

青 井 洋 明

近況を報告します。
平成５年４月１日、システム本稼働。残高の確認。部署別には、職員青井を配置。マニュアルの必携。一週間前までに、端末機の作動を確認する事。未収、未払いの新旧年度分のデータＳＡＶＥ・・・・・。

母校を卒業し、農協に就職したのが昭和４８年。全く畑の異なる業務が命令された。簿記、珠算、・・・・経営分析、なんなのか解らん。とりあえず電卓もなし、６級の練習から始めた。次に、企画課にゆく。旧電算システムの構築期に参加。東京田町にあるＮＥＣの研修センターにて、１週間のコボル実習を行なった。帰会して即、オンコーディング（プログラムソフトを作らされること）。自主開発メンバーは８名、２０時間の仕事をこなした。２名自立神経失調症。１名円型ハゲ。１名胆石。１名健在。あとは不明であった。無残な結果となってしまった。

監査室での業務は、農協監査士の資格を取得するよう命令された。筆記試験はなんとかクリア。八王子の中央協同学園での面接でポカをした。

負債額５千万円。牛家のおっさんは理屈をこねる。
「おっさん、牛は何んぼ出るんで？」（牛は何頭出荷できるのですか）
「飼料（エサ）は農協へ何んぼ払うたん？」（支払いをしたのですか）
「この牛は５０万で売れたんぞ。」（５０万で売れましたよ）

バブル経済が作られつつあった頃、借金はどんどん大きくなっている。このおっさんは何を考えているのだろうか。金は天下の回りものか？とりあえず帳簿をつけさせた。単式簿記と簡単な技術分析をパソコンで作る。おっさんの目くらましをした。

今度、情報システム課ができる！という人のうわさをきいた。
経営分析、負債対応もうまく処理できた物件、逆効果の物件もあり、仕事へのマンネリ化が自分の中に現われ始めている。人事異動は時により起案者が当然その職務に就く場合もあるが、急転直下、スタッフの編成替えも行なわれる。

内示まであと一週間・・・・・またシステムの構築か・・・・・と苦い経験が巡る。有能な人材が４名確保された。何のために・・・・・と。どのように・・・・・と。規模は・・・・・。立場が逆になった事は確かだ。我々の農協は今、組織再編の問題と、行政とのはざまで方向が定まっていない。産業構成比１０％を割った現実を背負いつつ、世界の農協は活性化が可能か？

４５０人の生活もあと１０年は確保させるための手段は何なのか解らん。

自分が動かなければ何も結果が出ない（端末機の操作で業務を行なわないと課業が不明となる）電算システムを構築した。

企業にとっての常識が通用していない農協。まもなく部署の統廃合が行なわれる。自賄いシステム、青井商店は復活にかけよう。

青井君の原稿をワープロで打つことになり、長谷川君と伊藤さんが目を通してくれたものが手元に届きました。オリジナルの文字からは青井君らしさがほとばしるようで彼が畑違いの職場にとびこんだ様子、そして、戸惑いながらもだんだんと実力や自信をつけていく姿が感じられました。ちょっと大人っぽくって、むずかしそうだけれど真面目。私の学生時代の彼の印象でした。いろいろなことを自由に書いてもらえるのも『通心』の良いところですね。

私はといえば、ちょうどナポレオンの『エジプト誌』の翻訳（フランスの学者たちがエジプト遠征の時に調査した図版に英語で解説を付けたもの）を高校時代からの夢が叶ったとワクワクしながら打ち終わったところです。不況の煽りは出版業界も受けているらしく、その前の仕事の原稿は依頼主が予定の出版社から別の所へ売り込み中だということです。「本の完成より自分の好きなことを必死でやっている時の充実感の方に満足する」と言えば、主人や娘たちには歓迎され「主婦で生活がかかっていないから」と他人や同僚には批判されます。でも、できれば自分もそうしたいと誰もが思っているようです。自分らしく生きることをわれわれ団塊の世代は結構上手なのではありませんか。

６月に旧ソ連に行く機会があり革命後の過渡期のロシアを垣間見ることができました。貨幣のことで市民は混乱しているようでしたが（頭を使ってドルをため込む人が多くなり先行き心配です）、生活はさほど変わりはありませんでした。そして「明日のことは解らない」と不安を隠しきれないのが一般庶民の一致した感想でした。ただ、以前のように警戒心丸出しの人が少なくなったので町は歩きやすくなりました。　（村治記）

初秋の候、いかがお過ごしでしょうか。
さてこのたび、12月1日（水）から5日（日）の5日間、新宿スペース・ゼロにおきまして、財津一郎主演、スパー・ヴォードヴィル「OFF・LIMITS」の公演を行う運びとなりましたのでご案内申しあげます。

昨年、財津一郎さんにお会いする機会があり、そのおり伺った彼の青春時代（米軍キャンプ時代）のお話にすっかり魅了され、今回の舞台を企画・プロデュースすることになりました。

アル・ジョルスンを敬愛し、ジャズ歌手を夢見て、戦後の米軍キャンプで歌っていた若き日の財津一郎・・・・・
あれから40年、いまや押しも押されぬベテラン役者財津一郎が懐かしいジャズ・ソングの数々に乗せて振返る青春キャンプ時代。
歌あり、踊りあり、芸人たちのマイムに曲芸etc.
笑いとペーソス溢れる大人のためのエンターテインメントな舞台を、ご覧いただけると存じます。

どうぞ、お誘い合せのうえ、新宿甲州口スペー・ゼロにお運びいただきたく、ご案内申しあげます。ご連絡をお待ちしております。

93年9月吉日

[illegible]

＊チケットのお求めは各プレイガイドの他、下記にて予約を承ります。
03−3408−3224（11時〜18時）
045−543−0318（自宅）

お元気ですか。
今年は音楽劇の公演です。
ご予定に入れていただければ幸いです。
また、ご宣伝していただければと思っております。どうぞよろしく。
チケットは一割引きで扱います。

あれは幻ではなかったのか？米軍キャンプ版 〝ザッツ・エンターテインメント！〟

●SPECIAL THANKS
秋満義孝
瀬川昌久　ショパン猪狩
平松淑郎（TVKテレビ）　村山靖尚（キョードープロモーション）
薄井幸雄（つやげん企画）　伊藤隆
プロジェクト・ユイ

[口上]

戦後の日本を埋め尽くした無数の米軍キャンプ……日本人オフ・リミッツのフェンスの向こう側に拡がるリッチで清潔で快適な〝幻想のアメリカ社会〟……金網越しに見るこの夢のような光景に、腹ペコの市民は魂を奪われていた。

このキャンプというアメリカ租界内のクラブで夜な夜な繰り広げられていた華やかなステージショー……日本人が観ることの出来なかったこれらのショー舞台こそが、戦後日本のショービジネスの原点であり、ここから江利チエミを始め数々のエンターテイナーが育っていった。

当時の芸人の合言葉は「新宿甲州口六時半」。そこへ米軍のトラックがやってきて、彼等を各地のベースキャンプへ運んだ。そのトラックの中に、コメディアン財津一郎もまた明日のスターを夢見て揺られていた。

[出演者たち]

歌手としてキャンプ・デビューを果たしてから40年、幻のあの時代を振り返ってジャズソングの数々を熱唱、熱演する財津一郎……モノマネならかなうものなし；若き日の財津に化身するクリカンこと栗田貫一……唄も踊りもお芝居も；ミュージカル排優として期待される村國守平、園山晴子……外人劇団ザ・ガイジンで大活躍した歌手ジェフ・マニング……さらに、キャンプの夜を華やかに彩ったタップダンス・曲芸・マイムなどをイマの感性で再現する実力派のエンターテイナーたち……タップダンサーとして他の追随を許さない；中野ブラザーズ……
チャップリン芸ならダウニーなんぞ寄せつけない？ケチャップリンたび彦……曲芸、マイム、クラウンとサーカス芸なら何でもござれ；どん亀座主宰・亀田雪人……同じくどん亀座の花形・新堂雅之……マイム協会新人賞受賞・期待の新感覚派マイミスト本多愛也……さてドン尻に控えしは、世界各地の大道芸フェスティヴァルで知らない者はないグランプリ男；生きた彫刻の大道芸人雪竹太郎。

曲者ぞろいのこの出演陣をミュージカル界俊秀の演出家勝田安彦がどう捌くかが見物…鬼が出るか蛇が出るか……芝居とショーが初めて溶け合ったスーパー・ヴォードヴィル……コメディアン、芸人、ダンサーが一つの場に結集して再構築する幻のキャンプショー……米軍キャンプ版「ザッツ・エンターテインメント」ここに誕生！

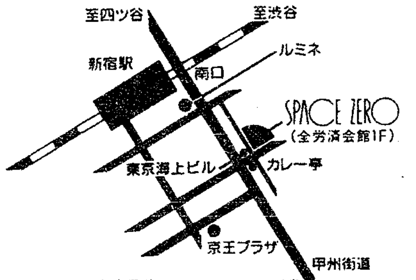
●公演スケジュール

開演	1(水)	2(木)	3(金)	4(土)	5(日)
14:00				●	●
19:00	●	●	●	●	

開場は30分前

●問い合せ予約
03-3408-3224［11時→18時］
03-3375-8694［12月1日→5日のみ］

●新宿スペースゼロ



新宿駅南口徒歩5分

今年は本当に、太陽の少ない、冷夏でした。
収穫で喜び合う秋も、お米も満足にとれず、大凶作に相当するとか。今までの減反政策の、つけもきているようです。
通心２０号をお届けします。
青井君は郷土徳島県経済農協連に勤務し、今の農政に対しては、生産者としてもっと身近に、ひと言あるのではないでしょうか。
個性的な人が多い西洋史の一員として、長谷川勉君や故宮崎君と語り合った日々も、今では懐かしい事でしょう。原稿用紙に達筆で、締め切り日間近に、送ってくれたという真面目な性格は、ちっとも昔と、変わっていないようです。コンピューターに、囲まれている生活で、あえて原稿用紙に肉筆。なんだかわかる気がします。
様々な狭間の中で、悩んだり、苦しんだり。これが、４０代半ばの私達が、今、社会の中でおかれている立場だと思います。健康には、気をつけてほしいと思います。
今回尾瀬の報告を、新潟の国分さんから、送って頂きました。写真も同封します。尾瀬の風が伝わってきますね。たまには何もかも忘れて自然にひたりたい！！
瓜生（永倉）さんからの、御案内も同封します。彼女も色々御活躍のようです。仲間としてうれしい限りです。次回は、青木康広君にお願いします。

１９９３年１０月２５日

通心ネットワークセンター

“尾瀬にミズバショウを求めて…”

６月１３日（日）　昼前に上毛高原駅に集合。思いのほか参加者は少なくガイド兼リーダーの石川君、羽田夫妻、植木の４人。山が好き、花が好きの４人組気持ちはひとつ、和気あいあいと仲良く出発。
今回は、鳩待峠から入り尾瀬ガ原を一周する。“尾瀬のミズバショウ”を堪能できるとあって胸おどる。
午後２時頃、鳩待峠を下るころは雨になり、濡れた木道はすべりやすく、慎重に足を運ぶ。１時間ほどで尾瀬ガ原の端、山ノ鼻に到着、尾瀬ロッジに宿をとる窓から見える白樺が雨にけむって幻想的で美しい。

６月１４日（月）　雨が降る中、昨日くだる途中足を痛めた綾女ちゃんを置いて、非情な３人は元気に出発。緑いろに芽ぶきはじめた湿原の至るところに、咲き乱れるミズバショウに感激しながら歩いていくうち、雨もあがり快適なハイキングとなる。途中、山小屋でコーヒータイム。尾瀬ガ原をながめながら飲む、ひきたてのコーヒーは格別だ。
すっかり晴れた原の木道を軽快に歩いていくと、白いミズバショウにまじって群れ咲くリュウキンカの鮮やかな黄いろが目に入る。澄んだ水に空や雲を映す、池唐や川の流れも美しい。
花や景色を楽しみながら４時間ほどかかって一周し、山ノ鼻から鳩待峠へと戻る．ひとあし先に着いた綾女ちゃんと合流し尾瀬に別れを告げる。

レポーター　植木

この素敵なプランを立ててくれた石川君、ありがとう。
尾瀬は春、夏、秋、いつ行ってもいいところです。尾瀬探訪は３回シリーズとのこと、次回も楽しみにしています。今度はもっと多くの仲間が参加できるといいね。

（同封の写真は、至仏山を背景にして、尾瀬ガ原で一番人気のあるビューポイントです。　撮影者：石川恵一氏）

通　　心　　第２１号

1994、4、7

今日は２月の２５日。大変厳しい寒さが続いていますが，皆さん元気でおすごしでしょうか。先日１２日は姫路市内でも２０センチ，我家のある山間部では実に３０センチもの積雪となりビックリ。娘も今は雪ダルマを作って喜こぶような年でもなし，喜んでいたのは我家の犬と，当日会社を休んで３連休となった家内だけだったようです。皆さんからの近況報告を見ながら家内と学生時代のことを話す時，今自分たちが４５才のオッチャンでありオバチャンであることをすっかり忘れて頭の中は２０数年前にタイムスリップ。しかしそれもつかのま，子供の声で現実の世界へ......

長男雅史は４月から大学２年で京都でアパートぐらし。親の苦労も知らず，足の踏み場もない部屋で悠々自適の生活のようです。とにかく楽しくて仕方がないらしく，勉強もしなければならないことを完全に忘れています。

長女望は４月から中学３年。彼女も同様高校受験の自覚は全くなく，体重が増えた，減ったと一喜一憂。ちょっと外出するとなれば鏡の前で服を脱いだり，着たり夜はテレビを独り占め。将来もこのような生活を続けたい....だそうです。.....

さて先日機会があって数年ぶりで九州へ。当日は福岡空港からハウステンボスへ直行，東京ディズニーランドの２倍の広さと聞いて我々中年はウンザリ。それでも最初は気を取り直して若い人と一緒に歩いてはいたが，昼食の後はベンチで目の保養。その後は西海橋を渡り大村湾を左に２０６号線を南下長崎市へ。平和公園，グラバー邸，大浦天主堂，といつものコース。稲佐山のホテルでビール片手に長崎港の夜景を見ている時は，ハウステンボスで疲れたことなど完全に忘れていました。

翌日は島原からフェリーで熊本へ。いつもながら雄大な阿蘇を見ながらやまなみハイウエイで長者原，湯布院，別府と九州を横断。

中でもフエリーから見た雲仙普賢岳の痛ましい姿には言葉もありませんでした。テレビなどではよく見た景色だったのですが，目の前でその全容を見た時，ハンカチで目を押さえていた女性，一心不乱にビデオをとっていた男性，百円玉を何枚も入れながらフエリーの望遠鏡から目を離そうとしなかった人，カモメにやるトンガリコーンの袋を手に持ったままぼうぜんとしていた若い女性，一瞬船全体が静かになったような気がしたものです。あれだけ人々を痛めつけながら今尚不気味な煙を上げているその姿は形容しがたいものがあります。

さて，けっこうハードな旅でしたが久し振りにいい気分転換になりました。

旅と言えば数年前石川君のお世話で伊藤（旧姓）章子さん，井田（旧姓）恵子さんや河野君たちとの尾瀬への旅はまさしく私を学生時代にタイムスリップさせてくれました。私自身も皆さんと一緒でこれまでに会社関係の旅行，１７年間の消防活動の中での旅行，あるいは個人的な旅行等々数えきれないほど旅行をしてきましたが，この尾瀬への旅は５本の指にはいるでしょう。早くまた皆さんの顔を見たいものです。聞くところによると次ぎの集まりは関西で....とのこと，是非実現したいものです。皆さんもご承知の通り姫路城が世界文化遺産の指定を受けました。これを受けて姫路市では様々なイベントを企画しています。時間があれば是非お越し下さい。

昨年は父が他界したのをはじめ，悪い事が続きました。今年こそ良い１年であってほしいと念願しています。皆さんも体に気をつけて下さい。

平成６年２月２５日

青　木　康　廣

暖冬とは名ばかり、東京でも３回の降雪。今年は本当に寒い冬でした。肌に心地好い風、遠くに見える新緑とピンク色の春がうその様です。

会員のみなさんお元気でしょうか？

大変、遅くなりましたが、「通心２１号」をお届けします。

今回は青木康廣氏に近況を報告していただきました。

１年遅れて史学科に入った私に、青木氏を紹介してくれたのは長谷川氏でした。以後、卒業するまでの３年間、研究会、研修旅行、そしてよく通った喫茶店での一時がつい先日の様に思い出されます。

そんな青木氏も今は４０代の半ばを過ぎて、家庭で、職場で地域社会でと忙しい毎日のようです。是非、健康に気をつけて頑張って欲しいものです。

今回、東洋史の集まりの報告を、小林さんから送っていただきましたので、この紙面にてお知らせします。また、平成５年度の会計報告も合わせて同封いたしました。

次回のレポーターは榛葉花子（旧姓中上）さんにお願いします。お楽しみに！

文責：広川　誠

１９９４年４月２６日

「東洋史」同期会をひらく！

昨年、「通心」の活動に触発されたか、東洋史の方でも集まろうかと、安藤、須藤の二氏が呼びかけ人となって、１１月１４日（日）の昼、上野の「芭良重亭」で会合がもたれました。

当日、集まったのは両幹事ののほかに、迫田夫妻、鎌田、広瀬（小平）、五十嵐（山口）、小林（毛利）の９名と、人数こそ少なかったですが、お互いの無事と、それぞれの場所で頑張っていることを確認し合い、大学時代の気分に戻った楽しい一時でした。特に、現在、住職をついでおられる藤井氏が、新婚ほやほやとあって、お二人の写真がのった会報をみせていただきながら、皆の注目と質問の矢をあびていたのが印象的でした。

１９９４年１月６日

小林　庸子　筆

会計報告

収入	支出	残高
H4～H6　会費納入者 47名	H4～H6　21号迄	H6.4 現在
99.600円	87.957	11.643

内訳

同窓会にて会計報告済分		金額
H4 ～H4.9月 ・通心ネットワーク発起会お知らせ ・安福号へのお礼（ボールペン） ・同窓会のお知らせ ・同窓会の会場費 等		46.001円
H4.10	16号通心発行 写真同封 切手 紙 印刷 封筒 コピー	9.475円
12	17号通心 発行	6.224円
H5 2	18号通心 発行	4.600円
5	19号通心 発行	6.565円
10	20号通心 発行 写真同封	8.602円
H6 4	21号通心 発行	6.490円
		87.957円

通心ネットワークセンター

通　　　　心　第２２号

皆様、こんにちは。
「学生時代」……それは私のどこかに何時もひっかかり、それでいて自分史の中では空洞化していた。そんな私が同窓生にお便りを書く！偏に安福君の御尽力、そしてあとを受けて下さった石川君や伊藤さん達多くの人々の暖かい励ましのお陰で、私も皆様の仲間に加えて頂き、「学生時代」を取り戻し更には新しい出発をさせてもらおうとまで思えるように成りました。皆様、有難うございます。

さて、仲間に加えて……とは言いましても、何を書いたらいいのでしょう私は皆様のこれまでの『通心』に圧倒され続け、別世界を眺める気持すらありました。と言いますのは、ここ１０年程、私自身、皆様のように自信をもって積極的に生きてこれなかったからです。今回の御指名にも、何を書いたらよいか随分考えましたが、やはり私に書けることは「悩み迷っていた弱い自分」、そして「現在の私」をお伝えするしかないという結論に至りました。今までの『通心』とは少々違うかも知れませんがお許しを。そして文章力が無い事も合わせてお許し下さい。

※　※　※　※　※

よく「人生４０にして惑わず」といいますが、皆様はいかがですか。私は学生時代を皮切りに、人間の在り方、人間関係について「これが正しい」と言い切れない場面に何回か出くわし、それまでの私のように、一直線には行動しにくい自分にジワジワなっていきました。自分のしていることに自信をもてない思いが心に住み着いたのです。例え、自分のした事でよい結果が得られても、心に住み着いたのは自分を否定する思いの方だったのです。

今から８年程前、中学生の間に「いじめ」が横行しました。学校も荒れました。その時私は、今この「いじめ」をしている子供達を救ってやらなければ、「いじめ」の非人間性を教えてやらねば……という、今から思えば一方的思い込みの中で生徒に体当たりしました。しかし、見事に失敗。完敗でした。「てめえが、こいつらをかばうから俺はいじめてやるんだ……」という言葉を聞かされ、私は唖然とし、何をどうしたら良いのか全くわからなくなりました。教師としての自信は地に落ちそうになりました。教育とは？　教師のあるべき姿とは？　を厳しくつきつけられました。でもこの時は、「反省が教育」という新しい教育観（それまで私は現場で、何かにつけ、「教師は生徒を教え指導する、それが教育だ」と教えられ、生徒にも人権があるという考えは頭の隅にさえありませんでした。）が私の中にも多かれ少なかれあったわけです。叩いた事も一度ありました。――本当に大切な事は子供が心から悪かったと思うこと、そう導く事こそ教師のとるべき姿勢だ。（権力で）価値観を一方的に押しつけても、子供は何も変わらない。子供が反省するよう話をよく聞き、待つことだ。――等を教えられた私は、自分自身の姿を見ても「納得して反省する」ことの大切さを理解できました。教え込もうと焦っていた時には見えなかった「とめえが…」の言葉の奥の本音がわかるようになり、再び立ち上がることができました。

因なに、この言葉を残し卒業した生徒が電話をかけてきて、私は彼の結婚式に招かれました。

が数年後、子供達を取り巻く環境はさらに厳しくなりました。全て今思えばわかることですが………　子供達は自分の心を傷つけぬため、何枚ものヨロイを着ていたのです。本音は直接ブツけず、「本音」の下の下の方に真の本音を隠し持たねばならない時代になっていたようです。それでないと生徒も押しつぶされるように感じていたのかもしれません。生徒同士も本音を隠して付き合う、そのためたくさんの感情の行き違いや誤解が生まれて衝突。さらにそれは本音が出されていないだけに複雑で、問題解決には時間がかかりエネルギーがいる。何よりも当事者双方がそれぞれ立ち上がれる状況をつくらねばならない。細心の心配りが求められる。二度と失敗は許されません十二時過ぎまで話を聞いたり、泣いたり考えたりしたことも何度もありました。　このような状況の中で、どれだけ緊張感と時間が必要であったか…でも当時の職場は、文部省の強制研修で次から次へと会議、会議。その上、要提出書類の波。また楽しくわかる授業を、考える授業をと心掛ければ進度はどんどん遅れる。テストと入試の範囲が迫り、それも無視できないジレンマに陥る。

子供達は何を考えているか――当時は本音の下の下に本音があり、それは子供自信が自らを守る姿ととらえられなかった――次第にわからなくなる数々の出来事。子供に聞いても、子供もその時応えられなかった、でも失敗は許されないという緊迫感のみ強まる。こんな閉塞状況の中で、子供の前に立っても語るべき言葉がみつからず、同時に夢・理想・希望・物の見方、考え方が見えなくなっていきました。子供達が宇宙人にも思えたのでした。そしてまた、こんな見方しかできず、こんな精神状態の私は、子供の前に立てない、立ってはいけない。そして立ち続けたら、私の精神の糸は必ずプツンするだろうと心底思うようになりました。

そう思いつめて私は退職しました。２０年と１１ケ月。非難の声も聞こえ

てきそうですが、この時の私にはこの結論しか出せませんでした。心のヨロイが２～３枚までなら、私の力でも届いてとってやれたのですが、６～７枚となると……　子供達の心に届く人生観と技量、エネルギーと時間がありませんでした。悲しかったです。

さて、こんなにも人生に落ち込んでいた私が、今どのような人生を過ごしているか聞いてもらいますか。　４０にもなって迷いに迷っている自分に失望しかけていましたが、そういう大人の迷い人もいるということを知りました。人生観を求めるなかで出会った三浦綾子さんの作品です。特に『氷点』では、お医者様とその夫人の心が鋭く描き出されていますが、地位も名誉もある方ですのに、私と同じように生きる事に迷い、業の深さに悩んでいると知らされた時、私の心はかなり解放されました。人生に迷いがなく、自分の思うところを貫く生き方をされる方もたくさんいらっしゃいます。本当にすごいと思います。テレビに映る俳優さんやスポーツ選手も「有名」の裏に、必ず大ドラマを抱えて頑張りぬいてこられていますよね。でも私は違った。強くない自分、人生に迷う自分を嫌というほど知らされました。しかし、その弱い迷い人の自分も自分であり、そんな自分があってもいいではないかと素直に受け入れることができるようになり、気持ちがズーッと楽になりました。そして、退職しましたので、庭の落ち葉でも拾うことにしました。やっかいな落ち葉を拾う事は、今の私に相応しいのではと思って。でも驚きました。季節が来れば、花や実をつけ葉を落とすとしか思っていなかった珊瑚樹やつづじに、もっと様々なドラマがあるのです、一年の間には。草木は敏感に季を感じ、その時その時変化し、そして不要になったものを捨てていく。唯唯驚くばかりの落ち葉拾いでした。こんなことも知らないで私は教壇に立っていたんだなー、これでは人生を語れないわけだと納得するとともに、あることを知り、掴めた事への喜びと朝の空気のおいしさに幸せを感ずるようになれました。そしてもう一つ、この木の姿に —— 不要となったアレヤコレヤを年中捨てて生きている木 —— 子供達のあの言動も衝突も、あの子達の再生にはなくてはならないものだったのかもしれないなーと、宇宙人のこととともに少し教えてもらいました。

次に、教職についている間は、社会科担当であっても考えもしなかったこと、思いはあってもいつも心のどこかに生徒の事があって、絶対に実行できなかったこと、それを実行しました。「人の羨む生き方をしたらいい」という恩師の言葉に押され、高一の時の夢「フィョルドを見たい」を実現しました。心があんなに踊り、スキップするような体験は今まで一度もなかったと思います。目は輝き、本当に心臓が体から飛び出してきそうでした。この感動体験が以前にあったら、私は子供に語ってやれたのに、未来を、希望を、地球を、国際社会を。そして何よりも、私の疲れきった心が元気になり、またゆとりある心で、エネルギーいっぱいに彼等宇宙人と対する事ができるかも知れないと、今は思います。でも退職しなければ絶対行けなかったでしょうが………こんなに感動し、驚き、そして心の解放された状態が、こんな私にこようとは夢にも思いませんでしたが、一つひとつの事柄を通じて、私も元気になり、明るく充実した人生を過ごしています。また人間の幅（心も体も）少し広がったようです。私に膜をはった子供達も今は高校二年生。誕生日や通学の帰りに立ち寄ってくれます。「先生！先生みたいに生徒から本音（？）で付き合ってもらえる先生って少ないんだよー。」？？？？？？？
エーッ！！　ナニーッ！！　やっぱり私にはわからない、宇宙人が。

※　※　※　※　※

だらだら書くばかりで、皆様に伝えたいこともなく、わかりにくかったと思います。御免なさい。そして最後まで読んで下さって有り難うございました。また、「通心を書くという機会」を与えて頂いて、私も退職後初めてこうして自分を振り返り、少しは気持の整理がついたと思います。これからも何かを発見し、感動する柔軟な心と優しい心を求めて、私の進むべき道を模索していきたいと思います。

最後に、皆様！！皆様はこれまで充分頑張ってこられたと思います。どうぞ、これからは頑張りながらも、時には少し立ち止まって休憩して、体と心をリフレッシュして下さい。そして、いついつまでも、この『通心』で交流を続け合えるよう、お互い元気でありたいと願っています。

それでは、またいつかお会いできる日までお元気で、さようなら。

６月３０日

榛葉　花子

皆様へ

会費納入依頼にかえて！

購読している新聞名をお知らせ下さい。

会費を納入される際、振込用紙の通信欄に、毎日読まれている新聞名を記載してください。これはひとつの提案ですが、「新聞小説」を読んでみませんか。あるいは、今読んでいる方は、共に読む人を求めてみませんか。「新聞小説」は、ひとつの小説を、多くの人が、同じスピードで、読み進むことができます。一冊の本となると、同じスピードで読むことは、まず出来ません。「新聞小説」はそれが出来るのです。電話で話をする時に、顔を合わせたその時に、その日までの、あるいはその前日までの内容を、その感想を、語り合うことが出来ます。これは、とても素敵なことだと思います。

僕の場合、下の子供が出来たころ、仕事に追われ、連日帰宅するのは深夜で、休みもなく、妻も子育てに忙しく、二人の間に共通の話題はなく、会話もほとんど無い状態が続きました。そんな時、どちらからともなく、新聞小説を読むようになり、それが共通の話題となって会話が出来るようになりました。当時、丹羽文雄、瀬戸内晴美など、僕の好きな作家であったことも幸いしていました。それ以来１６年位、新聞小説を読み続けています。今でも、毎日ということではありませんが、話題の中に連載されいる小説が必ず登場します。

僕のところは、当時から「読売新聞」。野球はアンチ巨人。サッカーはアンチヴェルディー。でも、新聞だけはずーっと読売。新聞小説を読んでいると替えることが出来ないんです。わが家にも、新聞販売店の勧誘員が来ますが、「小説を読み続けていて替える気がない」と話すと、あのしつこい勧誘員が何も置いていかずに帰っていきます。撃退法にもなります。こんな事もありました。立原正秋が、最後の作品を書いていたのは読売新聞への連載でした。ある日突然、その日の彼の小説が載っていなかったのです。その次の日、突然の病気で少しの間休むという記事が出ました。それから何日位でしょうか、わずかだったと思いますが、立原死去の報が伝えられました。彼の絶筆につき合っていたのです。臨終の席に立ち会ったような気分でした。もう、こんな体験をすると新聞小説を一日として欠かすことが出来ません。

新聞小説が、単行本として出版されると、一冊１５００円とか上下１２００円とかで、店頭に並びますが、読んだ作品を見つけると、ささやかながら、得をしたような気分にもなります。「新聞小説」なかなかいいものです。

今、読売新聞に連載されている小説は、山田長政の伝記、白石一郎作「風雲児」。そして、ＡＩＤＳをテーマにした瀬戸内寂聴の「愛死」。瀬戸内晴美、故星優子から読むことを薦められて読み始めた作家ですが、昔は「助平婆婆」と、思っていましたが、今は大好きな作家の一人で、何年か前、家族で京都に旅行した時、宿が嵯峨野だったものですから近くを散歩がてら、寂庵を見つけ、訪れたことがあるのですが、あいにく留守で合うことは出来ませんでした。話が脇道にそれてしまいましたが、どうぞ購読している「新聞名」をお知らせください。それと新聞小説について何かコメントして頂けると嬉しいですね。地方紙の場合は、作家と小説名を記載してください。地方紙の場合、系列によって同じ小説を載せているものですから、小説名を書いてください。

それぞれの方が読んでいる新聞名と小説名は、通心を通して公表しますので、誰が同じ小説に接しているかがわかります。顔を合わせた時の共通の話題になるかとも思います。通心に感想を寄せて頂き、講評し合うのも良いかと思います。

「新聞小説」みんなで読みましょう。

恵

追伸．「風雲児」は、8月26日で完了します。
8月27日からは、新たな小説が連載されます。

自分で書棚から、好きな作家の作品を探すのではなく、初めての作家、新鮮な作家の作品に接する事が出来るのも、楽しみの一つです。

会員の皆さん、お元気でしょうか！
今回は「花ちゃん」こと、榛葉花子さんの『通心』をお届けします。遅くなって申し訳ありません。御本人からはすでに７月半ばに原稿が届いていたのですが、７月の末までは、８月の半ばまではと言っている内に今日になってしまいました。
４年前の同期会で会った時、「いろいろと考えた結果、２０年の教員生活に区切りをつけました。」とのご本人の言葉に、本当にビックリさせられました。特に私は同業者ということもあって、大きなショックを受けた次第です。職場において４０才半ばと言えば、色々な場面で中心となって苦労が絶えない年齢だななどと、ただただ単純にしか考えていない私にとって、全くと言ってよいほど考えてもいなかった言葉でした。
しかし、今回さらに詳しくその歴史を知るに及んで、自分の責務にこんなにも真剣に取り組む人がいるだろうか、こんなにも生徒のことを正面から受け止める教師がいるだろうかと、同業者である自分が本当に恥ずかしく思われた次第です。
「素晴らしい教師が一人いなくなったな！」と思いつつも、現在のご本人の静かで平和そうな生活を垣間見ると、心から「ご苦労さまでした」と言ってあげたいと思います。
さて、次回のリポーターは、「河井君」をと予定しております。まだ時期的なことははっきりしていませんがお楽しみに　！

お知らせ

4年ぶりに同期会を！
今、世話役の間で久し振りに同期会を開催しようという話しが出ております。しかも前回の時の声を反映して今度は「関西方面」をその開催場所として。詳しいプランが出来次第、ハガキにてその出欠をお聞き致しますので、その折りには是非なる参加をお待ちしております。

会費納入のお願い！
今回の『通心』郵送で、現在の会費残高が限りなく０に近くなります。つきましては、同封の用紙をご使用の上、２０００円を１０月１５日までに最寄りの郵便局にて下記の口座にお振り込み下さいますようお願い致します。
口座番号 ――→ ００１４０－５－７５５３８９
口座名 ――→ 通心ネットワーク

広川　誠

史学科同期会に参加いただいた皆様へ

参加のお礼と収支報告

遠路はるばる三宮までお出掛け下さってありがとうございました。
総勢２０人の楽しく賑やかな集まりになって嬉しく思っています。
１０月１６日に迫田章朗君の突然の訃報に接し、悲しくてやり切れない気持ちでいましたが、迫田けい子さんからのお便りに
「好きに生きた人生です。喜んでやって下さい。みんなで学生時代のようにワイワイ飲むのが一番の供養です。」との言葉が有り、「そういえば、迫田君のアパートで一升瓶や安物ウイスキーとコーラの大瓶を並べて大勢でマージャンをして、アパートの人に『うるさいっ！』って怒鳴り込まれたこともあったなあ」と思い出し、お酒が大好きでタバコも大好きで友人たちとワイワイ語り明かすのが大好きだった迫田君のことを思いながら賑やかに飲んで食べて歌って過ごすのが一番彼に適った送り方だと思い至りました。「多美」と「凛」の片隅で、迫田君もお酒をチビリチビリやりながら笑って参加してくれていたと信じています。

２０人の参加者に、私なりのメッセージを一言。
まず、三宮で別れた４人の仲間に。
修学旅行から引き続きで睡眠不足の広川君。無事に甥御さんと出会われましたか？ 月曜日からは元気で授業をしているのでしょうか？
ちょっぴり心配しています。三宮センター街のふるもと珈琲店は、お気に召しましたか。神戸市立博物館の横山大観・菱田春草展の二人の合作「春秋」は、素晴らしかったですね。「朦朧体」という技法でしたかしら春の桜吹雪と秋の清流に散る紅葉の一対がすごく印象に残っています。
榛葉（中上）さん、少ししか時間がないのに会いに来てくれてありがとう。「通心」を読んで、落ち込んでいるのではと心配していましたが、元気なお顔を拝見できてとっても嬉しかったです。いろいろ悩みはありますが、自分自身をもっと愛して下さい。頑張っている自分を、けなげな自分

を、弱虫の自分を、明るい自分を、醜い自分を、素敵な自分を、ありのままの自分を精一杯愛して下さい。自分さえも愛せないようでしたら他人を愛する事はできないと思います。

福本（新垣）さん、お会いするまで思い出せなくてごめんなさい。
でも、初参加して下さってありがとう。初め東洋史だったけど卒論は国史だったという事や、実家が横浜だという事が分かって次からの同期会にはお誘いしやすくなりました。次の機会にはぜひ一緒に行きましょうね。

平田さん、一番遠くからいつもご苦労様です。四泊五日の神戸堪能の旅はいかがでしたか？いろいろな人や景色との出会いは心を豊かにしてくれますね。でもやっぱり、今回の同期会程話題に事欠かない集まりは無かったのでは・・・と思います。月末、札幌で会いましょう。

次は、姫路までお付き合いいただいた１３人の仲間へ。
青年会議所の世界大会の為宿泊場所が姫路になってしまいましたが、今になってみるとそのお陰で皆さんに姫路城を見てもらえて、一緒にいる時間が長く取れて良かったな・・・と思っています。

今回で同期会も3回目になりましたが、毎度参加の常連さんも、今回初参加の人もそれぞれ楽しい思い出を作っていただけたことと思います。

農協青年の青井君、お仕事の悩みは多いでしょうがあなたの持ち前の素朴で素直な心で日本の農業の未来のために頑張ってください。

山を愛する石川君、案内が遅れたり参加人数の件では何回もお電話をいただいてご心配を掛けて申し訳有りませんでした。お蔭様で遠方からこんなに大勢の皆さんに参加していただけて大変嬉しく思っています。
来年秋の尾瀬散策には、又娘と一緒に参加したいと思いますのでどうぞよろしくお願いします。

学生時代同様おっとりとしたおしゃべりに心が和む出沼（井田）さん、３人のお子さんの良きお母さんぶりが目に浮かびます。幹事をした私たちにもお気遣いとねぎらいの言葉を一杯いただきありがとうございます。

案内と同時にユッコさんにお誘いを掛けて引っ張り出してくださった植木（国分）さん、若々しく元気一杯の変わらぬあなたにお目にかかれてとっても嬉しかったです。来年の尾瀬はぜひご一緒しましょうね。

初参加の小川君、「青木君の誘いが有ったので来ました。」という心憎いありがたいお言葉には感激です。卒業以来２３年ぶりなのにちっとも変わっていないしぐさや口癖で、小川君健在を実感しました。

京都の主になりつつある小沢（富樫）さん、京都・奈良を暇にまかせて歩き回っているといううらやましい地元の利にあやかるために、私も暇を見つけてぜひ近々伺います。我が息子はお役に立ちましたでしょうか？

相生図書館館長の河井君、２日間もお仕事をサボらせてしまい又、お宅まで目と鼻の先の姫路に無理やり泊まらせて翌日までお付き合いいただいてありがとうございました。

つい最近京都まで来たというのに植木さんのお誘いで参加してくださった後藤さん、あなたとも２０年ぶりぐらいでしたがちょっとスマートになっていたものの変わらぬ陽気さで楽しんでくださってありがとう。

エジプトをライフワークとして活躍なさっている斎藤（村地）さん、海外にはとんと縁のない私と違ってご家族で気軽に海外への旅に出掛けられる行動力と余裕に羨望の思いです。お会いするたびに珍しいお話を聞かせてもらえるのを楽しみにしています。

本の大好きな長谷川君、変わらぬ口癖今回も何回か出ていましたね。
皆のことを優しく温かい目で見て熱心に話を聞いてくれるところ等、学生時代そのままでほのぼのとした思いに浸ることができました。

公文の北陸地区ナンバーワンの指導者林さん、今回参加するに当たって留守の間のことを心配していたら回りの皆さんにいとも簡単に参加を勧められて拍子抜けしていたようですが、それはあなたが回りの皆さんをそこまで育てたのだと自信を持ってください。又、愛妻家のご主人のあなたを思う心にも脱帽致しました。

女編集長の藤井（魚井）さん、学生時代同様のスリムな体で毎日遅くまでお仕事に頑張っておられるようですが、体が資本の仕事ですからあまり無理をして倒れることのないようにほどほどにしてくださいね。

今回初参加の大物渡辺（藤田）さん、小説を書くなんてとっても根気の要る仕事でしょうね。読むのは大好きだけど書くのはせいぜい原稿用紙５枚位までという私には、とても真似の出来ないことなので尊敬してしまいます。１５日の締め切りには間に合いましたでしょうか？次の文芸春秋を楽しみにしています。又、あなたのかわいい息子さんの成長ぶりも楽しみですがそろそろ子離れの準備をしておいた方がいいと思います。でも、両親の愛情をいっぱいに受けて育った子供は人を愛することが出来ると言いますから、子供に掛ける愛情に遠慮はいらないと思います。一人の人格をもった親と対等の人間として愛してあげてください。

今回の功労者安福君、彼の仕事の営業テリトリーの中からあんなに安くて寛げて楽しめるお店を紹介してもらい感謝感激です。今は、酒の仕込みの真っ最中で一番忙しい時期だったのですが、打ち合わせに２回と本番の日も仕事を抜けてめんどうを見てくれたお蔭で、こうして楽しい一時を分かち合えることが出来ました。面倒見のいい彼に感謝の拍手を送りましょう。又、兵庫県加西市の銘酒醸造元「福錦」の宣伝とご愛飲の方もよろしくお願いします。

最後に私のパートナー青木君、学生時代と少しも変わっていないと言う皆さんのお言葉でしたが、彼も同期会初参加で２３年ぶりの人が多かった訳ですが、髪形同じ、ウエスト同じ、服装同じ、考え方も平凡中庸の上に横にいるのがこの私とくれば、学生時代と変わっていませんよね。でもそこがまた良いところで。（これは、私ののろけとお聞き流しください。）

今回初めて地方で同期会を開いた訳ですが、年齢的に家を空けられる時期になって来ましたので、これからも時々こんなふうに一泊泊まりの集まりを企画したらいいのでは・・・と思います。

皆さん、色々とご協力をありがとうございました。次にお会い出来るまでお体に気をつけてそれぞれの持ち場で精一杯頑張って下さい。

最後に今回の収支決算をご報告してお別れと致します。

１９９４年１１月２０日　　一人大満足している　青木安代　より

収支決算報告

会　費	¥8，000×20人＝	160，000
支　出	「多　美」	60，000
	「凛」	80，000
残　金		20，000

残金が出たのは、「多美」のお母さんが２万円負けてくれたのが原因です。幹事の独断で、「通心」の運営費に繰り入れさせていただきました。

宿泊費　（ホテルサンルート姫路）

集　金	¥7，000×15人＝	105，000
支払い		104，315
残　金		685

東急観光のほうで、何故かこれだけ負けてくれました。
この報告を送る郵送料に当てます。

『「史学科同期会」に出席して』

「史学科同期会」の皆様、たいへん御無沙汰いたしております。

皆様は元気で、御活躍の事と拝察致します。

今回、私は青木君の誘いもあって、はるばる千葉県の片田舎から関西まで新幹線に乗って出かけて行きました。

神戸より西に旅するのも、卒業以来２０余年を経て、仲間にお会いするのも初めての事でしたが、懐かしい顔の数々を目にした時、瞬時に学生時代に戻っていました。

一次会の会場で現在の情況を含め自己紹介が行なわれましたが、総じて男性陣は家族や自分のために忙しく働き、女性陣のみの多方面での活躍が目立っていたように思います。

学友の話になみだを流して笑い、友の悲しい報告にしんみりと聴きいり、二次会では、古い名曲を合唱し、あたかも話に聞いた「歌声喫茶」の様でした。私個人としては『「いちご白書」をもう一度』をみんなで歌いたかったです。

又、翌日午前中の「姫路城」見学も楽しい思い出となりました。

帰りの道中、友と話した事は、学生時代の記憶をたどり、互いに補足し合って思い出した当時です。

「そんな過去の話をして何の益があるのか」と尋ねられる方もおられるかもしれませんが、当時の事が懐かしい思い出話の数々であり、学友と共有した時間でもあり私達を互いに結びつけているものでもあったからです。それに誰でも「自分はその時何をしていたんだろう」という気持がどこかにあるのではないでしょうか。

私達は１９６７年（昭和４２年）４月なんらかの希望を持って白山キャンパスに通い始めました。４年間の学生生活の中で、誰もが「学園闘争」をわすれる事ができません。

それに「寸又峡事件」・「３億円強奪事件」・「新宿西口広場のフォークソング集会」・「日航機よど号ハイジャック」・「三島由紀夫割腹事件」などが在学中に起きました。

もちろん過去は個人・個人が所有する部分も多いので楽しかった事・悲しかった事・辛かった事などはいろいろな出来事の中でそれぞれが持っておられるに違いありません。

でも当時は、皆が本当にまじめに考え、生きていた時代でもあったように思います。

そうした仲間たちが、全国に散ってそれぞれの土地で根をおろし活躍しておられる様子を知り、「史学科同期会」に出席して励みを受けました。

どうぞ皆様、健康には十分気を付けられてこれからも活躍されますようにと願っています。そして、今回「史学科同期会」を計画してくださった幹事の皆さんありがとうございました。

それでは可能なら又何時の日か元気な姿でお会いしましょう。　御機嫌よう。

１９９４年１１月２７日　　　　　　　　　　小川武保

通心のみなさん、こんにちわ。
11月12日(土)夜 どれだけの人数が集まっているかな。
楽しくやって下さい。

楽しいはずの同級会に、ヤナ報告をしてくれ、との
石川君のご要望に応えて、報告します。

迫田章朗が別の世界へ旅立ちました。
1946年 11月15日 島根県益田市にて出生。
1994年 10月16日 千葉市にて没。

10月14日 朝 自宅で倒れ、救急車で病院へ。
就職1年後から腎臓病を煩らっていたので長い長い闘いでした。 腎臓透析寸前の身体状況でした。
昨年10月15日、胃カイヨウで1週間入院しました。
胃の悪い患者にはタバコは禁物です。でも前日まで2箱は吸っていました。 腎臓の悪い人に酒は禁物です。
でも前日まで日本酒2合は軽くいっていました。

生きたいように生きた人生です。常々言っていました。
「オレは教員だ。ヤクザと同じさ」 そのココロは?

(No.1)

1994年7月29~31日 愛知県へ旅行
(東洋史同窓会/湯谷温泉・茶臼山)
9月10日(土) 東洋史同級会(上野にて)
9月17日(土) 1983年度卒の生徒の結婚式仲人
9月24~25日 高校学園祭(校務分担:文化祭)
10月8~10日 結婚20周年旅行
(新潟市のオバの家一泊)
(越後湯沢一泊)

10月9日(日)朝 おばの家の庭でうつした写真が最後の写真となりました。

好きに生きた人生です、喜んでやって下さい。
みんなで学生時代のようにワイワイ飲むのが一番の供養です。 いっぱい飲んで酔いつぶれようぜ。
今夜は泊りだ!!

一人息子は17才高2、私ともども元気です。
バスケットボールと卓球に生きがいを見出しています。

それではまた!! 1994年11月10日

迫田けい子

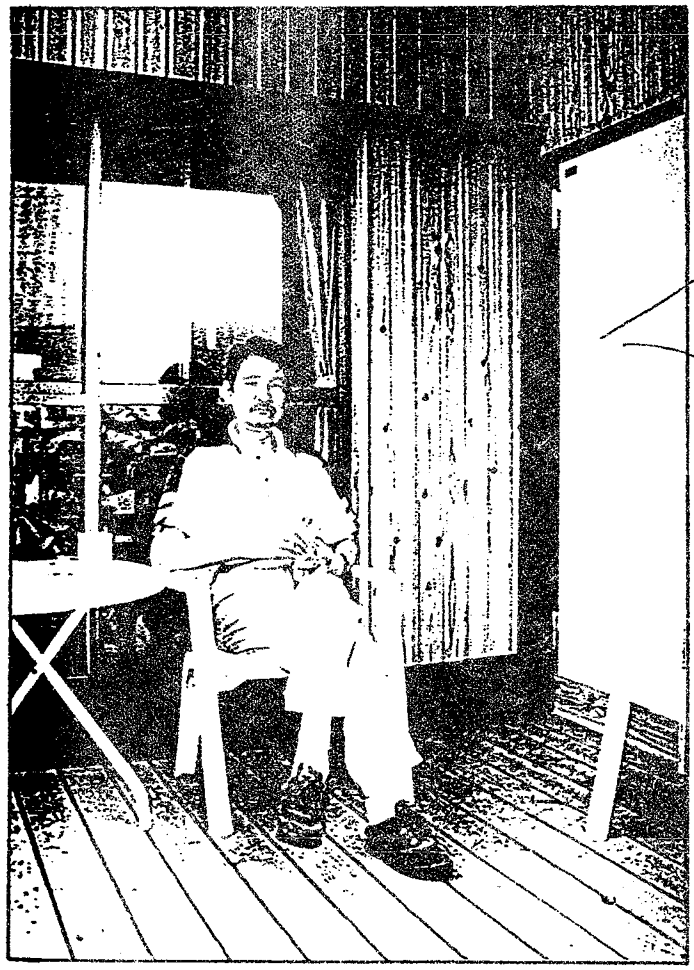
No.2

1994年3月　卒業生へのことば「あるクラスの卒業文集」より

自助自立　祝御卒業!

諸葛亮は諸葛菜からつくる
ザーツァイを残した。僕は今、
ぬかみそ漬けにこっている。
研究心を大切にしよう。
社会科世界史 迫田章朗

1994年7月30日東洋史同窓会の朝（愛知県茶臼山国民休暇村にて）



ヤクザも
教員も
キョーダンで
倒れる所が
同じなんだヨ

1990.8 中国旅行時、ご自宅で歓待を受け　1994
1993.5 ご夫妻滞日時 我家にみえて楽しんだ友人よりの哀悼の詞　10.20記

―悼日本友人 迫田章朗先生不幸逝世―

國外電波噩耗傳　晴空霹靂心内酸
當年蒞蓉猶昨日　学識淵博體尚健
去年訪日重會面　音容笑貌在眼前
壮年仙逝緣何故　挙首黙黙向蒼天

高校執教已多年　培育後代愛心献
「敬天愛人」乃校訓　為尋由来苦鑽研
託人查據釋君疑　我轉贈書把禮还
誰知獲贈無幾日　壮志未酬竟長眠

上天常不随人願　賢妻愛子伴孫單
人事已就難改変　節哀保體涙擦干
吾失良友心痛楚　聊表微意致悼言
遥望東瀛深关切　母子相依总平安

唐賡儀 張慧枕 哀悼
1994年10月．中國成都

夏のあの暑さが、遠く過ぎた過去のものとなりました。季節は確実に巡ってきました。それでも、暖冬との長期予報。外で仕事をするものにとっては、少しは助かるかなと思っていたところ、先日伺った農家で、「あったかだと麦が育ち過ぎて困っちまうんだ」との事。冬は、やっぱり寒くないといけないのだと知らされました。

先日、神戸で開かれた「史学科同期会」の特集号を、「通心　２３号」として、お手元に届けます。前回、中上花子さんの時に次回は、「河井君」と予告しておりましたが、勝手ながら「河井君」のレポートは、次回にさせて頂きます。

特集号は、小川君のレポートで、「史学科同期会に出席して」。今回の幹事、齊木安代さんからの「参加のお礼と収支報告」。そして、迫田けい子さんからの悲しい報告。

迫田君の訃報を伝えなければならないとは、残念です。けい子さんには、悲しみの中、私どもの依頼に応えて、迫田君の逝去について語って頂き本当に有り難う御座いました。迫田君とは、６年前、泰平飯店での同期会で顔を合わせたのが最後で、「通心　３号」では、その人柄を余すところなく伝えて頂き、同期の者の胸の中に、その姿を残していっていると確信しております。けい子さんには、衷心から、お悔やみ申し上げます。でも、同期の仲間がいっぱいいます。これからも、前へ向かって一緒に歩いていきましょう。

さて、先日の神戸での同期会。主催された、安福君、齊木夫妻、富樫さん、河井君、本当にご苦労様でした。安福君の日頃の散財のおかげで、おまけしてもらい、その残高２万円を会費に振り向けて頂き、感謝しております。齊木安代さんには、腰の重い安福君や、忙しいパートナーや、河井君の尻をたたいて、まとめ上げてくれて有り難う。関西での開催ということで、出席者の数を心配されていましたが、たいへん盛況で、一泊ということもあって、時間的に余裕があり、翌日の姫路城見学も含めて、有意義に過ごせました。本当に有り難うございました。紙面を借りて、改めてお礼を申し上げます。

今年も、あと僅かになりました。次回、新春を飾るレポーターは「河井君」です。どうぞよろしくお願い致します。

「壮志未酬　竟長眠」　　　迫田　章朗　君　安らかに。

石川恵一

通　　心　　第24号
1995、2、1

筆者：河井　孝幸

『旅のひとこま』

新しい時代の中に残ってしまった、古い街なみに入っていくことは楽しい。そこは現在と昔が同居し、思索の翼に乗って時間をさかのぼれるから。にぎやかさの中の淋しさ、昔まちの中によどむなつかしさ、古陶・古書の店に立ち寄る楽しさ。場末の迷路横丁にちょっと入り込み、酒一杯ひっかけながら聞く演歌などなど、これが未知の街に着いたときの楽しみだ。

昨年の師走に海峡のある街へ行った。魚貝をひっかけた岸壁、水に洗われたコンクリート階段には赤さびた古い鎖、岸には釣船やボートが舫っていた。海中からはにょきっとつっかい柱を立ち、張り出した二階、三階のゴジャゴジャした木造の家並み。沖にはタイヤの輪を船首にいっぱいぶら下げたランチが、そして小型フェリーが、いそがしそうにエンジンを響かせ海峡の間を行き来している。対岸では造船所の溶接の火ばなが、貨物船のマストの白さが空の青ととけ込み、大クレーンの向こうにはもう一つの町の生活が遠望できる。海峡の両岸に船のエンジンの響きがたえることなくこだましている。

山からいっきに海に滑り落ちそうになったわずかな土地に張り付いた街なかにいよいよ入る。山坂には寺寺や住宅が見え、軒下には植木鉢と水入ペットボトルのちぐはぐな風景が続く。街なみは、今ではめずらしくなった木造三階建モルタルの家家が続くと思えば、張り出しを付けた建物、その間からビルが顔を出す凸凹のはげしい狭い街中を、人々はざわめき、車はうなり行き交っている。

帯のような細路にもぐりこむと、明るい昼間も薄闇の別世界へと急いで模様がえをする。人一人しか通れない狭い路をはさむ壁板や軒や溝。勝手口からは魚の煮るにおい、天プラのにおい、石けんのにおい、いろんな生活の匂いが染み出しただよう。こんな小路でも魚屋、八百屋、豆腐屋などなどが精一杯仕事に励んでいる。やがて猫の額ほどの広場、すりへった御影石で枠組みされた共同井戸、人々から慕われ人間模様を見つめるお稲荷さんの社を見れば思わず立ち止まり手を合わす。鼻つき合わす通りには古ぼけた四・五脚の椅子を見れば、華やかな社交場を演出する小道具になるから不思議。夕方にはまだ遠く、人の気配もないうらぶれしらけた飲み屋通りを抜け出ると、急に明るい光がまわりにあふれ、人々の行き交い賑わう商店街の往来に立っていた。

今夜はこの街の鮨屋に立ち寄ることにしよう。瀬戸内海はそれ自体が一つの大生けすだから、捕って帰るには時間がかからない。目の前が生けすだから、捕ってからいくらもたっていない新鮮なタイ、ヒラメ、メバル、ハマチ、アナゴ、タコ。湯がきたてのワタリガニのミソ、　シャコなど活かしたものを握ってくれる。最高だ。それでいて都会のようにコストがかかっていないからバカ値はとらない。もし取れば地元客は逃げてしまう。またこんな所で贈物のマグロ、北海ウニ、シャケなどを注文するのは愚の骨頂もいい所だ。流通時間のかかっていない最高鮮度のものこそ美味、からだに良しで酒を一献かたむけ海峡の街の夜はふけていく。

※※※※※※※※※※※※※※※

追伸

このような街が本当に存在するのか、これは想像のなかにおける文章表現ではないかと思われるしも知れないが、すこし地名当てクイズのように書いて見ました。

次回会ったときには、皆さんに報告しますのでよろしく。

以上

《地震のニュースを知って》

兵庫県南部地震被災地の皆様とそのご家族・ご親戚の方々にお見舞い申し上げます。そして、北海道や東北地方の地震の時にも被害をうけられた方たちにも同じようにお見舞い申し上げたいと思います。

昨日、石川君からＦＡＸで送られてきたという安福君の臨場感あふれる被災地の様子のレポートが手紙とともに届きました。次号の『通心』にいっしょに入れるということでした。ほんとうに、ついこのあいだ訪れたところが、そして同窓会のみんなと会った所が、こんなに大きな地震にあうなんて今でも信じられません。

同窓会のあと出沼（井田）さんとふたりで三の宮周辺を歩きました。六甲山頂上のレストランで神戸の夜景に感激しながら、おばさん同士でちょっぴりはずかしいねと、アベックに混じって食事をしたり、平田さんとばったり遇った異人館地区ではロングドレスでモデル気分になったり。子育て終了後の旅の始まりにふさわしい場所だから今回のは予備調査にして来年は伊藤さんといっしょにもう一度こようねと約束したばかりでした。彼女と別れた後、西宮の友人のところに訪ね旧交を暖めました。待ち合わせの西宮北口が駅名と知らず西宮駅の北口だとばかり思っていたのですごく印象に残っています。小高い場所に建つマンションの８階のからまわりがよく見渡せて「ほら、あそこが明日会う彼女の住む伊丹よ」などと説明をしてもらい、素敵な所に住んでいるなと思いました。

１月１７日当日、同じ日本にいながら、私は長い時間この地震について知りませんでした。その日の朝はテレビもラジオもつけずに家事の雑用をすませ、１１時に仕事仲間との打合わせに出掛けました。毎朝自分の部屋でラジオをつけている主人も、いつもの勤務と違うのでニュースも聴かず早朝に出ていました。私が新聞以外を見ないのはめずらしことではないのですが、それでも家族の誰かから情報が流れてくるものです。この日の朝はまったくそれがありませんでした。東北方面の地震の方が揺れを感じたりします。

新宿駅で「村治さん、お友達のほういかがでしたか？」「えっ、なんのこと？」「ご存じないんですか。神戸のほうでひどい地震があったんですよ。たしか、去年神戸の方にお友達に会いにいかれましたよね」「ええ、三の宮の方に、それで被害は？」「まだよくわかりませんけど、ほら、以前ご一緒に泊まったワシントン・ホテルの隣など壊れたようですよ。」「えっ、じゃぁ、あのお店はどうなったのかしら。」一瞬、安福君にみんなで連れていってもらったお店が頭に浮かぶ。「だいぶひどいらしいんですって」「どうしよう。みんな大丈夫かしら」そんなやりとりの後、話は他に移り、お昼すぎに新宿駅でも号外が配られたらしいが、もうその場を離れたあとでした。

それから夜７時すぎまで外にいて、地震のようすを知らずに過ごしました。途中、西宮の親友の安否が気遣われ、電話番号も持っていましたが、家族の安否を気遣う電話が優先されるべきだと思ってかけるのを控えました。関西方面にたくさんの友人や知人がいる。昨年逢えた人たちも、ずっと逢えずにいる人たちもどうだったのだろうか。淡路島震源の直下型地震があったという事実だけを知らされただけの半日は、すべて漠然としたもやの中に包まれているだけで想像すらできにくい状態でした。

帰宅すると、当然、娘たちがテレビの前に釘ずけになっていました。主人からも再三電話があったということでした。西宮の友人は彼の同級生でもあり、私は意を決して、西宮にダイヤルを回しました。掛かるはずはないと思いましたが、やはり「おかけになった電話番号はたいへん混雑しておりますので、もう少し後でおかけ直しください。」というメッセージが流れました。高槻や伊丹も同様でした。もうやめよう。被災地への電話は迷惑になるだけだろうから。

幸い親友の実家の電話番号がありました。お母さまがあまりお元気でないのを知っていたのでためらわれましたが、高校時代とくに親しくしていたこと、昨年、彼女の引っ越したマンションを訪ねたこと、家族ぐるみで付き合っていたことなどを説明して、突然電話をしたことを許していただき、なにか連絡はなかったかと尋ねてみました。一家が命は無事だったこと、家の中はひどかったことを教えていただいた。緊張していたものがふっと解き放された感じがした。ああよかった。生きてさえいてくれれば。それは安否を気遣うひとたちの共通の思いにちがいないなかった。

この切羽詰まった電話で私はこんなことを学びました。「彼女たちのところは大丈夫だったようですけれど下の方は崩れたらしいですよ。」私の頭は、彼女の階は被害が少なくて済んだが、一階など下のほうは崩れたと解釈した。そして、主人の勤務先に連絡する時にもそう伝えた。はやく電話を切らないと悪いと私も焦っているので詳しく聞き返すこともできずにいたこともある。ずっと後で大阪のホテルに避難しているという彼女からの電話で、下とは小高いところにあるマンションからの下方と知りました。こうした不確かな

情報がパニックを起こし、ほんの些細なことばがデマとなって広がる。でも、その時私の頭は確かにそう解釈していたのです。

電話の中でお母さまが「彼女は友達が少ないので、ありがとうございました。」といわれた時救われた気がしました。彼女は結婚してすぐに東京を離れたので学生時代の友達にもそんなに会えないのです。何もできないとわかってもすぐ反応を示すことは迷惑かもしれないが心の支えにはなるのではないか。翌日私の所へ「あなたが去年会いに行った人たちは大丈夫だったの。」と面識もない人をも私の一部として気遣って電話をくれた人や「私の所は大丈夫だったから心配しないでね。もしかして電話をくれていると悪いと思って」とふだん年賀状ぐらいしかやりとりのなかったのに連絡をくれた人がいました。「一緒にエジプトへ行こうって約束したけど、神戸に知り合いがいっぱいいるから、そのお金まわすつもりだからまた働いて貯まるまで待っていてね」と言ってきた友人もいました。身辺が急に慌ただしくなった感じでした。安福君が「都会にありがちな人情の希薄をとりもどしつつあります。」と書いていました。きっとそうなのだろうなと思います。「あんな惨事に秩序ある行動をした住民たち」とニュースで伝えた国もあったと聞きます。戦後５０年エコノミック・アニマルと冷たい目で見られている日本国民の汚名を僅かでも挽回できる良い機会ではないのでしょうか。

西宮の友人が「最初の三日間は必死で割れたガラスを集めたり、家の中のことをしていたけれどそのあとすごく疲れちゃった。」と電話の向こうで言っていました。マンション外見は壊れていないけれど検査の結果がわかるまでは心配で住めないそうです。被災地の人たちにはこれからしなければならないことが山のようにあることでしょう。住民たちはもちろん、ライフ・ラインの復旧にたずさわる人たちや負傷者のお世話をする人たちが過労にならないようと願わずにはいられません。そして願わくば、復興した神戸が自然に挑戦するようなコンクリートとアスファルトに身を包んだ巨大な人工都市になりませんように。誰もが地震災害は明日の我が身と考えています。『通心』ネットワークの皆さん、地震で学んだ知恵などがありましたら教えていただけたらと思っています。

平成７年１月２４日　　東京・杉並にて　斉藤笙子

第２４号『通　心』によせて

会員の皆さん、とりわけ関西の会員の皆さんお元気でしょうか？１９２３年以来の大地震が起こってから２週間が過ぎ去ろうとしていますが、今だなお瓦礫の山と化した市街地の様子や避難生活をしている人々の様子をテレビの画面を通じて知る度に心痛む思いで一杯です。何か「我々にできる事があれば」という気持ちは会員全員の共通した思いでしょう。困った事があったら是非御一報を。

❀　❀　❀　❀　❀　❀

さて、今回は河井孝幸君の『通心』をお届けします。
私も大都会東京で生活を始めて早くも３０年近くが過ぎ去ろうとしております。最初は大学時代だけと考えていた都会生活も、仕事や子育て等と忙しい毎日に追われながら、何時しか４８才の声を聞くようになり、ふと自分が歩んできた道を振り返ったり、思い出したように２０年も前の仕事の同僚に連絡をとってみたりして、現在と全く違う自分の人生を頭の中に描いて見たりする。そうすることによって妙に新鮮な気分になるのです。

『通心』に書かれている場所や地名はどこなのでしょうか。全国で海峡のある街はそんなに多くないと思われるが……………　地名がわからないなりに、河井君もこの「海峡のある街」で、地酒と新鮮な魚に舌づつみしながら、新しい時代の中に残ってしまった古い街なみと自己を一体化させて、「妙に新鮮な気分を感じたのかな」などと勝手に想像しながら、みなさんより一足先に読ませていただいた次第です。あしからず…………

ところで、今回は河井君の『通心』の他に、兵庫県の大地震について自主的に書いてくれた、安福君と斎藤さんのリポートを同封いたしましたので是非お読み下さい。この生々しいリポートを。お二方とも有り難うご座居ました。

❀　❀　❀　❀　❀　❀

次回の『通心』発行は４月半ば頃と考えています。
リポーターは福本（旧姓新垣）房子さんを予定しています。お楽しみに。

１９９５、２、１：　広川　　誠　記

◆兵庫県加古川市の安福君からの緊急リポート

《兵庫南部地震の中で》

淡路島沖２０キロを震源地とする今回の阪神大地震は、１７日の早朝一瞬寝床が浮いたような衝撃で始まりました。

今まで経験したことがない揺れは、頭がまだ寝ている中で判断を迫りました。「逃げようかどうしょう」座ったまま呆然としていました。やがて揺れが収まり階段を降りて行くと花瓶や絵が散乱、本棚の本はすべて棚から落ち、台所には皿や茶碗がわれていました。すぐにＴＶをつけニュースを、神戸・淡路島震度６の烈震、姫路震度４の中震の報道、もっとすごい震度であったような気がしながら会社へ、昼のニュースで流れる報道は信じられないものでした。

一切の通信機能、ガス、水のストップ、更に灘と兵庫区・長田区に広がる火災、上空から映しだされる見慣れた神戸の町が変わっていきました。得意先、友人、知人、そして長男（神戸市灘区に勤務）の安否が気になります。どうすることもできない苛立ちは例えようもないものでした。夕方になって得意先からの電話がやっと通じて「ひどい状態や、○×の所は駄目と思う、○□の所は大丈夫やった」夜になって息子からのＴＥＬ、「生きてるぜ、心配せんといてや」ほっと一安心、しかし地震の余波はもっと厳しくすごさを日増しにみせつけていきました。

翌日、翌々日、社員でチームを組んで「水」「ほかろん」を積んで神戸に走りました。

言葉がなかった。圧倒的な自然のもたらした結果に唖然として得意先へ行きました。行った先のご主人は焼け野原になった住宅地で自衛隊員と一緒に「ここにおばあさんが寝ていたはず、ここを掘ってくれ」自分の身内は奇跡的に助かり近所の人が埋もれているのを自衛隊員に指示していました。骨になっていました。

昨年神戸で同窓会をしました「多美」「凛」を覚えていらっしゃいますね、幸いにビルは見かけは大丈夫でした。しかし中には入れませんでした。今日（1月２１日）いまだに連絡がとれません。多美の女将の住まいは垂水ですから命の心配はいらないと思います。凛ですがママの住まいは熊内町といって新神戸オリエンタルホテルの近くですからここも心配はないと思っています。しかしことごとく、本当にすべてが破壊されています。実際に見て来てあまりの出来事に打ちのめされて帰って来ました。

新聞では震度の訂正がありました。７だそうです。初めてのことだそうです。一秒の間に５５センチの揺れを震度７ということを知りました。

阪神大震災はまだ進行形です。今晩は雨が降るそうです。好きな町でした。年をとったら今の加古川市から神戸に移ろうと女房に言ったことがありました。女房が今でもそう思っている？と聞きました。私は益々神戸に住みたい気持ちで一杯です。

震災はまだ進行形ですが神戸はやがて復興します。もっと住みやすいもっと豊かな町へと再建します。インタビューに答えた住民の多くが家がなくなっても、お金をなくしても命が助かったことへの感謝がありました。都会にありがちな人情の希薄をとりもどしつつあります。皆で助け合って生きることに笑みを浮かべながら話していました。この朗らかさのパワーがあるかぎり神戸は再建できます。自分が住んでいるところを誇りに思えるように本当のスタートが始まったのだと思います。

石川君から電話をいただきました。同窓会をやった神戸ということで何かメッセージをと頼まれました。今、私は被害にあった人と話をしてきて、頑張れ、大丈夫、勇気を持つことを人にも自分にも言い聞かせています。やがて神戸が復興したあかつきには再度神戸で同窓会をと夢見ています。

平成７年1月２１日　兵庫県　安福義郎

通　　心　第２５号

筆者：福本　房子

「五條の町」

雅びやかな京都、素朴な奈良、哀愁をおびた神戸の町へと、今私の住んでいる町からは、その気になれば日帰りコースで足を運ぶことができます。とても田舎で、古い町です。古いだけに、しきたりや、伝統、方言、田舎独特な慣習……始めのうちは馴染めず、戸惑いばかりでしたが、嫁して２０数年、今では良きにつけ悪くにつけ、私にとってすべてを含めて、この地が好きです。

奈良県の中央部、大和盆地の西南にある五條市。北は金鉱山脈がそびえ、南は遥かに紀伊山地の山並みが連なり、市の中央を吉野川が東から西に流れています。恵まれた環境であったことから、この地には早くから人が住みついて、その足跡は市内各所に見られる遺蹟や古墳などで知ることが出来ます。奈良時代には、このあたりは宇智の大野、阿太の大野として狩猟の場になり、“たまきはる宇智の大野に馬なめて、朝踏ますらむその深草野”などの歌も万葉集に詠まれています。

また、往時は交通の要地として栄え、下街道によって奈良盆地と結ばれ、南は西熊野街道が十津川に沿って熊野に通じ、東は伊勢街道、西は紀州街道が、それぞれ奥吉野、紀州とを結んでいました。この街道は、紀州藩の参勤交代の道筋にあたり、さらに吉野川舟運の舟着場でもあったので、宿場町、市場町としてにぎわいました。近世に入って一時、松倉氏が一万石で二目に封ぜられ、城下町として新町が栄えました。その後、幕府の直轄地となり、代官町が置かれました。

私は、この新町に住み、今は史跡公園とされている代官所跡で、二人の子供の手をつなぎ、この地の人達とふれ合い、のんびりと二十数年過ごしてきました。その子供達も、私の手を離れ、ほっとする気持ちと、一抹の淋しさと、さあ、これからは自分の時間を有意義なものにと思いはじめた時に、神戸での同窓会のお便りでした。私達家族にとっても、神戸は一先年訪れ満喫したところだけに、不思議な縁を感じ、思いきって参加させて頂き、本当に楽しく、懐かしく、集まった方達の前向きさに刺激させられながらの帰宅でした。その神戸の町が、大惨事にあい、住んでいらっしゃる人々のお気持ちは、いかがばかりかとお察し申しあげます。私は、“一生懸命”という言葉が大好きです。昔、武士は一所の土地を命をかけて守ったといいます。今、神戸の方々は、まさに自分の町を作り上げよう、守ろうと一生懸命でいらっしゃる姿に感動している最近です。何年後、イエ何十年後かに、震災から立ち上がった神戸の町で、もう一度同窓会が開かれるのを楽しみに待っております。

１９９５．８．２６

皆さん、この猛暑をお元気で乗り切られたでしょうか？
本当に厳しい暑さの夏も終わろうとしています。

今回は福本（旧姓新垣）房子さんの「通心」をお届けします。新垣さんとは昨年１０月、神戸の同期会で卒業以来の再会でした。お名前では顔が思い浮かばなかった私も、お会いしたとたんに「あっ、新垣さんね、お久しぶり！」とわかり、白山キャンパスで友と語り合っていた頃のことが、昨日のように懐かしく思い出されました。「学生時代の友だちって、長い時間離れていても、それが全然感じられず、すぐに心を通わせることが出来るのね。」という言葉に、私も大きく大きくうなずいていました。子育ても一段落し、何か自分のために始めようとしていた彼女は、同世代の友と語り合う中で、自分で目指そうとしていたものが、より確かなものとなって歩まれているのではないかしらと推察します。そして、新しい土地でのご苦労も、彼女の素敵な人柄が受け入れられたように感じられました。又、お会いする日を楽しみにしています。

今回、広川君の都合で、ピンチヒッターとして通心をお送りすることになりました。私事を一言聞いてください。
３人の子供たちは、大学２年、高校２年、中学２年と難しい年頃で、毎日“打打発止”のやりとりが繰り返されております。心穏やかに暮らせる日はいつ来るのかしら？　でもこうしている今がいいのかしら？と揺れています。そんな時、学生時代の友達に悩みを打ち明け、何でも話すことが出来るのは救いです。これは、何にもかえがたい宝物です。今年の夏は暑かった。私にとってもいろいろなことがつまった熱気球のような熱い夏でした。

皆さん　まだまだ残暑厳しく、季節の変わり目に体調を崩さないよう気をつけましょう。若いと思っているのは自分だけですものね。

最後になりましたが、震災前の神戸を見た者として　神戸の復興を願い、再興した神戸できっと又お会いできることを祈っております。

さて、次回の「通心」をお楽しみに。

出沼　恵子　記

◉　Ｐ．Ｓ．　通心のリポーターをご希望の方は、ふるってお知らせください。大歓迎です！！

通　心　第26号

筆者；石川 恵一

今年もあとわずかになりました。今年は秋の尾瀬を案内しますと「通心」誌上で約束をしていましたが、私の都合により、それが出来ませんでした。勝手作ら今回の「通心」は、その事のお詫びを伝える為に使わせて下さい。

1月17日、神戸を中心に兵庫県南部を襲った阪神大震災。そして、3月 地下鉄サリン事件。大事故、大事件が相次いで行く末を案じさせました。そんな今年も あとわずか。もうあの様な事件は起きてほしくないという思いで一杯です。

私の所でも、今年は大変な一年になりました。1月6日、事務所のキャッシュボックスが盗難にあいました。正月ということでもあり、中に現金は入っていませんでしたが、従業員の年金手帳、預金通帳、預っていた権利証等が紛失しました。

そして、1月29日、従業員の宿舎にもなっていた事務所兼倉庫の休憩室から従業員の不始末から出火、火事そのものは全焼には至りませんでしたが、負傷者も出るという惨事になりました。事務所にも火が入り、焼失はまぬがれた書類も、熱の影響で、ボロボロの状態でした。手に取ると、細かく破れていく、ページをめくろうとすると、手でもんだように、細かく砕けてしまい、手をつけることが出来ませんでした。

さらに、5月、工事代金が 集金出来ないまま、相手がいなくなってしまいました。いわゆる夜逃げ。約350万円が入金にならず、かといって、従業員や下請けの職人達には支払わなければならず、長引く不況のあおりで仕事量も減少、もうけのある仕事はもう全く求められない状態。そんな中での 大量の未収金の発生。これはもう起き上がれないかと思いました。いつ倒産という状態になっても、不思議ではない状態でした。これで終わりかなと 何度も思いました。まだ受注していない物件を受注した様にして、銀行から運転資金を借り入れ、息子の学資にと貯えていた資金を取り崩したりして、やっとの思いで何とかしのぎました。

でもこの不況、受注も工事量も減少の一途。見積り額は、10年前の水準に戻っています。利益は考えられず、とにかく仕事はきらさない様に、資金繰りを回転させていくのがやっとという状態は、依然として続いています。

9月、東洋大での友人が経営していた会社が倒産に追いこまれました。仕事面での受注は、多少の落ち込みはあっても まだまだ回転できる内容だったのに、取り引き銀行の方針によって、切り棄てられ、倒産に追い込まれました。

同じ頃、私の所の従業員が乗っていた車が暴力団の組長の奥さんに関わりがあるという事で、その組長（稲川会系小田組2代目金子組組長と名のるヤクザ）が私の所へ来て、その責任を取れと、暗に金銭を要求してきました。その要求を突き放して警察にこの件を持ち込み、暴対法に基づき、金子組に対し、「中止命令」が出されました。この時にも、地元の下野新聞だけでなく、中央紙の地方版に私の名前は出ませんでしたが、この件が報じられました。1月の火災の時にも、新聞にのりましたが、今年は2度もそれも共につまらない事で新聞ダネになってしまいました。2度あることは何とかといいますが、もう何もないことを祈るだけです。

こんな状態でとうとう尾瀬への誘いを企画する事ができませんでした。誠に申し訳ありませんでしたが、何とかわかって下さい。すみませんでした。

大蔵省は、来年の予算編成について、19兆円の税収不足が予想されるので、赤字国債を発行する方針を表明。これ以上、不況が続くようだと日本経済全体が破綻しかねない。価格破壊で物価が安くなった。土地が、建築費があらゆるものが安くなった。でもはたして買い易くなったのだろうか？ 購売力も落ちている為、決して求め易くなった訳ではないと思います。全てが縮少縮少。資本主義が拡大再生産を基調としてきたのに反して、この間の日本経済は何を基調としているのだろう。明日の支入れは、今日よりも減らして、明後日はさらに減らしてという事にしていくと、経済はいつか成り立たなくなる。来年こそは良くなってもらわないと、良くしていかないと日本の

国全体が沈没してしまう。そんな事がないようにとにかく頑張らねば。

読売新聞に今、連載されているのは、村松友視の「激しい夢」。70年、時代が激しく動いていたあの頃がテーマです。もう一つ、山田智彦の「城取り秀吉」。

下野新聞には、森村誠一が「エンドレス ピーク」を載せています。これは先の太平洋戦争(15年戦争)がテーマです。5人の若者が、槍ヶ岳で再会を誓って山頂の石を持ち帰るところから始まった、反戦を前面に出した小説です。日本人の男性が2人、アメリカ人、中国人、そして日本の女性が1人。この5人が、戦争の中でどう関わっていくのか、これは力作です。

そして寂聴さんの「毛毬」。良寛とその良寛をしたう尼僧の物語です。だから今、同時に4冊の小説を読んでいます。少し前には、森瑤子、落合恵子、水上洋子等といった人達の小説を読んでいて、同時に。もうそうなると、ストーリーが混じってしまって、これが何々おもしろいものです。

今年は僕自身の身体の方にも変調がみられました。2月か3月頃から、右眼がかすむ様になって、つかれ眼かと思っていたのですが、どうやら白内障らしくて、車を運転するのに遠近感が少し不安定な状態です。

眼がこんな状態だと疲れやすくて物事への取り組み方も、積極的になれなくて、やる気が仲々出てこなくて気はあせっても、体が思うように動かなくて、自分自身に腹立たしく、「男の更年期」とはこういう事なのかなと思っています。体力的に無理がきかなくなり、眼が、そして歯が悪くなり、それに対して、社会的な責任は重くなり、そのギャップからストレスが大きくなり、精神的に不安定な状態が続く。これが、この年代の我々がかかえているシンドロームなのだと思います。でもそんな中、来年に向けて、「光」が見えてきたようです。ボスニアでもいろいろ問題はある様ですが、何とか和平に向かいそうですし、仕事の面でも、よくなる兆しが見えてきました。これからは、来年の飛躍へ向けて、とにかくいい仕事をしていこう思っています。いろいろありましたが、圧しつぶされる訳にはいきません。逃げる訳にもいきません。とにかく頑張るだけです。

今年は夏の山歩きもわずかに一泊で、北岳へ行っただけでした。尾瀬にはついに一度も行けませんでした。来年はもっと楽しく生きたいと思っています。そして「尾瀬への誘い」も企画したいと思っています。

今年は本当にすみませんでした。

今年もあと数日を残すのみとなりました。石川君から11月下旬に原稿を受け取っていたのに今となってしまいました。この原稿を読み、本当に今年はいろいろな事があり、心の痛む一年でしたね。私達も社会の中で主になって働く年代となり、厳しさと責任が重くのしかかる立場となりました。石川君だけでなく全国にいる仲間達もそれぞれ同じ思いではないでしょうか。こんな状況でも気持をぶつけ合える仲間がいること、そしてお互いにはげましあえることの幸せを思います。皆さんがんばりましょう。

そして何より「健康第一」です。無理のきかない体になるのは認めたくありませんが現実なんです。

来年は、来年こそ良い年でありますようにと祈ります。皆さん良いお年をお迎え下さい。

出沼恵子

通　心　　第２７号

筆者：安形　和子

「親と子のビートルズ」

三年前、息子が中学生になったお祝いに叔父さんからフォークギターを頂いた。かつての私がそうであったけれどギターの独学は難しいもの。せっかくのギターも“お蔵入り”になりかねないので、ギター教室を捜して、そこで教えてもらうことにしました。ところがその教室がなかなか見つかりません。致し方なくクラシックギターの教室に行くことにしました。

ギターの弦は硬く、楽譜と睨めっこしながらたどたどしく弾いていました。一年程たったある日、先生が『これはいい曲だよ』と渡された曲が、『Ｙｅｓｔｅｒｄａｙ』。何回弾いてもうまくいかない息子が一回原曲を聴きたいと、『この曲のＣＤあるかな』ときいてきました。これに触発されてしまったのが、他ならぬ親の方です。『Ｙｅｓｔｅｒｄａｙ』は勿論のこと、これもあるよ、これはどう？とビートルズの嵐。朝食の時にも流れるＢＧＭはすべてビートルズ。夫も私も子供と一緒に、青春時代に夢中になっていたビートルズをつきあげるような興奮とともに聴きました。

息子はそれ以来、すっかりビートルズにはまりっぱなし。ギター教室も中学の友達に紹介されてロックギターの教室に替わり、ビートルズの曲を片っ端から習っています。ギターもフォークからエレキに替え、お年玉預金をはたいてギブソンも買いました。息子は左利きなのでギター捜しも一苦労です。ポールを真似て、ヘフナーのバイオリンベースも左用を買いました。今では彼の部屋には４本のギターが並び、まるでミュージシャンです。月１～２回の国立のライブハウス行きも欠かしません。そこでビートルズのコピーバンドの演奏を聴いてくるのです。

今、彼は中学三年生、花の受験生です。勉強の合間にギターを弾くのか、ギターの合間に勉強をやっているのかわからないけれ『この曲、上手く弾けるようになったよ』と得意げに演奏するのを聴きながら、親子でビートルズを楽しむ今日このごろです。

１９９６．９．２３

お久しぶりです。今年になって初めての通心です。忙しい中を安形さん（旧姓田宮）に原稿を依頼しておきました所、約束どおり、ほのぼのとしたご家族の様子が送られて来ました。「やっぱり彼女らしいマシュマロのような暖かい家庭をきずかれているんだなぁ。」と思いながら読ませていただきました。

ビートルズ いいよネ。我々も熱い血を湧かせたものです。今時の若者はなんて、どうしてどうしてビートルズにはまっている若人よ、共通項だね。肩をくんでいっしょに歌おうよ！どんな時でも心にひびくものには変わりはないのですね。

今日は（22日）、台風17号が接近し、強風雨のため窓は閉めきったまま一歩も外へ出ることができませんでした。夕方には静けさが戻りましたが、自然の猛威の前には、人間はなすすべもなく過ぎ去るのをジッと待つのみです。自然をあなどることなく、人間はおごるべからずを実感しました。

皆さんのお宅では被害はありませんでしたか？

豊かなみのりの秋の訪れ、芸術、スポーツ、食欲、読書の秋と、秋にはどんな言葉も似合います。　文化祭や体育祭など子供達と共にさわやかな秋を楽しみましょう。　ご自愛下さい。

出沼恵子記

通　心　第２７号

筆者：安形　和子

「親と子のビートルズ」

三年前、息子が中学生になったお祝いに叔父さんからフォークギターを頂いた。かつての私がそうであったけれどギターの独学は難しいもの。せっかくのギターも“お蔵入り”になりかねないので、ギター教室を捜して、そこで教えてもらうことにしました。ところがその教室がなかなか見つかりません。致し方なくクラシックギターの教室に行くことにしました。

ギターの弦は硬く、楽譜と睨めっこしながらたどたどしく弾いていました。一年程たったある日、先生が『これはいい曲だよ』と渡された曲が、『Ｙｅｓｔｅｒｄａｙ』。何回弾いてもうまくいかない息子が一回原曲を聴きたいと、『この曲のＣＤあるかな』ときいてきました。これに触発されてしまったのが、他ならぬ親の方です。『Ｙｅｓｔｅｒｄａｙ』は勿論のこと、これもあるよ、これはどう？とビートルズの嵐。朝食の時にも流れるＢＧＭはすべてビートルズ。夫も私も子供と一緒に、青春時代に夢中になっていたビートルズをつきあげるような興奮とともに聴きました。

息子はそれ以来、すっかりビートルズにはまりっぱなし。ギター教室も中学の友達に紹介されてロックギターの教室に替わり、ビートルズの曲を片っ端から習っています。ギターもフォークからエレキに替え、お年玉預金をはたいてギブソンも買いました。息子は左利きなのでギター捜しも一苦労です。ポールを真似て、ヘフナーのバイオリンベースも左用を買いました。今では彼の部屋には４本のギターが並び、まるでミュージシャンです。月１～２回の国立のライブハウス行きも欠かしません。そこでビートルズのコピーバンドの演奏を聴いてくるのです。

今、彼は中学三年生、花の受験生です。勉強の合間にギターを弾くのか、ギターの合間に勉強をやっているのかわからないけれ『この曲、上手く弾けるようになったよ』と得意げに演奏するのを聴きながら、親子でビートルズを楽しむ今日このごろです。

１９９６．９．２３

お久しぶりです。今年になって初めての通心です。
忙しい中を安形さん（旧姓田宮）に原稿を依頼しておきました所、約束どおり、ほのぼのとした御家族の様子が送られて来ました。「やっぱり、彼女らしいマシュマロのような暖かい家庭をきずかれているんだなぁ。」と思いながら読ませていただきました。

ビートルズ、いいよネ。我々も熱い血を湧かせたものです。今時の若者はなんて、どうしてどうしてビートルズにはまっている若人よ、共通項だね。肩をくんでいっしょに歌おうよ！どんな時でも心にひびくものには変わりはないのですね。

今日は（22日）、台風17号が接近し、強風雨のため窓は閉めきったまま、一歩も外へ出ることができませんでした。夕方には静けさが戻りましたが、自然の猛威の前には、人間はなすすべもなく過ぎ去るのをジッと待つのみです。自然をあなどることなく、人間はおごるべからずを実感しました。

皆さんのお宅では被害はありませんでしたか？

豊かなみのりの秋の訪れ、芸術、スポーツ、食欲、読書の秋と、秋にはどんな言葉も似合います。　文化祭や体育祭など、子供達と共にさわやかな秋を楽しみましょう。　御自愛下さい。

出沼恵子記

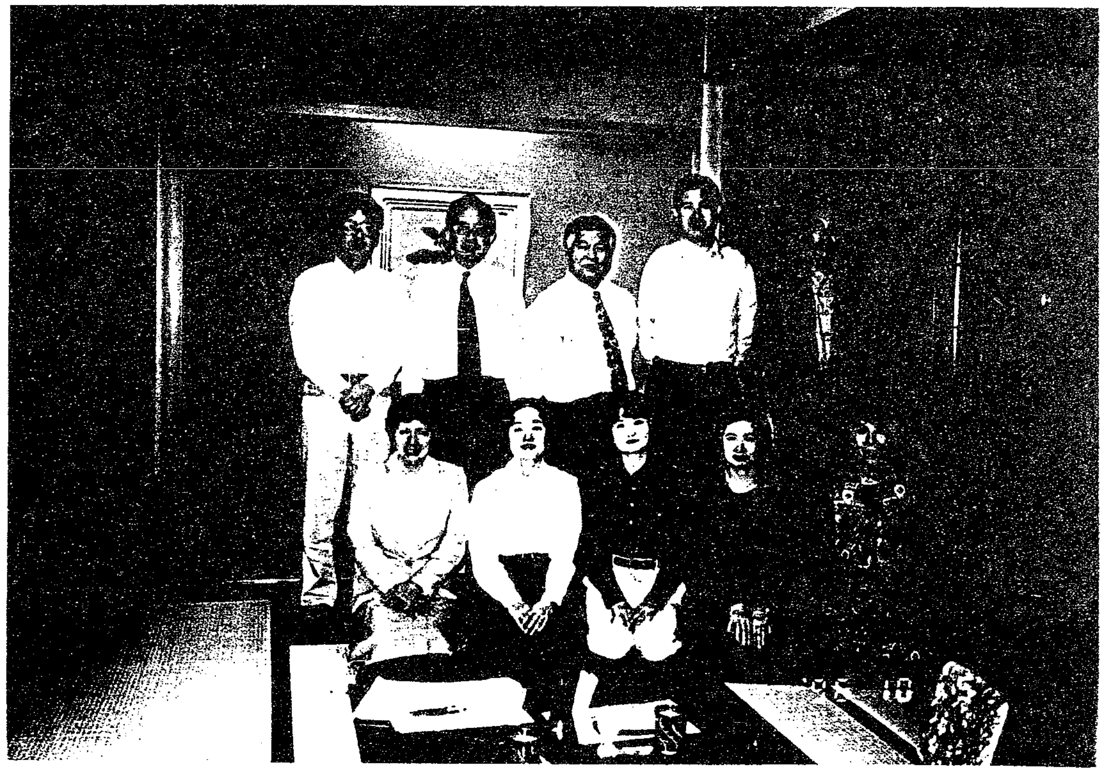
通　　心

第 28 号
1997、5、1

新緑の侯、会員の皆様にもお変わりなくお過ごしの事と存じます。緑の少ない東京も、私の住んでいるこの三多摩は今若葉の真っ盛り。とりわけここかしこの歩道を彩る「はなみずき」の花は見事なものです。

さて、今回は迫田けい子さんの『通心』をお届けします。彼女の文章を皆様より一足お先に読ませていただき、あの四半世紀以上も前になる大学時代に学んだ「歴史的視点」をいまだ持ち続けていることを知り、時間の過ぎ去るままに只ただ惰性で生きている自分にもどかしさを感じ入った次第です。

次回の『通心』発行を今年の秋ごろと考えています。「書いてみたいなー」などと考えている方は、事務局の伊藤さんまで一報を。



『東洋史の会合での記念写真』

この頃思っていること

迫田けい子

この間１９９７年になったと思っていたのにもう２月です。月日は飛ぶように過ぎていきますね。みなさま如何お過ごしですか。昨年１０月５日、東洋史では久しぶりに会合を持ちました。そのご報告をいたします。

所は埼玉県森林公園、湖畔墓苑。私たちは１９９６年５月３０日に亡くなられた船木勝馬先生のお墓参りを行ないました。先生は１９７５年４月に中央大学に移り、１９９４年３月に７０才で退職されました。その直後にガンが発見され、闘病生活をしていらっしゃいました。亡くなる前にすべての段取りを指示した先生のお葬式は、無宗教でごく僅かの人に見守られて行なわれました。お墓参りの後、上野で会食をした時の写真を同封いたします。みなさん昔の顔と名前は一致しますか？　「迫田がいないのは寂しい」との話もでましたが。

１９６６年から１９７２年までの私達の学生時代。コンパ。武蔵野郷土館、大東急記念文庫、静嘉堂文庫、国立博物館などの見学。松本青年の家、伊豆、銚子などでの合宿。白山祭。小石川植物園や六義園。そして大学封鎖、機動隊との衝突。大学管理法の通過。こうした点描の中に、私たち東洋史には船木先生や谷口さんの姿があります。あの頃同じく助手だった国史の佐藤さんもすでに１９９４年１１月に亡くなられています。あれはやはり四半世紀前のことなのですね。１９８９年のソ連解体以後、米・ソ対立などの言葉も死語になってしまいました。中国の文化大革命も「過去」の話です。この６月には香港が中国に返還されます。４年後にはもう２１世紀なのですもの。

突然話はかわりますが、1月末のテレビ朝日「朝まで生テレビ」見た方いますか？　昨年来よく話題になる自由主義史観研究会を主催する藤岡信勝氏とは、そもどんな人なのだろうかと思って、あれをビデオにとっておいて見たのですが、私には彼の論理は理解しがたいものでした。

「インドネシアはワイロ社会だ。お金を積まないと話が聞けないというので、直接話はしなかった」というズサンな“現地調査”で、すべては分かったとする態度。インドネシア国に対しても、とても失礼な言い方だと思いました。さらに反対者側の文章を読みもしないでの反論。教育学者だといいながら、人間を慈しむことのない感性．．．．．。

私たちより少々若い世代の彼の「自虐史観」というのは、どこからきたのだろうか。私はそれを知りたいと思って見たのですが、もう一人の旗手西尾氏とともに、反対派には何を言ってもいいんだというような感情的戦闘的言辞からは、強者のおごりしか感じられませんでした。そこには学者としてあるべき論理性はあまり見られず、それ以上に、ある種のきなくささを感じたのです。

彼等は「日本人の自虐史観を正す」とし、「新しい歴史教科書を作る会」を発足させたそうです。この時読み上げた賛同者にはスポーツ選手が多く、真っ先に上げた王貞治氏からは、私は賛同していないと抗議を受けているとか。さしあたってのこの会の標的は、『従軍慰安婦』のようです。

ここでの彼等の論理の中には、それが日本人女性に対してであれ、あるいは植民地の女性、はたまた敵国人女性に対してであれ、女性の性を蹂躙し続けた過去の歴史への反省は見られません。戦争にそういった事はつきものであり、他のどの国でもやってきたことであり、何故日本人がそんなことを自虐的に反省する必要があるのかというものでした。

私は、この正月中国南部を旅し、降るような星を眺めてきました。そして偶然、長江の古代文明を証明するものとして今注目されている三星堆遺跡の展示をやっているところに行き合わせ、あの眼が飛び出、耳の大きい仮面を見てきました。それともう一つご披露したいのが、中国の知人宅で見た連続ＴＶドラマです。その題は、そのものずばり「慰安婦」というもので、毎日まとめて放映しているというのを３話ばかり見たのですが、私自身の気持ちは複雑でした。中国でのこうしたドラマの放映自体が、日本の右翼的動きに対する中国としての示威行動と思えたからです。

また話は飛んで、最近見た映画を二つ。ヘミングウェイの「誰がために鐘は鳴る」で有名な１９３６年からのスペイン内戦を描いた映画「大地と自由」が今東京で上映されています。当時の情勢として、フランコの反乱軍を支援するドイツ・イタリア、共和国政府軍を支援するソ連という構図がありましたが、この政府軍を支援する外国人部隊に入ったイギリス共産党員が主人公です。反ファシスト闘争とみえた共和国防衛も、援助を巡る大国間の利害に翻弄され、スターリニズムで圧殺されていきます。この内戦終了後、ヒトラーとスターリンとの間で独ソ不可侵条約が結ばれたのは単なる偶然ではないといいます。大きな力で押さえつけられ「何故、自分たちの村を守るために戦っている銃を取り上げられなければならないんだ」という悲痛な叫びが胸を打ちました。

また、韓国の慰安婦を扱った映画「ナヌムの家」というドキュメンタリーも、なかなかの力作でした。中国武漢あたりの裏町に住む朝鮮人老女、彼女が何故そこに住んでいるのかといえば、慰安婦として日本軍に連れてこられたからです。日本の敗戦とともにそこへ捨てられ、“恥”の気持ちから故郷へ帰ることはできなかったという彼女の姿に、私は日本の罪業を感じました。

日本が朝鮮半島と台湾を植民地化し、中国や東南アジア、太平洋を戦場にした過去は消せません。戦争とは弱者を侵害する「悪」であり、それを子どもたちに伝える平和教育は絶対必要だと私は思います。敵視と諍いからは破壊しか生まれず、一人一人の人権の尊重とお互いを認め会うことから前進は生まれるということを伝える必要があると思うのです。

野放図な生活をしている大学生のドラ息子は、私のグチに対して「あんた史学科卒業したというけど、それを今の生活に生かしているかい。図書館なんかであくせくしてるだけで」とか申します。でもこうした“歴史をみる眼”を私は確かに船木先生たちに学んだと思っています。そして、大勢に流されはしないぞという頑固さをも、あの時代に学んだと思っています。

通心のみなさまに、この頃の私の思いを伝えたくなりました。どうも、お邪魔しました。

97.2.11

『通　　心』　第２９号　１９９７、１１、２1

会員の皆様お元気でしようか。久し振りに第２９号の『通　心』をお届けします。今回は、「本山富美江さん」の近況報告です。
「五十路」と聞いた時、我人生について「あと三十年程ある」、いやいや「後三十年程しかないぞ」と、まさに人それぞれの想いがあるのでは。
子育てが終わったと思うと、老いた父母との人生。ややもすると自己を見失いそうな自分に気付き、ルィセンコの『農業生物学』やカーソンの『沈黙の春』、ラシュディの『悪魔の詩』などという二十世紀を騒がせたといわれる書物を読み耽る今日この頃です。
さてさてそろそろ山本さんの世界へどうぞ………………

※　※　※　※　※　※　※　※

「近況報告」

筆者：本山　富美江

卒業してから二七年。来年は、いよいよ五十路に突入する。年を経るにつれて、日が瞬く間に過ぎて行くようで、「突入する」と言う表現が正にあてはまる気がする。三十路に入る時も四十の時も格別な想いはなかったが、五十と言う響きは、半世紀という言葉で言い換えられる歳月に、少しく感慨を覚えてしまう。歴史を学んでいた時は、半世紀というと随分長く様々な出来事があるように思えていたのに、正に自分がその流れのなかに居ると、五十年と言う歳月は、何かさり気なく過ぎて行くような気がする。年号が変わり、社会主義の象徴だったあのソ連が崩壊し、東西ドイツが統合され、一ドルが三六０円でなくなり、関東大震災の如くの阪神大震災を目のあたりにし、歴史的にはかなり大きな時代を過ごして来たのかもしれない。ワープロやパソコンの出現で、社会の常識や価値観、人々の心が大きく変化し、第二次世界大戦後の日本の価値観の変化や、人々の戸惑いと同様なのではないかと思う。学生時代母に、「何故、戦争になるまで分からなかったの……………　」と尋ねたことがあった。母は「知らないうちになっていたの」と第二次世界大戦後の始まりを答えていた。その時は、その答えに不満を覚えたものだったが、年を重ねた今、その言葉が実感させられる。歴史は毎日の営みの積み重ねで、正にその中に在ってはきづけないものだと思う。私達は、気付かないで時代を変化させていく。歴史となっていく。夢中で日を暮らして来ただけで、何もしてきていないようなのだが、社会を構成してきた一分子として、今の時代に、そしてこれからの時代にも責任を感じてしまう。次の世代を育てる親として私達は、ちゃんとやれているのだろうか。「戦争を知らない子供達」と時代を謳歌していた青春時代の私達に、母達が感じていたギャップと、私達が見ている今の子供達に感じるギャップは同じ程のものなのか。かなりの不安を覚えていまう。今、正に評価が出される時が始まる。五十年と言うのは、そんな時なのかも知れない。
成り行きで結婚してしまい、学生気分の抜けないまま二人の子供の親となり、振り返ってみるともう二十五年も一緒に暮らしている。夫と私の時間も四半世紀を迎える。お互いによく持ったな－という感がある。ちょっと前までは不良をしていた夫だが、今はごく真面目なゴルフ好きのサラリーマンとなり、遠目には昔と変わらぬ形容を保っている。年より若く見られるとの当人の弁だが、その通りだと思うけれど、年を重ねた渋さがないともいえる。娘と、今流行の友達親子をしている私だが、そろそろ始まりそうな更年期障害の影に密かに怯えている。パート勤めの銀行もかれこれ十年になり、子供が大きくなったこの頃は、それを元手にコンサートに興じている。娘は花の二十二才。かっての私より働き者で実行力のある子だけれど、女を捨てている所が惜しい。息子は、二十才の大学二年生。学生生活を謳歌している彼の姿に、昔の自分を重ね合わせてしまう。どちらに似たのか突然変異なのか、スポーツが得意で随分楽しませてもらいました。「かあちゃん、プロ野球の選手になるからな。期待していいよ」と豪語していた言葉を信じて（？）応援してきたけれど、甲子園もあと一歩という所で届かず、「何も知らない子供の時は何でもいえたよな」との言葉に、ドラフト指名のインタビューされたい母の夢は遥か彼方へと去ってしまった。でも、まあいいわ、お陰でなかなか出来ない体験をさせてもらい、素敵な友達にもめぐりあわせてもらった。何よりも子供と一緒に夢を追いかけることができ、楽しむことが出来た。同じ思い出があると言うのは有り難いことです。
娘がこの春大学を出て社会人となったのを機に、息子への仕送りが勿体ないからと、皆が一緒に住める西葛西にこの夏越しました。夫の通勤の便と子供達の便の良さでこの地を選んだのだが、思った以上の快適な住み心地に、今ワクワクしている。
両親が早世したので、何となく母の亡くなった四十六才を人生のメドに考えていた私だが、その年を三年も越えて、今、おまけをもらっているようで、これからの人生がどの位あるか分からないけれど、この地を拠点に楽しめるだけ楽しんで見たい！
伊藤さんに「何でもいいから」と下駄を預けられてどうしていいか分からず困り果ててしまった。息子が高校時代にはせっせと手紙を書いていたけれど、人様の目に触れる文章など久しく書いていないので、気遅れがした。従って、散逸なものとなってしまったけれど、五十路を迎える今の私を知ってもらえれば、「まあ、いいか」と言うところです。

通　心　第３０号　１９９８、１０、５

初秋の候、会員の皆様にもお変わりなくお過ごしの事と存じます。『通心』もついに三十路を迎えました。第１号発行から早くも１０年の歳月が過ぎ去ろうとしています。単純計算しますと年３回の発行ペースということになりますが、ここ２、３年ちょっとペースダウンしています。でもそれはそれでいいのではないでしょうか。無理ない所で息長く続けることができれば………

ところで、今回は「広瀬　ともみ」さんの『通心』をお届けします。届けられた原稿にこんなメッセージが同封されていました。

「今年の夏は図書館司書教諭の資格を取りに大学に通いました。職場は厳しく、ワープロをやっと覚えたと思ったら、今度はパソコンです。また苦労しなければなりません。クラスも大変です。でもこれらと面と向かっていかなければならないと思っています。新しい波が次から次と押し寄せてくるのが世の常ですから。」

相変わらず元気一杯で頑張っている広瀬さん（旧姓小平さん）の姿が思い浮かぶようです。

❅　❅　❅　❅　❅　❅　❅　❅

「近況報告」

筆者：広瀬　ともみ

今年の三月ごろ、伊藤さんから『通　心』に載せる文を書いてほしいと頼まれました。「春休みに書くね」と気楽に返事をしたものの、忙しく連休中もできなく、とうとう夏休みも終わりそうです。そこで「えいやっ！」と気合いを入れて書き始めました。（この文は病院の待合室の椅子の上で書いています。………８９才の義父を毎日病院に連れていっている関係上）

５０才、考えてもみなかった年齢です。まるで学生時代が昨日のように思われます。後ろを振り返る余裕もなく、ただ前へ前へと歩いて来たような気がします。そして今考えると学生時代の自分は自分勝手でわがままな人間だったなあと思います。職場は私にとって大学でした。人間関係や知識を学んでいくことができました。職場のなかで私は鍛えられたなあと思います。

大学を卒業後一年間浪人をし、翌年千葉県の小学校に就職しました。（中学校からも採用通知が来ました。良い時代だったのだと思います。）　朝日新聞に１０日も批判記事が載るくらいの有名校です。確かに先生や子供の体育のレベルは高くそろっていました。夏休みもなくお盆に有給休暇を取って田舎へ帰りました。プールやペンキ塗り、植木の枝おろしです。切った枝は校庭の真ん中に積み上げてガソリンをかけて燃やしました。夜はアジア・アフリカ研究所の研究生となって勉強しました。マルクスの資本論、「家族、国家、私有財産の起源論」、レーニン、孫文、トロッキー等の各民族論、「国家と革命（レーニン）」経済論、教育論等でした。二年間週一回通って卒業しました。国立大や私立大の講師となっていく人もいました。そういう人は大学院を卒業していたのでそちらで実力をつけていたのでしょう。フルブライト留学生の募集も来ていました。レーニン、トロッキー、スターリン、毛沢東等多くの人が民族論を書いていますが、ヨーロッパや中国は多くの民族をかかえていたので民族問題で頭を悩ましていたのだと思います。

仕事の方はあまり一生懸命やりませんでした。組合の人は仕事を一所懸命する人のことを「体制側だ」とか「学校側だ」といいました。それを鵜呑みにして本当にそうだと思ったのです。そう思ってしまったことは自分自身に責任がありました。結果、二年後「仕事をしなくても良い」と言われて一年間仕事がありませんでした。そこだ東京都を受け直し、東京に入りました。現在は町田市の学校に勤務しています。児童は都営住宅や普通のマンション、一戸建てなど様々な家庭から通学してきています。アジア・アフリカ研で学んだこと、教育学の本（『教育と階層』）で学んだことは本当でした。低所得者が上級へ進学するのは困難なのです。一年生を受け持って「こんなに差があるのか」とびっくりしました。遺伝というよりは「他からのはたらきかけの不足」だと思わります。多くの国民はこの事を知っているのだろうかと思いました。また、私は働くことによって、「貧富の差」を実感しました。犯罪も聞きました。劣悪な条件下に置かれても、子供達はそれを乗り越えていってほしいと思います。（あなた達が大きくなる頃には「もっといい生活があるのだ」ということをわかってもらうために、わたしたちも一緒に頑張るから）

私は今、２１才の長女と１６才の長男、主人、８９才（１１月で９０才）がいます。長女は真ん中くらいの高校しか入れませんでした。このままでは短大くらいしか進学できないと思って数学者のところへ指導をお願いしました。そこは湘南高校やフェリス女学院（神奈川県で有名な高校）の生徒が勉強にきていました。結果、薬学部はみんな落ちましたが、工学院大学工学部に合格しました。数学者の先生にも「よく伸びたなあ」といわれました。

私達が東洋大学に入学したとき、「私達が頑張って東洋大学のレベルをあげよう」とみんなで頑張りましたね。「他の大学の人達がやらなくても私達が職場に出て成果をあげよう」と頑張りましたね。同じように長女にも頑張ってもらいたかったのです。県立高校であっても私立高校以上の成果をあげてほしいと願ったのです。偏差値教育に流されてほしくなかったのです。それをみて今の高校生に「どうせ自分の高校なんか」と諦めないで頑張ってほしいのです。「ほら、やればできるんだよ」と泣いている人に希望を持ってもらえるように私も長女も頑張りました。元戸山高校（都立高校ではトップクラスの高校）の先生が真ん中くらいの高校に異動してきたとき、生徒が「どうせ俺なんか」となげているというのです。戸山高校半分以下の生徒よりも素質がありながら、「どうせうちの子なんか」と親も子も本人の人生を投げているというのです。どこの高校も同じですよ。諦めないで………と思います。私達が東洋大学でも諦めなかったように子供達一人一人、その場所から伸びていってほしいと思います。

長女は大学一年の夏休み一ケ月ほどニューヨーク大学に行って来ました。ニューヨークの街のがっしりとした造り、多人種、ニューヨーク大学の職員（世話をしてくれた）が英語はもちろんのこと、ポーランド語、ロシア語、フランス語などを話せること、国連を見学したとき説明してくれたのがスウエーデン人であったことなど驚くことが多かったようです。翌年（二年の時）は、モスクワ経由でギリシアに二週間行ってきました。今年は三週間ローマとギリシアに行くそうです。

私の主人は胃癌で、胃と膵臓と脾臓を取りました。今年で６年生存することができました。毎日主人のためにお弁当をつくっています。長女は奨学金をもらうことができました。

学校は今大変です。いつまで続けられるかわかりません。もしかして辞めるかもしれません。でも現在は精一杯頑張っています。

８月１７日午後、部屋の気温は３４度です。首にタオルを巻いて汗をだらだら流しながらワープロをたたいています。みんなに会いたいなあと思います。みんな元気でね。きっといいことあるよ。また会えるその日までそれぞれの場所で頑張ろうね。

通心

No31

2000.6.20

夏つばきの白い花が、梅雨のうっとうしい気分を、和ませてくれます。

皆々様、如何お過ごしでしょうか。

まずは、「通心」の発行が、暫くぶりとなりました事を、お詫び申し上げます。

私達も50歳代に入りまして、人生の節目を迎え、皆様も、様々な心境でお暮らしのことと思います。

私も子供達が成長し、次々と巣立っていく中、ここ数年親たちを、見送る立場になりました。

そして、体力、気力とも衰えを実感し、否が応でも、これからの人生を考えざるを得ない年頃になりました。

先日石川さんから、「今日は優子（星さん）の十年忌だよ」とお電話を頂きました。私は既に10年という思いと今日までの自分の10年を考えてしまいました。

大学卒業後30年経とうとしています。「通心」を読むたびに、みんなそれぞれの生き方で、暮らし、がんばっているのだと勇気をいただいています。

今回は、小沢（富樫典子）さんです。ちっとも変わらない彼女に久しぶりにお会いして、とてもほっとしました。

いとう

通心

No31　小沢典子

２０００年最初の「通心」をお届けする栄誉にあずかりました。
専業主婦として変わりのない日常生活を送っています。去る２月に京都へ旅行に見えた伊藤章子さんにお会いしたのが運のつきか、原稿を送る約束をしてしまいました。

卒業以来、歴史とは係わりのない生活で１年に１度秋の正倉院展に行くだけでした。昨年５月に京大の公開講座で古文書の講読会に参加し、その後京都総合資料館歴史資料課でも古文書の講読会を開催しているのを知り何回か参加してみました。またこの３月に古文書講習会として連続３日間１０時から４時までという日程でしたがそちらも初めて参加してきました。テキストを前に唖然としました。３０年のブランクは大きいもので初心者マークが欲しかったです。午前中は全体での講演会で午後は中世・近世近代・入門のコースに別れての解読でした。私は中世を選択したので東寺百合文書が多かったです。私には解読できない部分の方が多かったのですが刺激を受けまた有意義な時間を過ごせました。この古文書講習会ですが、今回が３０回目でしたが、いただいたテキストの中に今までの講演・講義の記録が添付されており、その中に第３回昭和４７年に「わが国古文書における東寺百合文書の地位」というテーマで宝月圭吾先生が講演なさっていらっしゃいました。お名前を見つけてとても懐かしく思いました。私たちが卒業した翌年になります。お元気に活躍なされていた頃でしたのでしょう。

また　各地でも歴史史料館・民族資料館などで講座が開かれていると聞きます。京都でも他の美術館や大学でもいろいろな講座を設けているようですね。まめに広報や新聞記事をチェックしてまた興味深い講座を見つけていこうと思っています。それにしても参加人員の多いのには驚きました。特に年配の男性が多かったです。私などは時間ぎりぎりに飛び込むのでいつも後ろの席になるので一度早めに受付時間に合わせて行ってもすでに行列・・・あきらめてまた間際に行くことにしました。
「通心」をお読みの方の中で歴史方面また博物館関係のお仕事をなさっている人もおいでと思いますので私みたいに思いつきで講座に参加したのを報告するのもどうかと思いましたが図々しく書いてしまいました。

以上の報告を「今年も桜が満開となりました」という出だしで書く予定でしたが「若葉の美しい季節」も間に合わずとうとう「もうすぐ梅雨入り」になってしまいました。

遅れついでにもう一つのお話しを追加します。
最初に専業主婦と書きましたが５月に３週間ほどアルバイトに行きました。外に働きに出たのは、結婚して初めて２２年ぶりでした。
仕事先は京都市立美術館　岡崎にある平安神宮の大鳥居の東側の古いというか重厚なあの建物です。市のアルバイトで常設展の監視と出改札の手伝い、簡単に言うと会場で隅に座って見渡している人です。はじめは元気だったし、気楽に考えてましたが体力的に段々しんどくなってきました。肩に力をいれているつもりはなかったのですが、知らず知らずのうちに入っていたのですね。最終日の一日前帰宅したら肩が重く首の後ろが痛くギブアップしてしまいました。この仕事に関して夫には疲れたと言うまいと思っていましたがダメでした。疲れた・動けない・・
情けなくも言ってしまいました。夫いわく毎日毎日気楽にしていたのに急にフルタイム（８時半から５時）で出掛けたら疲れるよ。ストレスからくる肩こりだ、とのことです。やはり５０代になっての仕事は大変でした。なんとか一回目は無事終了、また７月後半から３週間決まっていますので今度は乗り切れるつもりでいます。
健康の有り難みと時間の大切さを痛感しました。
家庭と仕事を両立させている方、すごいなと今頃になって感心しています。今はまたもとの生活に戻って怠惰に過ごしています。

それからもう一つお知らせします。今、京都府立堂本印象美術館でボランティア活動をしています。月１・２度監視の手伝いをしていますが、今年の秋多分１０月頃と思いますが日本橋の高島屋で堂本印象展が開催されると聞きました。印象は京都出身の日本画家で独特の世界を展開しています。正式な日付や名称は、まだわかりませんがお心に留め置かれ興味が有りましたらどうぞお出掛けください。

やっと伊藤さんとの約束が果たせほっとしています。